



福島県立博物館

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 TEL0242(28)6000

福島県立博物館

令和元年度

年報 第34号

福島県立博物館

ごあいさつ



令和2年4月、3代目館長として着任しました。世の中は新型コロナウイルス感染症による混乱の下にあり、集客施設を預かる者であれば例外なくその対応に追われる時期でした。

4月から5月にかけて、感染防止対策としての臨時休館を行いました。国や県による対策基準を踏まえ、コロナ禍における博物館としてできることできないことを学芸員との話し合いにより整理する一方、YouTubeチャンネルの開設など未経験の分野にも果敢に挑戦しました。この間、そんな学芸員たちの底力、ポテンシャルの高さを垣間見て、多少のイレギュラーな事象であれば動じることなく切り抜けられると感じた記憶があります。

ウィズコロナやアフターコロナという言葉があります。新しい生活様式に慣れ、在宅勤務やオンライン会議など新たな勤務手法の経験などを通して、コロナ禍は結果的に、我々の日頃の生活、仕事への意識や姿勢を、良い意味で少しずつ変えていくようにも思います。

令和元年度は新天皇即位という時代の大きな節目でした。令和の出典を知って万葉集を手にとってみたり、昭和が遙か遠い時代になってしまったと、やや感傷的になったこともありました。

このコロナ発生の前年の年報を眺めると、実に様々なことに取り組んできたことを改めて実感します。総合展示室、部門展示室における、常設展、テーマ展、ポイント展、さらに企画展示室における大規模な企画展、特集展と、来館者にいかに満足いただけるかを念頭にスタッフ一丸となって汗を流してきました。展示は学芸員の日頃の調査研究のアウトプットとしてとても重要なものです。また展示解説や講演、体験講座など館内で参加者と触れ合いながらの催事も数多く実施し、さらには小学校等へ学芸員が赴くゲストティーチャーなど博物館の外で活動する機会も多くなりました。学芸員や展示解説員による暖かみのある努力とその成果がここに掲載されています。

今は、新型コロナウイルス感染症対策のため、残念ながら同様の取り組みができず、非常にもどかしい思いをしております。状況の変化に応じながら、様々な制約を設けて安全を確保し、今できる最善のことを日々考えて進めています。来館された皆様の満足そうな様子や、皆様からいただく笑顔や言葉は、博物館を運営する我々にとって大きな励みです。ポストコロナ社会における博物館像を模索しながら、皆様に「博物館に行ってみよう」「また行こう」と感じてもらえる取組みを、これからも続けてまいります。

令和2年12月

福島県立博物館長 鈴木 晶

トピックス

赤坂憲雄館長 ご勇退～博物館と地域とともに歩んだ17年

当館第2代・赤坂憲雄館長は、初代・高橋富雄館長のあとを受けて平成15（2003）年4月に着任され、令和2年3月31日をもってご勇退されました。在任期間は高橋富雄初代館長と同じく、17年間の長きにわたりました。『博物館だより』136号の「館長退任にあたって 心からの感謝をこめて」にもあるように、博物館活動のみならず、地域と積極的に関わりながら、多くの人々とともに文化と芸術をエンカレッジし続けた17年間でした。



「美しき刃たち」展 開幕式にて
(平成30年7月13日)



「興福寺と会津」展 開幕式にて (令和元年7月5日)



子守歌コンサートにて西館好子氏と
(令和元年10月19日)



子守唄コンサートを見守る赤坂館長
(令和元年10月19日)



館長講座にて 玄侑宗久氏と
(令和元年7月19日)



最後の館長講座にて
(コロナ禍で無観客収録、令和2年3月19日)

心からの感謝をこめて

赤坂 憲雄



十七年間、館長という職を務めた福島県立博物館を離れることになりました。たしかに感慨深いものはありますが、悔いといったものはなく、安堵の思いのほうが強いかもしれません。激動の時代でした。経済が低迷するなかで、博物館とかがぎらず文化施設はどこも厳しい予算削減の波に洗われ、運営基盤が揺らぎはじめていました。いずれ、県直営の施設にも管理委託という制度が導入されるかもしれない、という声が聞こえてきました。そして、東日本震災に襲われると、もはや博物館の使命や役割は大きく変わらざるをえないことが、誰の眼にも明らかになりました。翻弄される日々であったかと思えます。

二〇〇三年四月、わたしは佐藤栄佐久知事(当時)にお声がけをいただき、博物館という未知なる世界に足を踏み入れました。そのとき、わたしはまったくの素人にすぎず、館長という役割がなにを意味しているのかすら、およそ理解していませんでした。そもそも館長とは呼ばれていても、名誉館長のようなもので、これといって特別な仕事はありませんでした。どうやら予算や人事にかかわる権限は皆無であることには、ずっと後になって気づきました。

それなりに大きな組織であり、全貌らしきものはなかなか把握することができませんでした。だが、どこで、どのような議論を重ねて、企画や運営の方針などが決められているのか、それが見えませんでした。おそらく、予算が潤沢にあり、それぞれに専門性にプライドを持つ学芸員たちが運営の現場を固めていましたから、阿吽の呼吸ですべてが動いていたのでしょう。しかし、博物館を取り巻く状況は流動化し、激変しつづありました。それなのに、公共の文化施設としての将来のあり方といったものを議論する場はありませんでした。そこで、わたしは怖ず怖ずと、すべての学芸員スタッフが集まって議論をする場をつくりたいと提案しました。そうして学芸員会議が生まれて、それはいつしか福島県立博物館の合議と意思決定の場になっていきました。わたしははじめて、博物館の運営と管理にかかわる大きな流れが透明化されるきっかけができて、ホッとしたものです。

それから、公共施設として外部からの評価認定を受けられるように、福島県立博物館としての使命を明らかにし、中期目標を定めて、評価実績を検証する制度をつ

くることを提案しました。それはスタッフの尽力によって形になりました。職人的に能力が高い学芸員が揃っていたのです。あるいは、予算がいつの間にか半減の状態となり、もはや資料の収集・調査研究・展示という博物館活動の基本的なプロセスすら維持できなくなり、避けがたく外部資金の導入に向けての模索が始まりました。これはしかし、それまで県博の活動のすべては県の予算でおこなわれてきたから、なかなか理解されませんでした。しかし、やがて特別展の開催すら困難となり、県の内外の施設との提携、文化庁による助成金その他、さまざまな外部資金の導入が当たり前になっていきました。逆にいえば、外部とのさまざまな繋がりを持たなければ特別展示がおこなえない状況が生まれたのです。結果として、若い学芸員が企画を立てることがむずかしくなり、経験の継承と教育のシステムが弱体化してしまいました。見えないところで、博物館という場所は変容を強いられてきたのです。

リニューアル問題が懸案のままに残されていることは、気がかりです。しかし、それは若い世代に託すしかありません。もはや、豊かな時代の成功体験は通用せず、ようやく見えてきた、地域に開かれた、地域の人々とともに創る学びの広場といった博物館の将来像に向かって、それぞれの現場から創意工夫を凝らして突き進んでゆくしかないのです。

それにしても、福島県立博物館の館長という職は、専門性と技能を有する学芸員にたいする敬意と信頼のうえに、かれらの思いと活動を支え、最終的な責任だけは取る、あくまで名誉館長なのだと理解するようになりました。十七年前の春に、館長職の引き継ぎのためにお会いしたときに、高橋富雄前館長からいただいたメッセージが、まさしくそれに尽きていたことをいまになって思いだしています。

福島県立博物館は離れますが、いましばらくは会津で文化や芸術にかかわる仕事を続けてゆきたいと願っています。外からは、この博物館はどのように見えるのでしょうか。県民の皆さんから、いかなる博物館であることを期待されているのでしょうか。福島県立博物館がいまよりもっと広く、深く、福島の人々に愛される博物館になることを、心より願っています。そのためにも、広やかな世界に向けて感度のいいアンテナを立てられることを。

最後になりましたが、厳しい環境のなかで、ともに福島県立博物館を支えてくださった館の内外のみなさんに、そして、なによりもこの博物館を愛し応援してくださった県民のみなさんに、心からの感謝の思いを伝えさせていただきます。ありがとうございました。

二〇二〇年三月

福島県立博物館館長 赤坂憲雄

目 次

ごあいさつ

トピックス

目次

福島県立博物館の使命と活動方針	1
福島県立博物館第3期中期目標	3
1. 重点目標	3
2. 数値目標	5
3. 令和元年度末までの進捗状況について	6
I 事業の概要	7
1. 資料収集事業	7
(1) 収集展示委員会	7
(2) 受贈・受託	7
(3) 購入	8
2. 保存管理事業	8
(1) 資料の収蔵	8
(2) 登録・整理	10
(3) 貸出	11
(4) 保存管理	12
3. 展示事業	13
(1) 常設展示	13
(2) 企画展示	16
(3) 特集展	24
(4) 指定文化財の公開	27
(5) 展示解説	27
(6) 体験学習室	29
4. 調査研究事業	31
(1) 展示資料調査研究	31
(2) その他の調査研究事業	33
(3) 職員の研究活動	33
5. 教育普及事業	37
(1) 講座・講演会	37
(2) けんぱくミュージアムイベント	44
(3) 学校・文化施設との連携	45
(4) 生涯学習・研究支援	53
(5) 博物館友の会活動への支援	55
6. 広報公聴活動および出版事業	57
(1) 広報活動	57
(2) 公聴活動	63
(3) 出版事業	63
7. 文化財・自然資料レスキュー	64
(1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー	64
(2) 令和元年東日本台風（令和元年台風19号）に伴う 被災文化財等レスキュー	66
8. ふくしま震災遺産保全プロジェクト	67
(1) 震災遺産保全チームの組織	67

(2) 震災遺産の調査・保全	67
(3) 他団体・他機関との連携・協力	67
(4) 成果公開	67
9. ライフミュージアムネットワーク	68
(1) 事業趣旨	68
(2) 組織	68
(3) 実施期間	68
(4) 助成	68
(5) 事業内容	68
10. 連携事業	70
(1) 磐梯山ジオパーク推進事業	70
(2) ふくしまサイエンスぶらっとフォーム	71
(3) 福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyo	72
(4) ふくしま歴史資料保存ネットワーク	73
(5) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会	73
(6) ばんえつ発見の旅サポート連携事業	74
(7) 県内博物館PR事業「行こう！ふくしまの博物館」	74
II 管理運営	75
1. 組織・職員	75
2. 予算	76
3. 運営協議会の開催	77
(1) 福島県立博物館運営協議会	77
III 利用状況	78
1. 入館者統計	78
(1) 令和元年度入館者統計	78
(2) 入館者の推移	79
(3) 企画展入館者統計	81
2. 出版物販売	84
IV 法規	86
福島県立博物館条例	86
福島県立博物館運営協議会条例	87
福島県立博物館条例施行規則	87
福島県立博物館組織規則	91
福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	92
福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	92
福島県立博物館資料所在調査要領	93
福島県立博物館資料調査員設置要綱	93
福島県立博物館友の会規約	93
V 施設の概要	95
1. 建築概要	95
2. 設備	95
3. 平面図・各室一覧	96
4. 施設の修理・改築	98
5. 沿革	99
VI 利用案内	101

福島県立博物館の使命と活動方針

平成19年7月公表 平成25年4月・平成26年6月・平成28年3月・平成31年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。博物館をとりまく社会情勢が変化の中で、多様化する要請に配慮しながら、社会に対する当館の責務を使命として明示し、新しい時代の博物館として目指すべき活動方針をとりまとめ、その内容を公表します。

◆使命

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故は、福島県に大きな被害を及ぼしました。博物館では、この震災を契機として、従来からの活動に加えて、新たな試みを始めてきました。それらを、未来に向けての取り組みとして定着、発展させてゆきます。

これらを基本に、福島県立博物館が担う3つの使命を掲げます。

I ふくしま発見 博物館

ふくしまの歴史・文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、利用者の皆さまとともに、地域文化の価値を学び、新たな文化を創り出します。

II 出合いふれあい 博物館

文化の多様性を尊重し、地域とすべての人に開かれ、人と人々が自由に交流し語り合える博物館を目指します。そのために、皆さまの心の拠り所となり、自ら学び体験できる場を創出します。

III 明日に向かう 博物館

震災の継承や博物館相互の連携強化を軸にした未来志向の取り組みを通して、発信力のある力強い博物館を目指します。災害や社会情勢の変化に対応し、行政や文化施設・諸団体と連携して、様々な課題に取り組みます。

◆活動方針

使命を果たすため、以下の10項目の活動を実践します。活動方針に沿って、とくに重点的に進める具体的な目標は、期間を定めて策定する「福島県立博物館中期目標」として公表します。

〈 使命I「ふくしま発見 博物館」関連 〉

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を表す歴史・文化遺産と自然史資料および震災遺産を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。資料情報はデータベースとして整備し、可能な限り公開・活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。地域の課題と関係したテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示・講座

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できるようにします。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、ニーズに応じて、さらに詳しい情報を準備し提供します。

〈 使命II「出合いふれあい 博物館」関連 〉

4. 楽しめて出合いのある場の創出

居心地がよく、いろいろなことを体験・創造・表現できる博物館を目指します。人と人が出会う文化的なコミュニケーションの場を設けます。未来を担う子どもたちとともに文化の創造力を育みます。

5. 利用者との協働

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館を運営します。幅広く館外からの協力を得ながら、誰にも開かれた博物館の事業を推進します。博物館の機能を生かした事業の実施を利用者の皆さまとともに目指します。

6. 博物館情報の公開と発信

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、時代の変化に応じた効果的な広報活動により展示など館活動の情報を広く伝え、博物館イメージと認知度の向上を図ります。

7. 地域連携とネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換・共同研究や利用者への相互紹介、事業の共同実施を行います。会津という観光地に立地することを踏まえ、地元会津の市町村や文化・観光施設・団体等と連携、協働し、新しいタイプのニーズに対応できるよう努めます。

〈 使命Ⅲ「明日に向かう 博物館」関連 〉

8. 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承

東日本大震災による多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくため、震災に関連するモノと震災を示すバシヨの資料化を行い、常設展示による公開とともに広く利活用することを目指します。

9. 新たな博物館の役割・機能の創出

これまでの博物館活動による蓄積を基盤にしつつ、自由な発想によって博物館の役割や機能を拡張していきます。博物館ならではの新たな広がりのある活動を検討することで、社会の課題やニーズに向き合います。

〈 3つの使命に共通する基盤として 〉

10. 管理運営

利用者の安全確保と快適性に配慮し、施設や設備を保全します。優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

福島県立博物館ではその使命を果たすため、活動方針に沿った重点目標を設定し、5年計画での「福島県立博物館中期目標」を策定しています。当館ではこれまでも、具体的な活動計画を第1期中期目標（平成21～25年度）、第2期中期目標（平成26～30年度）として実施してきました。重点目標の達成・実現を目指して年度ごとに計画を定めた上で年度終了後は実績・自己評価をまとめ、年報やホームページなどで公表しています。

令和元年度は、平成31年3月に改正した新たな「福島県立博物館の使命と活動方針」のもと策定した、第3期中期目標の1年目として事業を実施しました。

1. 重点目標

使命	活動方針	重点目標	実現方策	令和元年度の計画	令和元年度実績・自己評価	
I ふくしま発見博物館	1 地域の文化遺産の収集と継承	① 検索が楽しめるデータベースの構築と公開方法の改善	現データベースを基盤に、新たにテーマ型データベースを構築し、知的好奇心を喚起させるアクセスしやすい収蔵資料情報整備し、試行する。	既存公開データベースの運用上の課題や利用状況を把握し、テーマ型データベースの設計を検討する。	テーマ型データベースを導入している他館の情報を収集した。	
		② 図書利用環境の整備	図書配架スペースを確保し、図書利用環境を整備する。 図書データベースを一般公開し、運用ルールを策定した上で一般来館者の図書利用を試行する。	図書室における図書配架の現状把握と新たな計画を策定する。	図書室2Fにおける物品配架の現状をほぼ把握し、2Fの整備利用計画について構想した。	
		③ 資料の安全な保存	適切な情報取得と情報共有をもとに、適正な保存環境を維持する体制を確立する。 保存環境モニタリングの情報取得方法・内部共有システムをバージョンアップするとともに適正に運用する。	情報共有の場となる会議を設けて、課題を抽出し、リスクアセスメント計画を作成する。	空気環境調査の結果について館内で共有し、適切な収蔵庫環境を構築するために空調機器・設備の現状を把握し、機器更新及び改修の方向性について検討した。	
	2 最新の研究による新たな資料価値の発見	④ 多様な連携による新たな研究活動	地域の歴史・文化や自然遺産に関する学術研究を推進するため、多角的な視点と最新の研究手法が共有される新しい研究プロジェクトを自治体や大学・研究機関などの外部組織と立ち上げる。 その中で主体的かつ連携を強化する役割を果たして効果的な研究活動を実践する。 特に新たに博物館資料に位置付けられた震災遺産の調査研究を推進し、博物館活動における災害史領域の普遍化を目指す。	共同研究組織を立ち上げたり、特定の研究課題組織に参画するなどして、学芸員の専門性を生かした役割を果たし、研究成果を公表する。	民俗分野では磐梯町と取り交わした協約書をもとに共同での調査研究事業を進めた。 学芸員個人としても国立歴史民俗博物館の共同研究や明治大学の科研費による研究に参画し、連携した研究を行った。震災遺産に関しては、京都で行われたICOM（国際博物館会議）や専門誌で、これまでの成果を公表した。	
		3 来るたびに発見がある展示・講座	⑤ 何度でも足を運びたい展示づくり	常設展の展示替えや魅力ある企画展の開催により、常に新しい発見のある展示室を構築し、リピーターの増加を目指す。	来館者を常設展示室へ誘導するため、企画展や行事と連動したポイント展・テーマ展を試行する。	企画展や行事等と連動した常設展示室のポイント展・テーマ展を計9回実施した。特に特集展「震災遺産を考える－それぞれの9年－」と連動したテーマ展「山口弥一郎のみた東北」では、アンケートでご好評をいただいた。
			⑥ 博物館の魅力が詰まった新しいスタイルの講座の開催	展示と有機的にリンクしたり、テーマ性をもった多様な魅力ある講座を開発・実施する。	各分野、企画展担当者から挙げられた講座等について、ある程度の統一性や連続性が感じられるよう適正に日程を調整する。	部門展示やテーマ展と連動して講演会・講座を開催したことで、展示と行事の統一性、連続性を生み出すことができた。 また今年度の成果を踏まえ、次年度行事の名称や内容をさらに利用者目線で調整し、統一性や連続性がより創出されるよう工夫を凝らした。
	II 出会いふれあい博物館	4 楽しめて出合いのある場の創出	⑦ 新しい展示ストーリーの検討	将来の展示室改修に備えて、新しい常設展の展示ストーリーを検討する。 新設館など最新の情報を収集し、館外から意見を聴取する機会を設定し、常に最新の構想を準備しておく。	新しい展示ストーリーの検討を開始するとともに、新設館等の情報収集や、来館者モニターができる講座などを試行する。	来館者モニターの試行として、利用指導者研修会の活用を試みたり、会津若松市国際交流協会・語学ボランティアによる展示観覧・意見交換を実施した。
			⑧ 展示室以外の空間の有効活用	展示室以外の空間の活用案の検討と試行により、各フロアの魅力を引き出した、有機的な空間活用を実現する。 来館者が行きたい、過ごしたいミュージアムならではの空間をつくり、運営する。	無料空間のあり方、活用方法を検討し、エントランスホール、相談コーナー、レストランの新たな活用を試行する。	連携交流班において無料空間のあり方や活用方法を検討、オープンミュージアムビジョンを作成した。 試行として体験学習室を主な実践場所と想定し、館内協議・外部ヒアリングも参考に活用案をまとめ、福島県立会津工業高等学校建築インテリア科と連携した木製玩具の製作、当館収蔵資料を活用した撮影スポット設置等として実現した。 エントランスホールは、これまで体験学習室のみで実施してきたこともミニミニ博物館の会場の一部として活用、企画展にあわせてレプリカを用いた撮影スポットの設置など、新たな活用を試みた。 レストランでは、企画展と連動した作品展示等を行った。

使命	活動方針	重点目標	実現方策	令和元年度の計画	令和元年度実績・自己評価
Ⅱ 出会いふれあい博物館	4 楽しめて出会いのある場の創出	⑨ 多様な利用者層に対応したプログラムの実施	人が出会い、学び合い、表現できる場をつくる。年度ごとに対象を定めて効果的なプログラムを計画・実施する。	障がい者に寄り添った学習機会を促進する。	オープンミュージアムビジョンを元に、計画的に支援学校や社会福祉法人、病院等の視察を実施した。視覚障害を持っている方に、当館の展示やイベントに参加していただいたり、当館への意見を頂く機会を得た。それらに基づき、支援学校や社会福祉法人等の団体の利用プログラムを作成、実施した。
	5 利用者との協働	⑩ ボランティアとの協働	ボランティアに関する研修等を受けた館職員が窓口となり、受入体制を整えて、ボランティアを募集する。また博物館とボランティアが協働しつつ、新しい活動メニューを考案し、試行する。	ボランティアを導入している他館の情報を収集する。	インターネットに公表されている他館の情報収集をはじめた。またライブミュージアムネットワーク2019への参画により、同事業の県外リサーチで大阪市立自然史博物館での利用者による自主的な活動、満蒙開拓平和記念館での高校生によるボランティア活動について知見を得た。
		⑪ 利用者の自主的な文化活動支援	博物館を活用した自主的な活動の受け皿をつくり、利用者の学ぶ意欲を促進する。	館の講座等を足がかりに、新しい継続的な学習の形（サークル等）を提案する。	利用者によるサークル活動が活発な他館（十日町市立博物館等）への当館友の会旅行をサポートし、利用者同士の交流の機会とすると共に当館友の会活動の将来の指針を得た。また、防災食などをテーマにする新しいサークルの開設について当館友の会と相談をはじめた。
		⑫ 協働による新たな事業運営の枠組みの構築	利用者との協働による事業運営体制について開かれた検討と試行を行い、共催、後援事業などを含む協働の多様な枠組みを設け、協働の層を厚くする。	協働による新たな事業運営の枠組みを検討し、館内外を対象に意見交換会を開催する。	利用者との協働による事業運営について連携交流班内で協議し、体験学習室を試行の場とする事業案について検討した。他団体との協働や連携による事業運営の枠組みを検討、共催・後援事業の規則を見直し、改定案を作成した。
	6 博物館情報の公開と発信	⑬ 情報の効果的な周知	広報戦略の立案に基づき、当館発行の印刷物・WebおよびSNS・マスコミ・行政の広報媒体等、ツールの特徴を活かした広報により情報周知の徹底を図る。	広報戦略の立案に基づき、WebおよびSNS運用を充実させ、あわせて印刷物の内容を見直す。	TwitterやFaceBookの更新頻度を上げたことに加え、シリーズ化するなど投稿内容の工夫も凝らした結果、大きな反響があり、1,000人を超えるフォロワーも獲得した。また既存の広報誌の紙面や発行回数を見直し、より見やすく、幅広い層に情報が届きやすい紙面を検討した。
		⑭ 親しみやすさと認知度の向上	広報物および掲示物、サインのデザイン精度を上げ、イメージの統一感を図る。様々な視点による多様な博物館紹介を試み、親しみやすさの向上を図る。	掲示物のデザインの統一感の創出を図り、広報物のデザインの検討と試行を行う。博物館の「人」の紹介により親しみやすさの印象を向上させる。	各掲示物に共通した博物館の連絡先等の情報について、考え方の検討をはじめた。さらに共有を行ったうえで「共通情報部分の統一感あるデザイン」の検討を進めていく。『博物館だより』の新任者紹介や、テレビ取材、SNS、新たに始まったラジオ番組などで当館に勤務する学芸員にスポットを当て、当館の親しみやすさの向上に努めた。
7 地域連携とネットワークの拠点	⑮ 県内の各機関・団体との連携による新たな文化活動の創造	当館が県内の文化ネットワークの拠点の一つとしてより効果的に機能することで、既存の連携の活性化や、新たなネットワークを構築する。それらを基盤に、博物館の文化資源を活用し、観光地・会津に立地する特性を活かして、新しい文化活動を創造する。	既存の連携事業の活性化方策を検討・試行し、あわせて新たな連携先（施設・団体等）の発掘と連携方法の検討を行う。	企画展「興福寺と会津」にあわせ、「会津の文化×地域連携プロジェクト」を基盤に会津の仏教文化を観光資源として活かす取り組みを会津若松市、会津若松観光ビューローと行った。福島県博物館連絡協議会の事業の活性化を試み、新たに資料取り扱い研修を実施した。未就学児支援事業「博物館でも読み聞かせ」においてあらたに会津大学短期大学部との連携に取り組んだ。当館無料空間で開始した福島県内文化施設のPR展示では、当館を拠点とした発信を行い、新たな連携を試行した。	
Ⅲ 明日に向かう博物館	8 震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承	⑯ 震災遺産の展示公開と利活用	年間を通して観覧できるように、震災遺産を常設展示する。博物館資料「震災遺産類」の保存・活用に向けて、核となる職員を配置した新分野を確立する。	新分野確立に向けて館内で合意形成する。常設展における震災遺産の利活用の考え方について館内で整理する。	通史の中に東日本大震災を位置づけるための共通理解を図り、震災遺産の常設展示での利活用を検討するため、エネルギー開発や災害史、民俗学的観点から毎月館内研修を開催した。
	9 新たな博物館の役割・機能の創出	⑰ 地域社会の現状への貢献	これまでの博物館活動の蓄積、博物館の可能性を活かしながら、多様性に対応した博物館であることを意識した博物館活動により、博物館の新たな役割・機能を拡張する。博物館ならではの手法で、過疎化、高齢化等地域が抱える課題に向き合い、地域社会の未来に寄与する博物館活動を試行・実施する。	子ども、障害者、高齢者、交通弱者等、様々なタイプの人々に対応した、博物館の資料等を活用したプログラムを考案、試行する。	当館が事務局を務めるライブミュージアムネットワーク実行委員会主催のライブミュージアムネットワーク2019に参画する中で下記の実績を得た。ソーシャルインクルージョンをテーマとしたオープンディスカッションを開催。障害のある方にとってミュージアムが利活用しやすい場であるための議論を行った。当館を発着とし奥会津地方のミュージアムをめぐるスタディツアーに視覚障害のある方にご参加いただいたことにより、視覚障害のある方によるミュージアムの利活用の課題を検証し、次年度のプログラム開発につなげる素地をつくった。
	10 管理運営	⑱ 施設の安全で快適な環境整備	入館者が安全で快適に利用できるように、施設・設備の点検結果に基づいて、危険箇所・不良箇所を改修するなど、適正な施設の維持管理に努める。バックヤードに耐震対策を施し、利用者及び職員の安全を確保する。	避難訓練にあわせたバックヤードでの安否確認の実施と、図書室からの避難経路への資料落下を防ぎ、安全確保を行う。	6月18日に、会津若松消防署の協力を得て、AED操作研修と自衛避難訓練を行うとともに、避難経路の安全確認を行った。また、自動火災報知器設備を更新するなど、設備の老朽化対策に努めた。

2. 数値目標

(1) 利用者数

	第2期	第3期					説明
	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (目標)	令和3年度 (目標)	令和4年度 (目標)	令和5年度 (目標)	
①館内事業 利用者数	125,628 (90,000)	120,376 (90,000)	(90,000)	(90,000)	(90,000)	(90,000)	常設展・企画展・移動展など 展示への入場者、講座・ 講演会など行事への参加者 ()は目標値
累計利用者数	4,715,113	4,835,489	—	—	—	—	昭和61年の開館以後の累計
②館外事業 利用者数1	2,571	1,823	—	—	—	—	職員の講師派遣・ゲストテ ィーチャーなどアウトリー チ事業への参加者
③館外事業 利用者数2	363	547	—	—	—	—	当館が構成団体になってい る組織(実行委員会・協議 会など)が主催し、当館職 員が主体的に関わった行事 などへの参加者
②③合計	2,934	2,370	—	—	—	—	
①②③合計	128,562	122,746	—	—	—	—	上記①②③を合計したもの

利用者の内訳 ※ () 内の数字は実施回数

		28年度	29年度	30年度	令和元年度	
①館内事業 利用者数	常設展	43,727()	42,028()	52,446()	48,007()	
	企画展	2,955(1)	16,513(4)	54,960(4)	54,629(3)	()内は、企画展の回数
	無料入館者	14,391()	12,922()	18,222()	17,740()	当館主催の行事等への参加者 数、特集展の入場者数など
	合計	61,073()	71,463()	125,628(4)	120,376(3)	
②館外事業 利用者数1	学校派遣(ゲストテ ィーチャー)	568(7)	757(17)	605(22)	339(7)	県内の小中高校・大学等で学 芸員が実施した授業・講義等 への参加者数 詳細51頁 表参照
	館長出前講座	61(1)	0(0)	0(0)	0(0)	
	講師派遣	1,480(28)	1,589(25)	1,966(34)	1,484(21)	依頼を受けて学芸員が講師を 務めた講演等への参加者数 詳細54頁 表参照
	合計	2,109(36)	2,346(42)	2,571(56)	1,823(28)	
③館外事業 利用者数2	ふくしま震災遺産保全 プロジェクト	17,916(37)	0(0)	0(0)	0(0)	平成28年度で実行委員会が終 了したため、29年度以降は① ②として集計
	はま・なか・あいづ文 化連携プロジェクト	4,989(43)	19,549(33)	0(0)	0(0)	平成29年度で実行委員会終了
	ライフミュージアムネ ットワーク			207(7)	265(15)	平成30年度から実行委員会 詳細69頁 表参照(うち館内 で行ったフォーラムの参加者 を除く)
	磐梯山ジオパーク事業	134(4)	44(2)	87(2)	77(2)	地質の日ジオツアー・ガイド 研修など参加者数 別表参照
	ふくしまサイエンスぶ らっとフォーム	85(1)	0(0)	69(1)	205(1)	サイエンス屋台村in福島 別表参照
	合計	23,124(85)	19,593(35)	363(10)	547(18)	
②③合計	25,233(121)	21,939(77)	2,934(66)	2,370(46)		

別表

	行 事	実施日	会 場	当館担当職員	参加者
磐梯山ジオパーク事業	地質の日 ジオツアー	令和元年5月7日(火)	北塩原村役場生活改善センター	弦巻	27
	磐梯山ジオパークフォーラム	令和2年2月28日(金)	裏磐梯休暇村	弦巻	50
				計	77
ふくしまサイエンス ぶらっとフォーム	spffサイエンス屋台村in コミュニティ福島	令和元年11月30日(土)	コミュニティ福島	猪瀬 相田 弦巻	205

(2) その他の数値目標 (令和元年度)

項 目	指 標	年間目標	令和元年度実績	備 考
資料情報の公開	件 数	5,000	2,054	詳細10頁 表参照
研究成果の公表	件 数	30	32	印刷物21、学会発表等11
行事の実施	回 数	100	130	詳細37頁 表参照
ホームページ	アクセス件数	430,000	391,990	詳細58頁 表参照

3. 令和元年度末までの進捗状況について

「1. 重点目標」の実績について、今年度は5年後を目指した初年度に当たり、新たな取り組みの出発として、今後の本格的な展開のための準備や試行となる内容が全体的に多くなった。計画通りに進められなかった部分については修正をして、次年度以後の本格的な実施につなげていきたい。

「2. 数値目標」について、「館内事業利用者数」は、とくに夏の企画展の入場者が多かったため、目標値を大幅に超える人数となった。その他の数値目標については、おおむね達成できたが、達成できなかったものが2項目あった。「資料情報の公開」について、目標値の件数に達しなかった理由として、データ整備が比較的簡単な大規模コレクションの公開が前年度までに進み、今年度からは小規模コレクションに移行したためデータ整備に時間を要したと考えられる。「ホームページ」については、前年度までの平均値から算出したアクセス件数の目標値まで達しなかった理由として、当館ホームページを2019年4月26日にリニューアルして公開を開始したことに伴い、それ以後の件数しかカウントできなかったためと考えられる。

I 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授、東京藝術大学客員教授	委員長
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	副委員長
岡田 清一	東北福祉大学名誉教授	委員
原田 一敏	ふくやま美術館館長	委員
柳田 俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
玉川 一郎	福島県考古学会会長	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館教授	委員
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	委員
加藤 幸治	東北学院大学文学部歴史学科教授	委員
角屋由美子	米沢市上杉博物館学芸主査	委員
奥村 弘	神戸大学大学院人文学研究科教授	委員

イ. 会議

令和元年8月2日(金)

議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②令和2年度・令和3年度開催予定企画展等について
- ③使命の改正、第3期中期目標について

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受贈

絵葉書「吾妻スカイライン」ほか	9件	個人
太政官制	3件	個人
旧会津藩士年野家史料等	77件	個人

(イ) 受託

短刀無銘ほか	5件	個人
掛け軸ほか	2件	個人
耶麻郡一ノ戸村御検地配賦ほか	22件	個人
会津暦(寛永11年)	1件	個人

イ. 美術資料

(ア) 受贈

佐野龍雲筆「浦上玉堂先生肖像」ほか	4件	個人
遠藤香村筆「山水図屏風」ほか	8件	個人
貝合わせ蒔絵四段重箱	1件	個人
寺田澤元筆「寿老人図」	1件	個人
遠藤香村筆「鍾馗図」ほか	115件	個人

(イ) 受託

松平定信賛・谷文晁筆「異国船図」ほか	2件	個人
塗鞍	1件	個人
会津増産美術推進隊	1件	個人

ウ. 民俗資料

(ア) 受贈

鋸ほか	41件	個人
プリントゴッコほか	4件	個人
山口弥一郎関係写真ほか	2件	個人
桐ダンスほか	22件	個人
郷土玩具セット「民芸玩具 会津の思い出」ほか	2件	個人
嫁入鞍ほか	6件	個人
助産婦資料ほか	101件	個人
日吉神社祭礼の「手踊」装束	1件	個人
古寺山自奉楽の「奴」装束	1件	個人
七夕馬	1件	個人
葬式用装束	1件	個人
豆炭ほか	20件	個人
行李	1件	個人
米選機	1件	個人
電気炊飯器ほか	4件	個人
こけしほか	11件	個人
雛人形(享保雛)ほか	23件	個人
扇風機ほか	21件	個人
切立ほか	2件	個人

(イ) 受託

紙本著色野馬追図	2件	個人
遠藤香村筆「山伏と二童子絵馬」	1件	古四王神社
獅子頭と腰太鼓ほか	29件	河東町大和田地区

エ. 考古資料

(ア) 受贈

上林遺跡出土遺物	18件	個人
----------	-----	----

下片寄貝塚自然遺物ほか 3件 個人

(イ) 受託

元屋敷遺跡出土品 1件 三島町教育委員会

オ. 自然資料

(ア) 受贈

浅貝層産植物葉化石 1件 個人

岡山県奈義町産化石 1件 個人

福島県広野町折木の足沢層産サメ類化石
1件 個人

枋窪層産植物化石 1件 個人

ホタル石・水晶ほか 845件 個人

双葉層群産二枚貝化石 1件 個人

(イ) 受託

宮古層群産アンモナイト 1件 個人

(3) 購入

ア. 民俗資料

「都道府県別日本の祭り・行事調査報告書
集成ー北海道・東北地方および関東地方」
(全4冊) 1件

食品サンプル(えご、くじら汁ほか) 4件

イ. 自然資料

現生貝類標本(ヤコウガイほか) 106件

ウ. 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野41冊、民俗分野36冊、歴史分野32冊、美術分野4冊、自然分野23冊、保存科学分野29冊、震災遺産8冊、共通20冊
計193冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト

(令和2年3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	民具研究	民俗
4	ナショナルジオグラフィック	共通
5	第四紀研究(第58巻6号(2019)までで 購入中止)	自然
6	ヒストリア	歴史
7	考古学雑誌	考古
8	日本民俗学	民俗
9	信濃	共通
10	ミュゼ	共通
11	史林	共通
12	史学雑誌	歴史
13	歴史評論	歴史
14	地方史研究	歴史
15	日本史研究	歴史
16	日本歴史	歴史
17	歴史学研究	歴史
18	美術手帳	美術
19	芸術新潮	美術
20	国華	美術
21	古代文化	考古
22	文化財発掘出土情報	考古
23	考古学ジャーナル	考古
24	季刊考古学	考古
25	日経サイエンス	自然
26	科学	自然
27	化学	保存科学
28	海洋	自然
29	地球	自然
30	月刊文化財	共通
31	たくさんのふしぎ	共通
32	ニュートン	共通

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、
現在までの累計を示す。件数は概数であり、
「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数

(令和2年3月31日現在)

分野	件数	備考
考古	20,236	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,917	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,322	書籍・文書資料ほか
美術	6,750	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	44,398	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	155	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	107,778	

令和元年度収蔵指定文化財一覧

(令和2年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本着色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	国	重要文化財	考古資料	652	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
9	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本着色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
10	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本着色松平楽翁像	1	幅	館蔵
11	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本着色達磨図	1	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本着色十六善神像	1	幅	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本着色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本着色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本着色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本着色普賢菩薩像	1	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本着色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
19	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本着色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
20	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
21	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
22	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	軀	寄託
24	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
25	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
29	福島県	重要文化財	工芸品	43	法然上人像板木(裏面善導大師像板木) 附 舟板六字名号板木ほか9枚	1	枚	寄託
30	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
31	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
32	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
33	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
34	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
35	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
36	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
37	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双鱼袋金具	2	枚	館蔵
38	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
39	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
41	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
42	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
43	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
44	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
45	福島県	重要文化財	考古資料	48	四穂田古墳出土品	一括		寄託
46	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本着色恵日寺絵図	1	幅	寄託

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
47	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
48	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
49	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
50	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂) 古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
51	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
52	福島県	有形民俗文化財		38	紙本著色野馬追図	2	鋪	寄託
53	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数

(令和2年3月31日現在)

考古分野：27,851冊 民俗分野：5,035冊
 歴史分野：10,789冊 美術分野：4,510冊
 自然分野：17,599冊 保存分野：1,865冊
 震災遺産：93冊 その他：59,828冊
 合計：127,570冊

(イ) 収蔵映像資料数

(令和2年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,374点

また、有償の改修が必要だった一部の登録項目の再構成については、令和元年度に予算が認められたため改修を実施し、以前より入力の労力が大きく軽減された。併せて、これまでローカルシステムで行ってきた帳票・ラベル類の印刷フォームがシステム上に構築できるようになったため、これらの印刷作業にかかる労力が大幅に軽減された。これに伴い、写真の登録についてもローカルシステムへの登録が不要となった。

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバクライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。現在、県教育委員会のFACE を介してインターネットに接続した端末パソコンよりこの資料管理システムを使用中である。

このシステムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、これらの業務にかかる時間と労力が大幅に軽減された。また、旧システムと比較して経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。導入から7年が経過して、資料管理システム本来の目的である資料登録や情報の外部公開が順調に進められるようになり、システムの運用が軌道に乗った。

イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報公開機能を使用してインターネット上で外部に公開した情報の件数も併せて示す。

令和元年度より、博物館中期目標は第3期の1年目となった。この中では資料情報の外部公開件数のみが数値目標として設定されたが、本年度の公開件数は目標値に届かなかった。これまでにデータ整備が比較的簡単な大規模コレクションの公開がかなり進み、残りの資料については公開前のデータ整備に時間と手間がかかることが主な原因と考えられる。

また、情報公開機能の拡充の一環として、第3期中期目標ではテーマ型データベースを構築して公開することが盛り込まれた。中期目標期間内での公開を目指してデータ整備を開始している。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和2年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (令和元年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和元年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	0	12,130	0	3,532
民俗資料類	390	14,860	824	5,232
歴史資料類	17	45,721	700	12,688
美術工芸品類	1	6,230	13	36
自然標本類	431	25,644	517	12,263
合計	839	104,585	2,054	33,751

ウ. ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。また本年度は、インターネットで公開されている情報により他館のボランティア状況を調査した。またライフミュージアムネットワーク2019への参画により、同事業の県外リサーチで大阪市立自然史博物館での利用者による自主的な活動、満蒙開拓平和記念館での高校生によるボランティア活動について知見を得た。

(ア) 自然資料整理

3名の登録ボランティアとともに、作業内容や日程の調整を行い、協働により作業を進めている。なお活動日数については以下の通り。

桑原 功	化石標本整理	11日
星総一郎	化石標本整理	11日
竹谷陽二郎	岩石・化石標本整理	15日

(イ) 古文書整理

登録ボランティアのうち9名が参加し、坂内利子家の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。活動は5月から月1回のペースで行い、令和2年2月までに10日活動した。参加者は五十嵐晴日子、大場美弥子、大堀義子、小関栄助、小檜山裕二、佐藤敏子、鈴木清二、福王寺一元、星弘明の諸氏。

(ウ) 民俗資料整理

民俗資料整理ボランティアとして佐々木長生氏を登録、月例の収蔵庫資料整理日および山口弥一郎調査資料の研究の資料整理日の作業に参加、資料の整理や情報提供の協力を得ている。

(3) 貸 出

ア. 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
慧日寺絵図（当館受託資料） 1幅	大和文華館	令和元年9月～11月	特別展「聖域の美—中世寺社境内の風景」
白河口戦争絵図（当館受託資料） 1点 新選組名簿（当館受託資料） 1点 陣中日誌（当館受託資料） 1点 土方歳三書状（当館受託資料） 1点	日野市立新選組のふるさと歴史館	平成31年4月11日～令和元年7月	特別展「土方歳三没後150年」
会津若松市田村山古墳出土 内行花文鏡（当館受託資料） 2点 会津坂下町森北1号墳出土 珠文鏡（当館受託資料） 1点	大安場史跡公園	令和元年6月27日～9月10日	企画展「FUKUSHIMA 前期古墳アラカルト」
山川浩和歌「さつま人」 1点 山川健次郎書「有文事者必有武備」 1点	若松城天守閣郷土博物館	令和元年9月1日～11月30日	企画展「明治の会津藩～新時代を生きた会津人」
松平定信像 1点	小峰城歴史館	令和元年8月～10月	特別企画展「白河藩主 七家二十一代」
アンモナイト類 42点	いわき市石炭・化石館	令和元年7月18日～9月10日	特別展「アンモナイト展」
須賀川市跡見塚古墳出土 象嵌鏝 1点	福島県文化財センター 白河館	令和元年9月26日～12月26日	企画展「渦文—時を超える文様—」
木造建築継ぎ手一式	個人	令和元年9月6日～7日	令和元年度「福島県もりの案内人養成講座」
浪岡家文書 触（兵学寮差許ニ付） 1点 （諸組改革ニ付書状） 1点 明治元戊辰六月於西京被仰出書写 1点	三春町歴史民俗資料館	令和元年9月17日～12月13日	特別展「武士の時代の終わり」
塵芥集（複製） 1点	桑折町種徳美術館	令和元年10月25日～12月	企画展「伊達氏と桑折西山城」
天神沢遺跡出土 石製品 10点 真野古墳群出土 金銅双魚佩 1点	文化庁	令和元年5月7日～令和2年3月31日	「発掘された日本列島2019」

イ. 写真資料

総数：106件124点

考古：13件 16点 民俗：8件 8点

歴史：51件 65点 美術：27件27点

自然：6件 7点 震災遺産：1件 1点

(4) 保存管理

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア. 保存管理**(ア) 保存環境調査**

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、

事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースの保存環境を調査した。調査項目は、昆虫、空中浮遊菌、付着菌、空中浮遊塵埃数、空気環境、温度、湿度、照度、紫外線強度である。調査は、7月6日～8月3日、11月28日～12月24日にかけて2回実施した。

(イ) 生物被害防除

7月、8月に各1回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、552件燻蒸処理した。

3. 展示事業

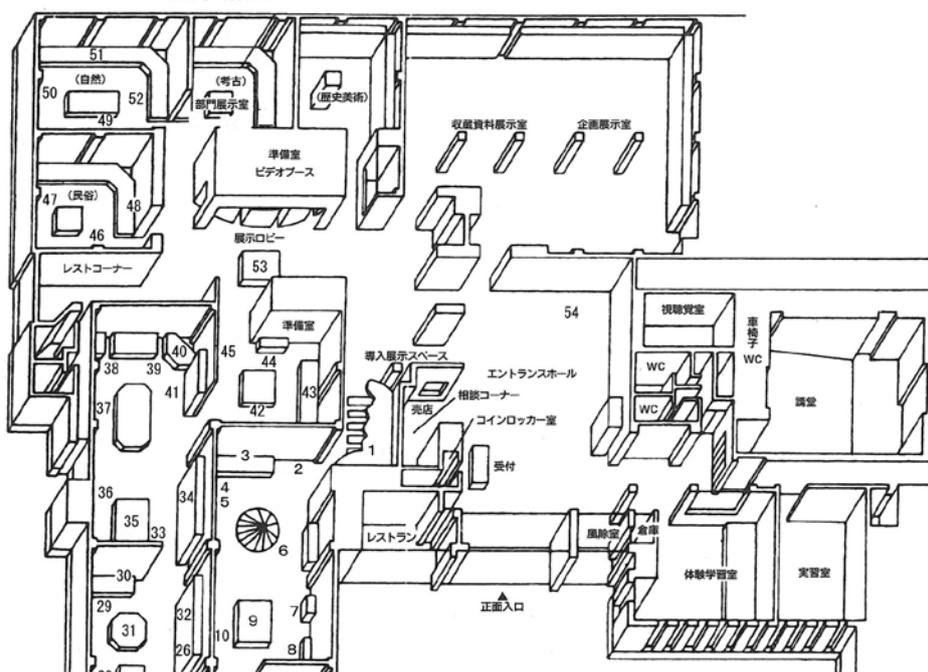
(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間

の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、主に常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



【総合展示室】

- 1 清戸迫横穴墓壁画
- 原始
- 2 福島最古の人間
- 3 水河時代の生活
- 4 最終氷期後半の環境
- 5 環境の変化と生業
- 6 縄文のムラ
- 7 縄文人
- 8 信仰と墓地
- 9 稲作の開始
- 10 再葬の墓
- 古代
- 11 会津大塚山古墳
- 12 原山1号墳の主
- 13 群集する古墳
- 14 ムラの暮らし
- 15 陸奥国の成立
- 16 公民の生活
- 17 在地の仏教
- 中世
- 18 阿津賀志山の合戦
- 19 神仏習合の世界
- 20 好嶋庄の村むら
- 21 南党と北党
- 22 国人一揆
- 23 戦国の群雄

●近世

- 24 奥羽仕置と諸藩の成立
- 25 学問と文化
- 26 庶民の信仰
- 27 会津農書の世界
- 28 町のにぎわい
- 29 山国の神と人
- 30 産業の発達
- 31 海のなりわい
- 32 ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- 33 戊辰戦争
- 34 自由民権運動
- 35 福島県の成立
- 36 安積開拓事業
- 37 庶民の生活
- 38 日本の花形産業
- 39 15年戦争下の生活
- 40 戦後の生活
- 41 変わりゆく社会
- 自然と人間
- 42 福島の盆地と平野
- 43 福島の鉱山
- 44 福島の火山と湖
- 45 福島の河川

【部門展示室】

- ◆民俗 (雪国・会津の暮らしと折り)
- 46 雪と山国の暮らし
- 47 植物と仕事の文化
- 48 雪国の折りと祭り
- ◆自然 (県土の形成)
- 49 基盤形成の時代
- 50 海の時代
- 51 山脈形成の時代
- 52 段丘形成の時代
- ◆考古 (よみがえる会津大塚山古墳)
- ◆歴史・美術
- ロビー・エントランスホール
- 53 白水阿弥陀堂模型
- 54 二本松提灯祭竹田町太鼓台

イ. 部門展示室リニューアル（民俗・考古）
 (ア) 部門展示室（民俗）「雪国・会津の暮らしと祈り」

平成31年4月2日より、民俗分野の新しい部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」が開室した。山・冬・雪をキーワードにして構成された3つのコーナーから、厳しくも豊かな自然環境が生み出した暮らしの文化にスポットを当てている。

「1、雪と山国の暮らし」は、雪上の歩行や道踏み（新雪時の道づくり）の道具、除雪用具などの雪に直接関連する道具から始まる。さらに稲荷原石製の行火などの特徴ある暖房用具、山菜・雑穀や保存食を調理・調整するための食物加工用具、会津木綿や刺子の仕事着などから、衣・食・住の生活文化を紹介する。「2、植物と手仕事の文化」では、麻やカラムシの織物・衣類をはじめ、竹が自生しにくい会津に育まれた樹皮・蔓・草などの生活用具に注目する。近年、カラムシ織りの製品や樹皮・蔓等の編み組み細工は工芸的な価値が評価されているが、その加工技術と製品を会津の自然環境が生み出した文化として解説している。「3、雪国の祈りと祭り」では、小正月のサイノカミ（火祭り）や鳥追い、初市と縁起物などの正月行事をはじめ、春の訪れを告げる行事としての獅子舞や農村歌舞伎まで取り上げ、主に冬から初春の祭りや年中行事の特徴を示した。



民俗部門展示室「3、雪国の祈りと祭り」

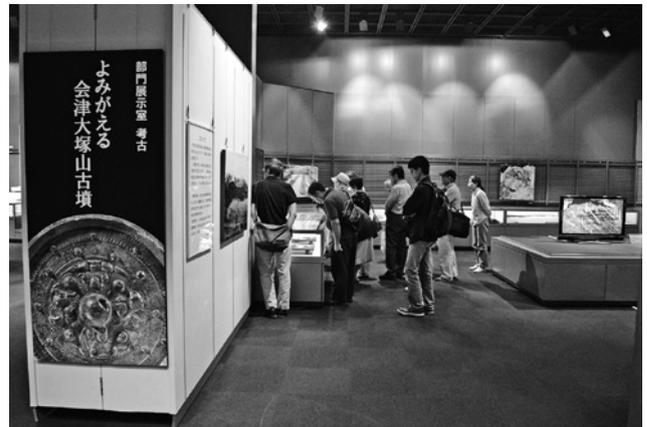
(イ) 部門展示室（考古）「よみがえる会津大塚山古墳」

令和元年6月29日より、考古分野の新しい部門展示室「よみがえる会津大塚山古墳」が開室した。この度の展示室リニューアルは、これまで当館が担ってきた国史跡大塚山古墳の成果や出土遺物を広く公開する場所、すな

わち「ガイダンス施設」的役割を強化することを目的としている。

平成25年度から続いた会津大塚山古墳出土資料の保存修理を経て、新たにわかったことや最新の古墳時代研究を踏まえ、新しい会津大塚山古墳像を紹介する。また、会津大塚山古墳がこれまでどのような歴史を辿ってきたのかも紹介し、会津大塚山古墳のすべてがわかるような構成となっている。

開室と同日には、当館学芸員による記念講演会「会津大塚山古墳を考える」を開催した。展示の見どころのほかに、出土資料を通して見えてくる会津大塚山古墳の魅力を来館者にお伝えした。



展示解説会の様子



部門展示室リニューアルのポスター

ウ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。

- ① 「うるわしのうるしのうつわー土の中からー」
 (部門：考古展示室)
 前年度～5月19日(日)
- ② 「いいたてミュージアム」
 (部門：歴史・美術展示室)
 4月13日(土)～6月23日(日)

- ③「大須賀清光の土津神社図・円蔵寺図屏風」
(部門：歴史・美術展示室)
9月7日(土)～10月14日(月・祝)
- ④「100年カエル館のときめくカエルアート図鑑」
(エントランスホール)
9月18日(水)～10月27日(日)
主催：福島県立博物館・100年カエル館
協賛：かえる文化研究所(東京足立・善立寺)
- ⑤「けんぱくの宝2019―武の美―」
(部門：歴史・美術展示室)
10月19日(土)～12月8日(日)
展示協力：藤安将平氏(将平鍛刀場刀匠)
- ⑥「祈りのふくしま3」
(部門：歴史・美術展示室)
12月14日(土)～令和2年2月2日(日)
- ⑦「山口弥一郎のみた東北」
(部門：歴史・美術展示室)
令和2年2月8日(土)～3月29日(日)
(4月12日まで会期延長)
後援：磐梯町



祈りのふくしま3



山口弥一郎のみた東北

エ. ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全16回開催した。

- ①「フタバスズキリュウの時代の貝」
(部門：自然展示室)
3月30日(土)～4月26日(金)
- ②「松枝岐の歌舞伎衣装」
(部門：民俗展示室)
4月2日(火)～5月15日(水)
- ③「元号改元の今と昔」
(総合：近現代展示室)
4月6日(土)～5月31日(金)
- ④「戦国武将の花押と印判①―伊達政宗」
(総合：中世展示室)
4月20日(土)～6月23日(日)
- ⑤「三葉虫の不思議」
(展示ロビー)
4月27日(土)～6月21日(金)
- ⑥「型をつくる・型からつくる」
(部門：民俗展示室)
5月17日(金)～7月10日(水)
- ⑦「会津の経塚―500年前のタイムカプセル」
(総合：古代展示室)
5月18日(土)～8月18日(日)
- ⑧「松平容大夫人の白衣観音図」
(総合：近現代展示室)
6月29日(土)～8月30日(金)
- ⑨「暮らしと麻」
(部門：民俗展示室)
7月12日(金)～9月4日(水)
- ⑩「戦国武将の花押と印判②―蘆名盛氏」
(総合：中世展示室)
8月24日(土)～10月27日(日)
- ⑪「戊辰戦争をくぐりぬけた刀」
(総合：近現代展示室)
8月31日(土)～11月1日(金)
- ⑫「罫(わな)―栗城弥平民具コレクション」
(部門：民俗展示室)
9月6日(金)～11月27日(水)
- ⑬「相馬藩主の御料理番―魚や鳥を調理する作法」
(総合：近世展示室)
9月14日(土)～11月17日(日)
- ⑭「斎藤一と会津」
(総合：近現代展示室)
9月14日(土)～9月23日(月・祝)
- ⑮「いわきの石炭をつくった植物たち」
(部門：自然展示室)
9月14日(土)～10月18日(金)
- ⑯「古い道具と昔のくらし―つくる・きる・あろう」
(部門：民俗展示室)
11月29日(土)～令和2年3月4日(水)



三葉虫の不思議



戦国武将の花押と印判①—伊達政宗



古い道具と昔のくらし—つくる・きる・あろう

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和元年度は、3本の企画展示を開催した。

ア. 春の企画展「とりもどすきずな つながる みらい」

(ア) 会 期

平成31年4月27日(土)～令和元年6月9日(日)

開館日数：39日間

(イ) 会 場

企画展示室・エントランスホール

(ウ) 入館者数 4,710人

(エ) 担当学芸員

美術分野：川延安直、小林めぐみ

(オ) 趣 旨

2011年3月11日の東日本大震災により多大な被害を受けた東北の被災地では、被災直後から文化芸術による支援活動が行われた。福島県でも避難所でのコンサート、仮設住宅でのワークショップ、伝統芸能の支援、地域産業とのコラボレーションなどさまざまなスタイルの支援があった。震災後数年間、被災者・被災地と支援者・全国の親密な交流は、復興に向かう福島の大きな支えだった。

復興の進展とともに終了した活動も含め、被災者の心の癒しにつながったもの、地域の恒例行事として定着したもの、これまでにないアートの領域に拡大したものなど残された成果は数多くある。それらは被災という大きな犠牲の後に生まれた小さな希望でもあった。

本展では、震災直後から活動を開始し、現在まで変容を重ねながら継続、発展している7つの文化芸術事業を紹介し、震災から9年目の福島で、あらためて震災の被害から得た文化芸術のムーブメントを捉え、2011年以降に生まれた交流を未来に届ける場となることを企図した。

(カ) 展示構成

a プロジェクトFUKUSHIMA!

(大友良英、山岸清之進and more)

福島市出身の音楽家・大友良英らが震災後立ち上げた「プロジェクトFUKUSHIMA!」は、活動を通して福島の再生を目指し、福島からのメッセージを発信。各所から集めた布地を縫い合わせていく「大風呂敷」プロジェクトや盆踊りなど、福島発のイベン

トを次々に展開。2015年からは福島市出身の山岸清之進が代表となり、地域資源を活用したアートイベントに発展している。福島に根付き、あらたな展開をみせているプロジェクトのひとつとして紹介。

b Daylily Art Circus、他（開発好明）

現代美術家・開発好明は、阪神淡路大震災の際にアーティストとしての無力さを痛感した反省に立ち、東日本大震災後はいち早く被災地でアートプロジェクトを立ち上げた。2011年に東北各地の避難所、学校など30ヶ所を巡回した「Daylily Art Circus」、「あいしたいこと」「あいせること」の交換を通して互いの世界観を知る「愛銀行」などに取り組んでいる。迅速な支援活動から長期的なビジョンを持った表現活動に発展していくアーティストの歩みに震災後の福島を見つめる視点の変遷を辿った。

「Daylily Art Circus」参加作家：磯崎道佳、木村崇人、高橋士郎、滝澤達史、タムラサトル、仲田智、野田裕示、吉澤美香。

c I am flower project

（原案：片桐功敦、企画・運営：西会津国際芸術村）

大阪府堺市在住の華道家・片桐功敦は2013年からワークショップ「草木をまとう」を県内各地で開催。地域の草花に親しみ人間も自然の一部であることを体感させるワークショップは、自然への敬意を深め参加者間の交流を生んだ。ワークショップは作家の指導の下、参加者有志を中心に運営されるようになり、西会津町では大山祇神社の祭礼に合わせて行われるなど広がりを見せている。展示空間で造花の冠を身に付けて撮影するブースを設け、体験型の展示とした。

d 流転（中筋純）

写真家・中筋純が撮影した福島県大熊町、浪江町などのパノラマ写真や福島県出身者が震災後の福島への想いをのせた表現などが融合した巡回型の展覧会。福島県内のほか、県外でも多数開催し、展示内容を変容させながらキャラバンのように活動を続けている。様々な表現手法が組み合わさることにより、重層的な発信力を発揮している現在進行中の活動として紹介。

e Koi 鯉 アートのぼり

（渡邊晃一＋福島大学 芸術による地域創造研究所）

鯉の漢字は、里の魚の意味を持ち、里は

土と田からなる。鯉は文字通り人の暮らしに近い魚であり、子どもの健康と成長を願う鯉のぼりは広くこの国の晩春から初夏の風物詩である。東日本大震災と原発事故により外遊びが出来なくなった子どもたちのために、福島市の避難所から始まった鯉のぼりを用いたワークショップは、アーティストの協力、全国各地の人々の賛同を集め、「Koi鯉 アートのぼり」として人々のエールを福島に届けるプロジェクトだった。

f 光の鳥プロジェクト＋ミズアオイプロジェクト（吉田重信）

いわき市の現代美術家・吉田重信は、震災後、県内外で精力的な発表活動を展開。被災地からのメッセージを国内外各地に届けるメールアート「光の鳥」プロジェクトを展開。ワークショップを各地で行った。近年は南相馬を中心に津波被災地で再生した水生植物・ミズアオイを通して各地と交流する「ミズアオイプロジェクト」を展開。福島の再生をキーワードに福島と各地をつなぐプロジェクトであることを紹介した。

g HEART MARK VIEWING（日比野克彦）

東京藝術大学教授で、現代美術家の日比野克彦は、2011年の東日本大震災後、いち早く福島県の避難所を訪れ、被災者が過ごす体育館などの空間を和ませ、被災者同士のコミュニケーションツールとなることも目的に、日本各地から集めたハートのパッチワークのタペストリーの展示やワークショップを行った。「HEART MARK VIEWING」と命名された活動は、福島県内外の人々をつなぎ、福島県内の被災者と支援者をつなぐことにもなったことを紹介。一部レストランでも展示を行った。

(キ) 関連事業

a アーティストトーク1 福島の開発好明

日時 平成31年4月27日（土）13時30分～14時30分

場所 視聴覚室

講師 開発好明（現代美術家）

参加者数 5名

b アーティストトーク2

つなぐアート－HEART MARK VIEWING

日時 平成31年4月28日（日）13時30分～14時30分

場所 エントランスホール

講師 日比野克彦（現代美術家）

参加者数 32名

c アーティストトーク 3

プロジェクトFUKUSHIMA!のこれまで・これから

日時 平成31年4月30日(火・祝) 13時30分～14時30分

場所 エントランスホール

講師 大友良英(音楽家) × 山岸清之進(プロジェクトFUKUSHIMA!代表)

参加者数 66名

d ワークショップ 1

HEART MARK VIEWING

日時 平成31年4月28日(日) 13時30分～16時30分

場所 実習室

講師 日比野克彦

参加者数 32名

e ワークショップ 2

オーケストラFUKUSHIMA!

日時 平成31年4月30日(火・祝) 15時～16時30分

場所 エントランスホール

講師 大友良英(音楽家)

参加者数 96名

f ワークショップ 3 光の鳥を飾ろう

日時 令和元年5月3日(金・祝) 13時30分～15時30分

場所 体験学習室前

講師 吉田重信(現代美術家)

参加者数 124名

g ワークショップ 4

福興ダルマをつくろう

日時 令和元年5月5日(日・祝) 13時30分～15時30分

場所 体験学習室前

講師 山本伸樹(現代美術家)

参加者数 55名

(ク) 成果と課題

東日本大震災から9年目を迎える中、あらためて2011年から多くの方が福島に支援の手をのばしてくださったこと、2011年以降も地域で継続する活動が福島の文化力を高めていることを来場者と共有することができた。7つのプロジェクトを紹介する作品や資料の展示とあわせて、2011年からの歩みを年表で紹介し、本展が各プロジェクトのアーカイブズともなった。

トークイベントはプロジェクトの振り返りや意義の共有に繋がり、ワークショップは来場者にもプロジェクトに参加してもらう機会となった。



企画展チラシ



エントランスホール展示風景



展示室風景



ワークショップ
オーケストラFUKUSHIMA!の様子

入館者数は決して多くはなかったがアンケートでは「あらためて震災を考えるきっかけになった」「福島復興のため様々な活動があったことを実際に見ることができた」などの感想をいただいた。また、会津若松市に避難している大熊町の小学生が見学した際「避難した時、小さかったのでよくわかっていなかったけど、たくさんの人が福島を応援してくれていたことがわかった」と話してくれたことを特記しておきたい。

定期的な開催を望む声もアンケートにみられた。今後の課題としたい。

イ. 夏の企画展「福島復興祈念展 興福寺と会津—徳一がつないだ西と東」

(ア) 会 期

令和元年7月6日(土)～8月18日(日)
開館日数 39日間

(イ) 会 場

企画展示室、部門展示室(歴史・美術)

(ウ) 主催 興福寺と会津展実行委員会(福島民友新聞社・福島中央テレビ・福島県立博物館)

特別協賛 シグマ

協賛 リオン・ドールコーポレーション、会津信用金庫、I&Iグループ、会津土建、秋山ユアビス建設

特別協力 法相宗大本山興福寺

共催 磐梯町、会津若松市、喜多方市、西会津町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、磐梯山慧日寺資料館、会津若松観光ビューロー

協力 飛鳥園、藤森武、極上の会津プロジェクト協議会、会津の文化×地域振興プロジェクト協議会、日本通運株式会社

後援 福島県、福島県教育委員会、福島県仏教会、会津若松商工会議所、下郷町、桧枝岐村、只見町、南会津町、北塩原村、猪苗代町、三島町、金山町、昭和村、読売新聞東京本社福島支局、朝日新聞福島総局

(エ) 入館者数 41,211人

(オ) 担当学芸員

主担当 美術分野：塚本麻衣子

担 当 美術分野：川延安直、小林めぐみ
原恵理子

(カ) 趣 旨

平安時代の高僧・徳一が、奈良・興福寺から会津を訪れたことにより、会津の仏教文化は花開いた。本展は東日本大震災復興によせる興福寺の思いを受け、国宝3件・重要文化財8件を含む興福寺の寺宝16件を紹介。あわせて、徳一ゆかりの会津の寺院を中心に、会津の寺宝18件を展示した。各種解説パネルや図録により、興福寺と会津との結びつきや、度重なる戦乱や災害から復興を遂げてきた興福寺の歴史を伝える構成とし、関連事業として解説会、トークイベント等を開催、興福寺・会津の仏教文化・仏教美術の魅力を紹介した。

(キ) 展示構成

(1) 興福寺の寺宝 徳一時代とそれから

(2) 徳一と会津

主な展示品：興福寺の寺宝 四天王立像のうち二体(興福寺東金堂所在)
ほか 16件23点
会津の寺宝 吉祥天立像(個人蔵)ほか 18件30点
計34件53点

(ク) 関連事業

○開幕式・内覧会・レセプション

日時 7月5日(金)16時～18時15分

会場 エントランスホール、企画展示室・部門展示室(歴史・美術)

○展示解説会

日時 7月6日(土)※、13日(土)、20日(土)、27日(土)、28日(日)、8月3日(土)※、4日(日)※、10日(土)、17日(土)、18日(日)
各回とも①10時～11時、②13時30分～14時30分(※は①のみ)

講師 辻明俊氏、ザイレ晁映氏、南俊慶氏、大森俊貫氏(興福寺僧侶)
塚本麻衣子(当館学芸員)

会場 企画展示室、部門展示室(歴史・美術)

○夜の仏像鑑賞会

日時 7月6日(土)、13日(土)、20日(土)※、27日(土)、8月3日(土)、10日(土)、17日(土)
各回とも17時30分～19時(解説は17時30分～18時30分)

講師 塚本麻衣子(当館学芸員)

※のみ長岡龍作氏(東北大学教授)による特別解説

会場 企画展示室、部門展示室(歴史・美術)

- ワークショップ「福島の孔雀石でほとけさまを描こう」
 日時 7月14日(日)、8月11日(日)
 各回とも13時30分～15時30分
 講師 猪瀬弘瑛、塚本麻衣子(当館学芸員)
 協力 滝澤徹也氏(美術家)
 会場 福島県立博物館 エントランスホール
- ワークショップ「仏像福笑い 仏像を楽しく知ろう！」
 日時 8月12日(月)～18日(日) 9時30分～16時30分
 会場 エントランスホール
- 公演「声明の響き～仏教伝統の調べ～」
 日時 7月6日(土) 14時～15時
 出演 新義真言聲明三宝会のみなさん
 会場 エントランスホール
- コンサート「奉る音～ギター・編鐘と篠笛・箏が奏でる祈りのコンサート」
 日時 7月27日(土) 16時～17時
 出演 小馬崎達也&パンゲア
 会場 エントランスホール
- 連続講座イベント①「興福寺と会津～その歴史と美術」
 日時 5月26日(日) 13時30分～15時
 講師 ザイレ暁映氏(興福寺録事補)
 「興福寺の今昔～1350年の歴史・美術・教えの紹介」
 塚本麻衣子(当館学芸員)
 「興福寺と会津のえにし～徳一の事跡と会津の仏教美術」
 会場 講堂
- 連続講座イベント②「阿修羅像を未来へ」
 日時 6月9日(日) 13時30分～15時
 講師 辻明俊氏(興福寺執事)
 「興福寺のあゆみ」
 今津節生氏(奈良大学教授)
 「阿修羅像、1300年を超えて未来に」
 会場 講堂
 共催 朝日新聞社
- 館長講座特別編「風土の旅学～東北編 第4回徳一」
 日時 7月19日(金) 13時30分～15時
 特別講師 玄侑宗久氏(小説家/僧侶)
 講師 赤坂憲雄(当館館長)
 会場 講堂
- 美術講座「興福寺と会津展 みどころ案内」
 日時 8月3日(土) 13時30分～15時
 講師 塚本麻衣子(当館学芸員)
 会場 講堂



展示風景



展示解説会



声明公演



講演会

○特別講演「福島復興への祈り～興福寺と会津展によせて」

日時 7月15日(月・祝) 14時30分～15時30分

講師 多川俊映氏(興福寺貫首)

会場 講堂

(ケ) 成果と課題

福島県初の奈良・興福寺の寺宝公開ということもあり、4万人を超える来場者を迎えることができた。仏教美術への関心が高いシニア世代の来場が多かったが、夏休み期間中の開催でもあったため、一家そろっての来場も多かった。関連イベントも盛況で、繰り返し来館される方も多く見られた。講座では講堂の定員を超えた回もあり、別室中継するなどの対応をとったが、適切な見通しと対応策のさらなる検討が課題となった。

徳一が生きた時代の仏像をはじめ、興福寺の国宝・重要文化財を福島県で公開したことに加え、徳一ゆかりの会津の寺院等の寺宝を紹介したことにより、平安時代に遡る興福寺と会津の結びつきを広く知っていただく機会となった。また、会津の仏教文化の奥深さ・広がりをも改めて見直すことにもつながった。

さらに、福島県仏教会、極上の会津プロジェクト協議会の協力を得、県内・会津地方に伝わる仏教文化・仏教美術の魅力発信と、文化財保存と活用の機運醸成に結び付いた。また声明の際に使われた散華は西会津在住の美術家・滝澤徹也氏が漉いた和紙を、会津若松市の慈光幼稚園の園児が切り抜いたもの、西会津町授産場の方々が博物館で制作したものをを用いた。地域との共働を行ったことも、本展の成果と言える。

ウ. 秋の企画展「あにまるず ANIMAL×Zooーどうぶつの考古学」

(ア) 会期

令和元年9月7日(土)～11月17日(日)

開館日数 62日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 8,709人

(オ) 担当学芸員 考古分野：高橋満

(カ) 趣旨

考古学には「動物考古学」と呼ばれる研究分野がある。狭義では貝塚や低湿地遺跡出土の食物残渣としての動物遺存体の分析

から当時の生業や環境復元に迫るものである。加えて近年は石器や骨角器などの狩猟・漁猟具の分析と対象動物との関係性や資源利用の観点から社会組織の復元に迫る研究も多くの成果を上げている。

また遺跡の出土品には動物形土製品や動物形埴輪の他に、動物を象った石製品や動物表現のある土器や金属製品も存在する。これらの動物造形には写実的なものやユーモラスな表情を持つものや、動物を超越した不思議なものがあり鑑賞者を楽しませてくれるものがある。このような動物造形から原始古代の精神文化や社会に迫る研究領域もあり、これらも「動物考古学」と呼んで良いであろう。

動物をめぐるニュースが毎日といってよいほど報道される現代社会では人と動物の距離が近づきすぎている、ともいわれる。それは人の暮らしに動物が欠かせないことの反映であり、人と動物がかかわる営みはその時代の文化や社会を映すカガミだともいえる。

本企画展では狩猟・装身・象形・マツリに関わる考古資料から、原始・古代のヒトと動物の関係性を読み解き、その多様な世界を紹介する。

(キ) 展示構成

第1章 イノシシとシカの年代記

第2章 狩りとイノリとマツリとオクリ

第3章 何これ？不思議！カワイイ！どうぶつ園

出品点数：

青森県近野遺跡出土動物形内蔵土器・岩手県長倉I遺跡出土イモガイ形土製品・埼玉県加能里遺跡出土縄文土器蛇体文深鉢・神奈川県羽根尾堰の上遺跡出土鳥形土器・兵庫県勝手野6号墳出土装飾付須恵器壺・兵庫県見野6号墳出土動物足跡付須恵器坏・奈良県キトラ古墳石室天文図複製陶板など200件

(ク) 関連事業

○展示解説会

日時 9月7日(土)・9月21日(土)・10月6日(日)・10月22日(火・祝)・10月27日(土)・11月17日(日)
各回とも13時30分～14時30分

場所 企画展示室

講師 当館学芸員

○講演会1「同位体人類学ーふくしま縄文人の食にせまる」

日時 9月14日(日) 13時30分～15時

場所 講堂

講師 米田穰氏(東京大学総合博物館)

○講演会2「はにわの鳥から考える鳥と人のつながり」

日時 11月9日(土) 13時30分～15時

*台風19号の影響により、10月12日から日程変更

場所 講堂

講師 賀来孝代氏((有)毛野文化財研究所調査研究員)

○縄文笛コンサート

日時 9月28日(土) 13時30分～14時30分

場所 講堂

出演 縄文笛毅氏

○ミニ講演会&放鷹実演「会津の空に鷹が舞う」

日時 11月3日(土) 13時30分～14時30分

場所 講堂・前庭

出演 みちのく愛鷹(はしたか)の会

○国史跡清戸迫横穴VR体験

日時 11月1日(土)～11月10日(月) 9時30分～16時30分(最終受付)

場所 企画展示室

特別協力 東北大学総合学術博物館

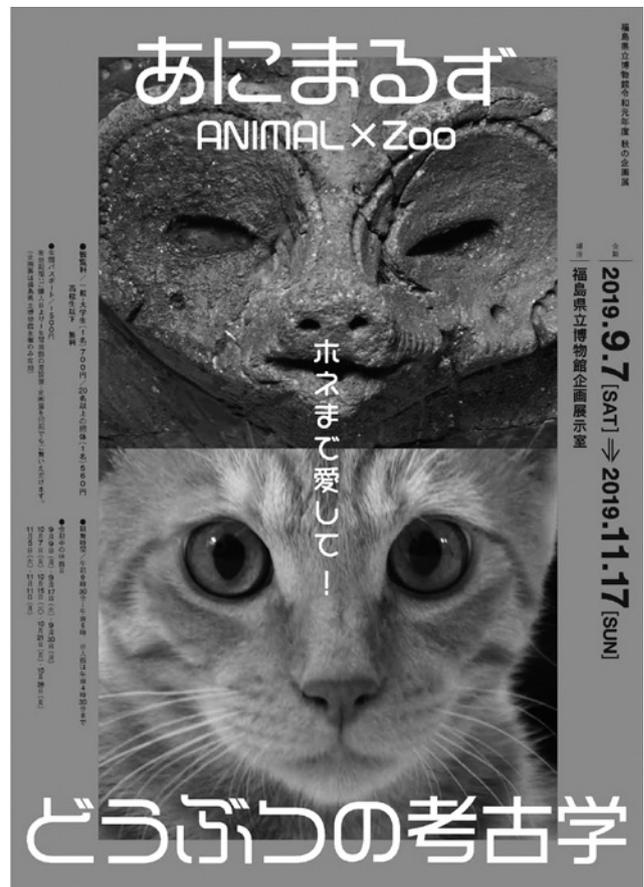
(ケ) 成果と課題

考古学や埋蔵文化財への興味や関心を広く喚起し、その魅力を多様な世代や階層に幅広く伝えるため、身近な存在である動物をテーマに展示会を構成した。考古学研究者やコアな考古学ファンにとどまらず、日常生活の中で博物館へ足を運ぶことが多くはない「ライト層」へ訴求できるように分かりやすい展示を目指した。展示品をじっくり観察してもらうためパネルの数はできるだけ減らし、専門用語の使用頻度も少なくするよう工夫した。いくつかの展示品に関しては、理解を深めるために図解パネルを追加した場所がある。結果、近年の考古学を主題とした企画展の中では観覧者数も多く、子どもづれの家族で観覧する光景が多く認められたのは、おおむね狙いどおりであった。幼児や小学校低学年の世代は展示に飽きてしまうことは展示会では間々あることであるが、今回は出土品を眺めながら家族と会話しながら一緒に足を進める場面が多かったように思える。アンケートによる来場者動向によると20代～50代の4世代がおおむね20%前後の来場割合を占めており、来場世代比に隔たりが無かったこと

も本企画展の特徴である。

広報は通常に加え、動物病院など動物関連業界にも行うなど工夫した。ポスターをはじめとする広報物には現生ネコの画像を採用し、考古学色を抑え、親しみやすさとともに不思議さが同居する興味を引き付けるデザインになった。当館のSNSでは「あにまるZoom」という展示タイトルにマッチしたシリーズで展示品を紹介していくスタイルを展開したが、展示品の一つであるムササビ形埴輪の観覧数が当館のSNS開設以来の最大の数となったことは大きな驚きであったが、SNSの広報媒体としてのポテンシャルの高さを認識することになった。アンケート結果では、当館への来館経験が初めての方が46%と最も多く、そのうち約75%が企画展を目的に来館していることから、新規の入館者を一定程度獲得できたと思なすことができる。このグループの情報源をみるとホームページやSNS等のインターネットを媒体にするものが約4割となり、複数回来館の経験あるグループでは主たる情報源がポスターであることと比較すると、大きな傾向差があることが読み取れる。

トータルの観覧者数は台風19号や天候不順による観覧予約団体のキャンセルもあり



ポスター

総観覧者数は伸び悩んだ。企画提出当初は展示内容から夏休み期間中の開催で計画していたが、各企画展スケジュールの調整の結果、秋季開催となり、多くの家族連れが来館しやすい時期での開催でなかったことも影響している。また開幕当初はマスメディアの取り上げ回数が少なく、テレビでの広報もなかったことも観覧者動員を底上げできなかった要因としてあげられる。会期後半からは、上述のSNSや新聞紙面での特集展開や追加広報などによる少しずつ観覧者が増加していったことから、当初にマスメディアにきちんと取り上げてもらえる工夫を検討する必要がある。

展示図録もできるだけ一般の方にも興味をもってもらうために、ポスター同様に親しみやすいものを意図し制作した。コンセプトは「本屋に平積みしても違和感がないもの」で、図録というよりは一般図書をイメージした。そのため「企画展図録」という表記は表紙から外し、図録のタイトルも企画展名称そのものとするのではなく、「図鑑」を付け加えた。体裁は変形A4版で正方形を呈する図録で、これも考古学の固いイメージを感じさせないための工夫である。表紙裏・裏表紙にはマンガを挿図し、出土品の画像もできるだけ切り抜く作業を行い、固いイメージを払しょくするデザインとした。図録の売れ行きは好評で、会期中で増刷している。

昨今、考古学研究者をはじめとするフィールドワーカーが持ち歩く野帳が静かなブームとなっている。当館でも初の試みとして企画展を記念するオリジナル野帳を作成し販売した。展示品に関わる画像のシールを内製で作成し、付録として添付した。思いのほか売れ行きは好調で、アンケートではこうしたグッズ類はこれまで少なかったのが良かったとの声があった。野帳に限らずオリジナルグッズの販売は一定の要望があるものと考えられ今後も検討すべき様に見える。

イベントは考古学そのものをテーマにした講演会の座学と動物や考古学にかかわる実演などを比較的多く開催した。講演会の一つは台風の影響で開催を延期したため、周知に制約があったにせよ、一般に考古学系の講演会は一定の基礎知識が必要となるため動員が低調な傾向がある。一方で実演系のイベントは誰もが楽しめることをコン

セプトとしているため、多くの方の来場がある。とくに放鷹のイベントは、前庭が300人を超える観衆で埋まり、人と動物の阿吽の呼吸を垣間見ることのできるイベントとなった。なお動物を使役するイベントを開催するにあたっては地域の保健衛生部局との事前調整が不可欠であることを付け加えておく。

展示解説会の開催日は観覧者が多い傾向にある。その時間に合わせて来場される方も多く、少人数でスタートしてみても次第に多くの方を引き連れて会場をツアーしている状況もあった。折角なら学芸員の解説を聞きながら観覧したいというニーズがかなりあると思われる。展示品の一つに、文様を読み解くためにしゃがんで視線を下げ



あにまるず ANIMAL x Zoo
— どうぶつの考古学図鑑 表紙



あにまるず ANIMAL x Zoo
— どうぶつの考古学図鑑のマンガ

る動作が必要となる縄文土器があり、ちょっと不思議な謎解きの解説場面ではあったが概ね好評であった。

解説会以外にも団体に解説を依頼される場合も多くあった。こうした臨時的解説はできるだけ受けているものの、少人数でもお断りしていないので、周知を工夫する余地がまだある。

(3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。企画展示のように特別の観覧料金は設定せず、各特集展の内容に応じて無料または常設展観覧料で観覧できる。

令和元年度は、第3期中期目標で掲げている震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承を図る活動として、冬に「震災遺産を考える」を開催した。

ア. 特集展「震災遺産を考える」

(ア) 会 期

平成31年2月16日(土)～4月11日(木)
開館日数 47日間(平成31年度の会期9日間)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 観覧者数

717人(会期中の累計観覧者数3,503人)

(エ) 担当学芸員

杉崎佐保恵ほか平成30年度震災遺産保全チーム担当学芸員

(オ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示会では、これまでに収集・保全した「震災遺産」を展示し、震災に向き合う機会とした。

(カ) 展示構成

第1章 地震と破壊

第2章 混乱と避難

第3章 災害と時間

ソフトウェアで観覧する

親子で震災遺産を考える

図書コーナー

※出品点数117件

津波痕跡の残る壁紙(南相馬市) 他館蔵品、大熊町、富岡町教育委員会、長岡市立中央

図書館文書資料室、会津大学、個人からの借用品を含む。

(キ) 関連事業

○展示解説会 ※30分程度

日時：4月7日(日)

会場：企画展示室

講師：当館学芸員

(ク) 成果と課題

館長講座、考古学講座を特集展の関連行事として開催して、災害史の教育普及を推進した。3月11日(月)を臨時開館して展示解説会を実施し、解説会終了後に東日本大震災の犠牲者の方の追悼と復興を祈念して、観覧者とともに黙祷を捧げた。

双葉郡内(浪江町・大熊町・富岡町・双葉町)や会津若松市にて調査・収集を実施し、その成果の一部を特集展に反映した。会津大学のソフト開発授業へ協力し、学生の授業成果を展示した。

イ. 特集展「震災遺産を考える～それぞれの9年～」

(ア) 会 期

令和2年2月11日(火)～4月12日(日)
開館日数：54日間(令和元年度の会期43日間)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 後 援

公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構

(エ) 観覧者数

2,086人(会期中の累計観覧者数2,323人)

(オ) 担当学芸員

震災遺産保全チーム担当学芸員

(カ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産に関わった人たちの証言から、震災遺産を振り返り、それぞれが過ごしてきた時を共有することをめざした。

(キ) 展示構成と主な資料

○「命」(半杭一成さん)…牛がかじった柱のレプリカ

○「繰り返した避難生活から感謝の日々へ」(伊藤まりさん)…浪江中学校避難所資料

等

- 「負けたままではいけない」（金谷清子さん）…旧相馬女子高避難所資料等
- 「ふるさとへの想い」（林富士雄さん）…浪江新聞販売センター資料等
- 「情報の架け橋として」（鈴木裕次郎さん）…鈴木新聞舗資料等
- 「光の鳥」…子どもたちのメッセージ
- 「富岡は負けん！」（平山勉さん）…横断幕レプリカ、通行許可証等
- 「大熊町の記憶」（鎌田清衛さん）…フロッタージュ作品
- 「福島県生涯学習課所蔵資料」…東日本大震災・原子力災害伝承館所蔵予定資料
出品点数104件

(ク) 関連事業

○展示解説会

展示解説会は各回にテーマを設け、企画展示室において当館学芸員を講師として実施した。なおコロナウイルスによる感染症対策のため、イベント及び展示解説会は3月以降中止となった。

- 日時 2月11日（火・祝）10時～10時30分
2月22日（土）13時30分～14時
- 講師 当館震災遺産保全チーム学芸員

※なお当初予定していたイベントは以下の通り。

- 講演会&トークイベント「ひなん暮らしー過去・現在・未来ー」
日時 3月1日（日）13時30分～15時00分
講師 伊藤まり氏（浪江町からの県外避難者・NPO法人WE21ジャパン青葉代表）
- 防災講座「楽しいそなえ」
日時 3月20日（金・祝）
講師 渡邊浩二氏（双葉町からの避難者・NPO法人地域活動サポートセンター柏崎）
- 展示解説会
3月7日（土）、11日（水）、20日（金・祝）

(ケ) 成果と課題

毎年テーマを変えながら、続けてきた特集展である。今年は人に注目し、7人のお話とともに、9年を振り返った。

特集展を続けてきたことで、来館者から資料に関わるお話を教えていただくこともあり、資料自体が育っていくことも震災遺産の特徴の一つと言える。今回は受動的ではなく能動的に資料に関する物語の聞き取

りを行い、結果として収集・保全した時点で時が止まったような資料だったものが、9年の空白を埋めて歴史資料としての厚みを増したのでないかと考えている。未来へ資料を残すことは博物館の役割でもある。「災害」とは、自然現象に加え、人々の暮らしや社会生活が被害を受けることで成立する。つまりは人との関わり、人の歴史を災害史として残すことが大切である。

会場の入り口では、牛舎の柱を展示した。説明がなければねじ曲がったただの柱しか見えないが、餓死するまでかじられたであろうこの柱に刻まれた命への執着と、飼い主の無念を証言とともに確認することができたはずである。博物館で初披露となったこの資料の反響は大きく、新聞やニュースなどで多く取り上げられた。

解説会では、被災地に思いを馳せ、涙ぐまれる方もおられた。また来場された方の意見として、アンケートでは「(忘れないためにも)県内外問わず多くの人に見てほしい」との声をたくさんいただいた。令和2年度冬に予定している企画展「震災遺産を考える」では、今までの成果をまとめ、みなさんとともに震災遺産を考える場となればと考えている。

今回は人に焦点をあてたが、結果として資料が持つメッセージが今までより少し成長し、次の世代へ残したい教訓も加わった。人の言葉が加わった震災遺産を、また違った視点で考える機会となった「それぞれの9年」だった。震災遺産は博物館の資源として、この地に住む次の世代の、未来づくりの役に立つものでありたい。

また東日本大震災・原子力災害伝承館に収蔵予定の資料についても（公財）福島イノベーションコースト構想推進機構のご後援をいただき展示することができた。今回も多くの皆さんからご協力をいただき特集展を開催することができたことを感謝申し上げる。



拝観所になった待合室（浪江町）

【特展】震災遺産を考える

それぞれの9年

会期：令和2年2月11日（火・祝）～4月12日（日）
会場：福島県立博物館 企画展示室 観覧無料
開館時間：9：30～17：00（最終入館 16：30）

関連行事

講演会＆トークイベント『ひなん暮らしー過去・現在・未来ー』3月1日（日）13：30～15：00 場所：講堂・企画展示室
講師：伊藤まり氏（浪江町からの県外避難者・NPO法人WE21ジャパン青葉代表）
内山大介（当館学芸員）

防災講座「楽しいそなえ」3月20日（金・祝）14：00～15：00 場所：エントランスホール
講師：渡邊浩二氏（浪江町からの県外避難者・NPO法人地域活動サポートセンター協賛）

展示解説 2月11日（火・祝）10：00～

2月22日（土）、3月7日（土）、11日（水）、20日（金・祝）、4月11日（土）13：30～ 講師：当館学芸員

東日本大震災と原子力発電所の事故から9年が経ちます。しかし、福島では原子力発電所の事故のために、いまだに被災地での避難生活が続いています。震災とともに始まった「ふくしまの経験」はいまも継続中です。これまでに福島県立博物館では、この災害に関わる資料として震災遺産を収集してきました。これら震災遺産を通じてこれまでを振り返り、それぞれが通じてきた時を共有します。

休館日 2月17日（月）、25日（水）、3月2日（月）、9日（月）、16日（月）、23日（月）、30日（月）、4月6日（月）

主催：福島県立博物館 お問い合わせ先：福島県立博物館
〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25
後援：（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構 Tel 0242-28-6000 Fax 0242-28-5986

チラシ



展示室の様子



展示解説会



展示室の様子



展示解説会

(4) 指定文化財の公開

令和元年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア. 国指定

〈国宝〉

- (1) 四天王立像（多聞天像・広目天像） 2 軀 興福寺
- (2) 法相六祖像（常騰像・善珠像） 2 軀 興福寺
- (3) 維摩居士坐像 1 軀 興福寺

〈重要文化財〉

- (4) 地藏菩薩立像 1 軀 興福寺
- (5) 薬師如来坐像 1 軀 興福寺
- (6) 慈恩大師像 1 幅 興福寺
- (7) 護法善神扉絵（梵天・帝釈天・玄奘・常啼菩薩） 四面 興福寺
- (8) 色紙薬師経 1 巻 興福寺
- (9) 細字法華経 1 巻 興福寺
- (10) 成唯識論（巻第一・巻第四） 2 巻 興福寺
- (11) 延暦寺智行高僧伝 1 帖 興福寺
- (12) 四天王立像（増長天像・持国天像） 2 軀 勝常寺
- (13) 吉祥天立像 1 軀 個人

（以上13件は、企画展「興福寺と会津」にて展示公開）

- (14) 青森県薬師前遺跡墓坑出土品のうち 猪牙製垂飾 5点 青森県五戸町
 - (15) 陸前沼津貝塚出土品のうち 骨角器 4点 国立大学法人東北大学
 - (16) 陸前沼津貝塚出土品のうち 骨角牙製装身具 6点 国立大学法人東北大学
 - (17) 陸前沼津貝塚出土品のうち 土製獣 2点 国立大学法人東北大学
 - (18) 里浜貝塚出土品のうち 骨角牙製品 11点 宮城県
 - (19) 里浜貝塚出土品のうち 土器・土製品 1点 宮城県
 - (20) 埴輪男子胡座像附埴輪女子像1軀・埴輪跪坐像残闕等のうち 埴輪跪坐像 1点 福島県
 - (21) 埴輪男子跪坐像 1点 個人
- （以上8件は、企画展「あにまるず ANIMAL × Zoo ーどうぶつの考古学」にて展示公開）
- (22) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち 2点 檜葉町教育委員会（福島県）
- （総合展示室：原始にて展示公開）

イ. 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

- (1) 寺脇貝塚出土品のうち 骨角器 26点

いわき市

- (2) 天王壇古墳出土品のうち 埴輪 8点 本宮市
 - (3) 和台遺跡出土人体文土器及び狩猟文土器のうち 狩猟文土器1点 福島市
- （以上3件は、企画展「あにまるず ANIMAL × Zoo ーどうぶつの考古学」にて展示公開）
- (4) 陣ヶ峯城跡出土品のうち 木製品および炭化物 8点 会津坂下町
- （テーマ展「うるわしのうるしのうつわー土の中から」(部門展示室：考古)にて展示公開)
- (5) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県
 - (6) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1点 いわき市
 - (7) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2点 いわき市
 - (8) 森北1号墳出土品のうち 石製品および鉄製品 4点 会津坂下町
- （以上4件は、総合展示室：古代にて展示公開）
- (9) 八槻都々古別神社御正体 1面 八槻都々古別神社
- （総合展示室：中世にて展示公開）

(5) 展示解説

※新型コロナウイルスの感染症対策のため、展示解説員および学芸員による来館者への対面での解説・体験講座等については、令和2年2月28日より当面の間、停止する措置をとった。

ア. 展示解説員

令和元年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算を確保した。企画展についても、展示予算の中で監視員1名を予算化し、通常の展示解説員1名に監視員1名を交えた体制で展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモギリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切る対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割である。しかし、

定数減により展示解説員1人で対応しなければならぬエリアが広がったため、十分な解説活動ができない場合が多くなった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高い行政サービスを保障するために、展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうか対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

(ア) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、開館30周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものである。原則的に他の行事の入っていない土曜日と日曜日・祝日の午前11時、午後2時の2回開催を基本に実施している。1回の所要時間は約30分。各解説員が独自の解説ルートを開発し、それぞれ展示解説員ごとのテーマで解説会を実施している。今年度の「けんぱくハイライトツアー」は4月27日から2月24日の期間実施した。

実施日数：74日

総参加人数：474人

(イ) 通し解説

不定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。予約の団体の要望にこたえる形で実施してきている

ことが多い。

実施回数：54回

(ウ) 部屋送り解説

不定期の常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：19回

(エ) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、開催されなかったが、団子飾りを従来の展示にかわって、参加者に団子をつくってもらう体験型で実施した。

七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図っている。

イ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況である。そのため、学芸員が代わって展示室に立つことになっており、原則1コマ45分である。令和元年度は年間で363回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、学校、公民館、研究団体など各種団体からの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。



解説員の常設展展示解説



学芸員の常設展解説「昔の道具」

ウ. 展示解説のための資料等

①『展示解説シート』

展示室見学の参考とするため、主にグループで入館する児童や生徒に配布した。2か月ごとにテーマを決めて、常設展示総合展示室(A～F)の各部屋からおすすめ資料を選定し、資料を紹介するワークシート。紹介するテーマ、資料が変わり、見学するポイントが分かることから、常設展示に対する観覧者の興味・関心を高めることに役立っている。

②福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説したもので、館活動についても紹介している。昭和61年に発行され、一部改訂をしながら観覧補助資料として有償配布している。

③Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

ガイドブックを要約した英文の展示解説パンフレット(14ページ)で、平成18年に発行され、一部改訂を行いながら観覧補助資料として、希望する来館者に無償配布している。

(6) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだが、かなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーを常設することで、子どもたちも博物館に親しむことのできる空間作りを目指している。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

なお、新型コロナウイルスの感染症対策のため、体験学習室を令和2年2月28日より当面の間、閉室する措置をとった。

ア. 衣装

(ア) 衣装着付け

体験学習室では季節ごとに入れ替えを行いながら、時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のまま着ることのできる衣装であるが、着付けの技術や衣装についての知識を深めるために展示解説員の着付け研修を行うなど、より質の高いサービスを提供できるように努めている。

着付けはある程度の時間を要するため、多人数の要望には一度に答え難い面もある。しかし、体験希望者は親子連れから若い友人同

士のグループまで幅広く、着付けした姿を鏡に映したり、カメラで撮影したりと、楽しんでいられる様子が伺える。平成31年度、令和元年度は忍者衣装、会津木綿着物を新たに追加し、衣装の充実を図った。また、新たに当館の収蔵資料を活用した撮影スポットを設置し、より多くの方に着付けを楽しんでいただけるような工夫を施した。展示解説員も体験者との会話から、衣装着付けの体験に対する満足度が高いことを実感している。

①衣装着付け件数 418件

②着付けた衣装

春：打掛・番貝足

忍者衣装(イベント時のみ)

夏：水干・直垂

忍者衣装(イベント時のみ)

秋：会津木綿着物・当世貝足

冬：壺衣装・山伏



時代衣装着付けの様子

(イ) 衣装展示

春：小直衣・十二単

夏：大鎧・稚児鎧

秋：天武朝女官朝服・推古朝朝服

冬：素襖・南蛮装束

イ. 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り／12月：クリスマスツリー／

1月：団子さし／3月：手作り雛人形

ウ. おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせる母親や家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。ただ、おもちゃの経年劣化に加えて利用者の増加もあり、修理を必要とするおもちゃの数も増えている。

おもちゃの修理：46件

エ. ハンズオンコーナー

来館者が実際に体感することで、様々な学びを促進するためのコーナー。令和元年度は「土器パズル」（縄文土器の写真を再現するパズル）、「化石にさわろう！」（当館収蔵の様々な化石を実際に手に取ることが出来るコーナー）、「福島県地図パズル」（各市町村の形を、それぞれの市町村の木で製作してあるパズル）を常設展示として設置した。7月～9月にかけては蚊帳を設置し、一昔前の暮らしを体感できるコーナーを作った。また、福島県立会津工業高等学校建築インテリア科と連携し生徒が製作した「木のおうち」を設置したり、当館収蔵資料を活用した撮影スポットを設置したりとコーナーの充実を図った。

特に展示の理解が難しい児童に対する博物館入門コーナーという意図があるが、親子や大人のグループの利用もあり、好評を得ている。



体験学習室ハンズオンコーナー（蚊帳）



体験学習室ハンズオンコーナー（地図パズル）



体験学習室ハンズオンコーナー
（福島県立会津工業高校生の製作による「木のおうち」）



子どもミニミニ博物館

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存の各分野がテーマを設定して調査を実施している。令和元年度は、以下の7テーマの調査を実施した。

ア. 山口弥一郎調査資料の研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

(ウ) 調査概要

引き続き資料整理作業を行ったが、特に簡易整理が終了したノート、調査資料、カード、日記・手帳、について、再分類と番号のふり直しを進めた。また映像資料・音声資料の一部をデジタル化した。本事業は令和元年度が最終年度となったが、その成果報告としてテーマ展の開催と報告書の刊行を行った。テーマ展「山口弥一郎のみた東北」では、「1. 学問との出会い」「2. 東北を襲う津波と凶作」「3. 戦中・戦後の農村に暮らす」「4. 学校教員と郷土研究」「5. 文化財の保護と後進の育成」「6. 大学教育と研究の集大成」という6つのコーナーから山口の生涯と研究の軌跡を紹介した。『山口弥一郎旧蔵資料調査報告書』は「Ⅰ 解題編」「Ⅱ 目録編」「Ⅲ 論考編」の3部構成とし、山口の人物像や資料の概要、資料目録、事業参加者による論考等を掲載した。

イ. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣旨

Ⅰ 縄文時代後半期から弥生時代初頭とⅡ 古

墳時代終末期から奈良時代(6世紀末～8世紀)の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚及び西会津町塩喰岩陰遺跡出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。塩喰岩陰遺跡人骨の年代は前期初頭よりも古くなる可能性があり、県内最古例の出土人骨であることが分かった。また川俣町前田遺跡で検出された人骨を伴う土壇墓や出土人骨の検討を行った。

ウ. 会津の三十三観音めぐりの調査研究

(ア) 分野 美術・民俗

(イ) 趣旨

会津の三十三観音めぐりは、近世以降、女性を中心に連綿と行われてきた。仏教信仰のみならず、観音講におけるコミュニティ形成や御詠歌など多様な要素を含む非常に重要な文化と言える。その一方で、参加人口の減少などにより、継承が危惧されてもいる。本調査研究では、聞き取り調査等を実施し、会津の信仰文化・民俗を掘り下げ、地域の文化の新たな見直し・活用を目指す。

(ウ) 調査概要

会津の三十三観音を構成する観音堂を実際にめぐり、各観音堂の歴史や地域において果たしてきた役割等について現地調査を行い、調査結果を講演会などに活かした。また、会津の三十三観音めぐりを楽しくわかりやすい発信と今後の教育普及や活用のために、実際にめぐった知見を活かした「会津の三十三観音めぐりすごろく」を作成した。

エ. 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 震災遺産保全チーム

(イ) 趣旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも

個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたうえで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれらを福島県の歴史として位置づけることを目指す。

(ウ) 調査概要

東日本大震災を福島県の歴史として位置づけるために、また常設展示へ向けた取り組みとして学習会を行った。「地域の暮らしを主体的に考える場となる」ことをチームのビジョンとしてまとめ、そのビジョンに向けてチーム内で話し合いテーマを決め、外部講師、博物館OBからの協力も得て学芸員が分担して実施した。内容は以下の通り。

- ・山口弥一郎について 内山学芸員 (民俗)
- ・磐梯山の噴火からの復興 磐梯山噴火記念館長 佐藤公氏
- ・福島第一・第二原子力発電所の建設について 栗原学芸員 (歴史)
- ・水力発電所について 大里学芸員 (民俗)
- ・高度経済成長とエネルギー 筑波学芸員 (歴史)
- ・近世の災害と対応—会津藩を事例として— 阿部学芸員 (歴史)
- ・総合展示「自然と人間」福島の鉱山概要 当館元学芸員 竹谷陽二郎氏 (自然)

また、今までに収集した震災遺産のデータを深めるために、収集した震災遺産に係る人たち7人へ聞き取り調査を行った。震災直後のことから、その後の9年間についての出来事や心情など資料の物語性が深まり、地域の復興を考える資料の一つとなった。

オ. 古墳出土金属製品の現代保存修復と展示公開

(ア) 分野 保存科学

(イ) 趣旨

発掘調査で出土した金属製品は、歴史学上、過去の社会・経済・産業・流通などを考える上で貴重な資料であり、博物館等の収蔵施設での保存・展示のために、クリーニング、埋没環境下で進行した腐食の安定化(脱塩処理)、

形態を保つための樹脂含浸、破片の復元等の一連のプロセス(保存処理)が要求される。保存処理の後は、温度、湿度、空気質(金属の腐食促進ガス、塵埃等)、照明等の環境を適切に構築することによって、保存処理の効果が持続する。維持管理において、適切な環境構築手法を検討する。

(ウ) 調査概要

展示ケース内で金属試験片(銀・銅)に発生した金属腐蝕膜(錆)の分析値より腐蝕速度を予測した。

カ. 浜通りにおける古生代大型化石の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣旨

県内では浜通りを中心に古生代(約5億4000万年前～約2億5000万年前)の地層が分布している。これらの地層の中には豊富に化石を産する層準があり、これまでも地元の化石収集家などによって多くの化石が発見されてきた。

2017年に当館の学芸員によって相馬地域のデボン紀の地層から“県内最古の新種化石”が発見されるなど、現在でも浜通りの古生代の地層からは新たな化石が発見され続けている。これらの中には論文等で発表されていない貴重なものも含まれていることから、鑑定を行い、成果を論文として記録・公表する。ポイント展などでそうした化石を展示する機会を設ける。

(ウ) 調査概要

福島県内産古生代巻貝化石の現状把握のため、いわき市石炭化石館収蔵資料について調査を行った。化石産地の現地調査については、東日本台風の被害により現地への道路が通行できず断念した。福島県立博物館に所蔵されている巻貝化石について鑑定作業を行った。

キ. 福島県成立前後の近代資料の調査研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣旨

会津藩関わった戊辰戦争は、県内外の研究者や歴史愛好家の興味を惹き、絶えず研究が行われている。一方で明治時代を迎えた近代ふくしまの歴史研究となると、等閑にされてきた感が否めない。県全体の歴史を扱った『福島県史4 近代編1』(昭和46年)も刊行から45年以上が経過し、見直しの時期に入ったといえる。そこで本事業では、近代ふくしまの出発点である県の成立前後に起こっ

た事象（地方行政の整備、学校建設、地租改正等）を研究し、戊辰戦争からの戦後復興、そして浜通り・中通り・会津という3地域が初めてひとつになった「福島県」誕生の道程を明らかにする。

(ウ) 調査概要

地租改正の測量場面を描いた秋田県立博物館所蔵の「文明開化地租改正地面測量取之図」を調査した。地租改正は日本全国で明治時代の一大事業として全国で実施されたが、その場面を描いた絵は少ない。本図は土地の見分・作図・測量の3場面が巻物にまとめられており、地租改正事業の様子を知る手掛かりとなる資料であった。

(2) その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

令和元年度は、前年度に登録した松崎達夫家寄贈資料（若松城下薬種問屋資料）の公開に向けて、登録内容の確認および修正を行った。また未登録であった斎藤一（藤田五郎）関係資料の登録ならびに未公開であった相原秀郎家・和泉富夫家・久米幹男家の寄贈資料を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア. 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

阿部綾子 2020.3「資料紹介 小室梅尾「会津籠城絵詞—会津藩の女中が記録した籠城戦の体験—」『福島県立博物館紀要』第34号 p.33-40

猪瀬弘瑛・渡辺昇 2020.3「広野町桜沢に分布する白垂系双葉層群足沢層から産出する二枚貝化石群集」『福島県立博物館紀要』第34号 p.11-15 福島県立博物館

西山剛・内山大介・筑波匡介 2020.3「専

門家によるポイント解説（3）被災時の博物館」『ICOM京都大会からみたあたらしいミュージアムのかたちとは?』ICOM京都大会2019報告会・ワークショップ報告書 京都歴史文化施設クラスター実行委員会・ICOM京都大会2019組織委員会・ICOM日本委員会 p.21-24

内山大介編 2020.3『山口弥一郎旧蔵資料 調査報告書』(福島県立博物館 調査報告第41集)

内山大介 2020.3「山口弥一郎と柳田民俗学—方法としての「寄寓採録」と「帰郷採録」—」『山口弥一郎旧蔵資料 調査報告書』(福島県立博物館 調査報告第41集) p.71-76

内山大介 2020.3「書評 菊池和子『震災を生きる人々—福島芸能の灯消さず』」『福島の民俗』第48号 福島県民俗学会 p.124-126

内山大介 2020.2.12「寄稿 三陸地震 被災地くまなく 山口弥一郎の足跡たどる」『福島民友』

内山大介 2019.12「奉納される傘鉾と吊り下げ物—東北日本海地域における傘鉾の展開—」『まつり』81号（特集 傘鉾と吊り下げ物）まつり同好会 p.31-64

内山大介 2019.9「小荒井豊山筆『製鋸図』と会津の鋸鍛冶」『民具マンスリー』52巻6号 神奈川大学日本常民文化研究所 p.1-7

内山大介 2019.7「県立博物館がとらえる地域と民俗展示—福島県立博物館部門展示室リニューアル」『民具マンスリー』52巻4号 神奈川大学日本常民文化研究所 p.1-7

大里正樹 2019.9「【民具短信】黒船来航を伝える農具」『民具マンスリー』52-6（通巻618） p.22-24 神奈川大学日本常民文化研究所

大里正樹 2020.3「磐城民俗研究会の活動と山口弥一郎—『民間伝承』記事と収蔵資料から—」『福島県立博物館調査報告第41集 山口弥一郎旧蔵資料調査報告書』p.87-90 福島県立博物館

大里正樹 2020.3「書評 古川利意『古川利意年賀状版画集』」『福島の民俗』48号 p.123-124 福島県民俗学会

片岡太郎・上條信彦・佐々木理・高橋満 2019.5「福島県三島町荒屋敷遺跡出土漆器の製作技法研究」日本考古学協会第85回総会研究発表要旨pp.206-207 一般社団法人日本考古学協会

鈴木苑子・猪瀬弘瑛・上松佐知子・大石雅之・指田勝男・藤田英留 2020.3「塙町に分布する中新統久保田層より産した鯨類化石と

- 古環境』『福島県立博物館紀要』第34号 p.1-10 福島県立博物館
- 高橋 充 2019.11 「戦国期奥羽の書状の形態をめぐってー『縦紙・縦切紙系書状』の展開ー」矢田俊文編『戦国期文書論』p.187-211 高志書院
- 高橋 充 2019.12 「報告要旨 戦国期の蘆名氏と会津」『国史談話会雑誌』60 p.76-77 東北大学国史談話会
- 高橋 充・時枝 務 2020.3 「信夫山頂遺跡出土品の研究(7)」『福島県立博物館紀要』34 p.17-32 福島県立博物館
- 高橋 充・布尾幸恵 2020.3 「宮城県図書館蔵『会津全図』について」『福島県立博物館紀要』34 p.41-59 福島県立博物館
- 高橋 満 2019.7 「博物館における震災の継承ー震災遺産保全のケーススタディ」博物館研究vol.54 No7、pp.19-22 公益財団法人日本博物館協会
- 高橋 満編著 2019.9 「あにまるず ANIMAL × Zoo どうぶつの考古学図鑑」福島県立博物館企画展図録
- 高橋 満 2020.3 「福島県浜通り地域中・北部における製塩土器類の類例と評価」『中オ遺跡(2次調査)ー災害公営住宅建設事業(西ヶ原第二工区)における記録保存のための発掘調査』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第32集、pp.138-143、南相馬市教育委員会
- 筑波匡介 2019.9.10 「新潟県中越地震における震災関連資料の収集・保全と展示について」『日本地理学会発表要旨集No.96』p.14 公益社団法人日本地理学会
- 筑波匡介 2019.12 「コミュニティ・アーカイブをつくろう！せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」奮闘記」『アーカイブズ学研究No.31』日本アーカイブズ学会 p102-108
- 平澤 慎 2019.6 「古墳時代 東北」『考古学ジャーナル』727号 p.58-59 ニューサイエンス社
- (イ) 学会発表等
- 阿部綾子 2019.8.25 「戊辰戦争 会津での戦いー奥女中が伝えた会津籠城戦ー」只見町主催 戊辰セミナー第2回 於 只見振興センター
- 阿部綾子 2020.1.25 「中村藩士の禄高ー明治四年の禄高調からー」相馬郷土史研究会 於 相馬市中央公民館
- 西山 剛・内山大介・筑波匡介 2020.1.13 「専門家によるポイント解説(3)被災時の博物館」『ICOM京都大会からみたあたらしいミュージアムのかたちとは?』於：京都府京都文化博物館
- 内山大介 2019.12.14 「震災・原発事故と文化財レスキューー災害から地域文化を守るためにー」小山市立博物館 歴史講演会 於：小山市立博物館
- 内山大介 2019.11.21 「会津彼岸獅子と都市近郊の地域社会」会津史談会 文化史講座 於：福島県立博物館
- 内山大介 2019.10.20 「民俗学者・山口弥一郎の研究者人生と旧蔵資料」福島県民俗学会 令和元年度地域持ち回り研究会 於：福島県立博物館
- 内山大介 2019.10.13 「山口弥一郎の学問形成とノート利用の変遷ー旧蔵資料アーカイブの試みからー」日本民俗学会 第71回年会 於：筑波大学
- 大里正樹 2019.11.10 「県立博物館ミュージアムイベント『会津の彼岸獅子』について」NPO法人民俗芸能を継承するふくしまの会「彼岸獅子サミット」 於 会津稽古堂
- 大里正樹 2020.1.27 「家印・焼判・屋号について考える」高寺地区地域づくり協議会「後世に伝えたい高寺の歴史」講演会 於 高寺コミュニティセンター
- 菅原 滋・杉崎佐保恵・中山芳彦・谷口秀哉・石丸伊知郎 2019.6.22 「近赤外ハイパースペクトラルイメージング法による陶器上の接着剤と印刷物上のニス分布の測定」文化財保存修復学会第41回大会 於 東京 於：帝京大学
- 鈴木苑子・上松佐知子・猪瀬弘瑛 2020.2.8 「福島県の上部中新統久保田層より産したクジラ化石と古環境」日本古生物学会第169回例会 於：東京大学
- 高橋 充・布尾幸恵 2019.6.1 「宮城県図書館蔵『会津全図』について」福島県史学会研究報告 於 福島県立博物館
- 高橋 充 2019.6.15 「戦国期の蘆名氏と会津」国史談話会大会公開講演 於 東北大学
- 高橋 満 2019.5 「震災遺産の保存活用」福島大学コア・アクティブ科目「これからの地域と歴史・文化遺産」 於 福島大学
- 片岡太郎・上條信彦・佐々木 理・高橋 満 2019.5 「福島県三島町荒屋敷遺跡出土漆器の製作技法研究」日本考古学協会第85回(2019年度)総会ポスターセッション 於

駒澤大学

高橋 満 2019.6「東日本大震災と地域博物館」文化庁第11回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー「近年の特別展・企画展の動向」於 東京国立博物館

高橋 満 2019.10「関東地方霞ヶ浦周辺における縄文時代製塩遺跡の構造と理解」明治大学資源利用史研究クラスター成果公開シンポジウム「日本列島における製塩技術史の解明Ⅰー縄文から古代まで拡張して見えるものー」於 明治大学

筑波匡介 2019.9.22「新潟県中越地震における震災関連資料の収集・保全と展示について」『中越地震から15年ー被災地の復興支援活動と今後の課題』2019年本地理学会秋季学術大会シンポジウム 於 新潟大学

イ. 他団体による委嘱等

阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会

阿部綾子：郡山市文化財保護審議会委員 郡山市教育委員会

阿部綾子：史跡若松城跡御三階復元検討会委員 会津若松市教育委員会

猪瀬弘瑛：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

猪瀬弘瑛：非常勤講師 福島県立医科大学医学部

内山大介：共同研究員 共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」国立歴史民俗博物館

内山大介：非常勤講師 福島県立医科大学医学部

内山大介：理事・評議員 日本民具学会

内山大介：副委員長 会津の御田植祭調査委員会

内山大介：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会

内山大介：郡山市文化財保護審議会委員 郡山市教育委員会

内山大介：委員(仮称)郡山市歴史情報・公文書館基本計画策定に係る懇談会

内山大介：事務局長 福島県民俗学会

内山大介：調査委員 八戸地方えんぶり調査委員会(八戸市教育委員会)

大里正樹：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会

大里正樹：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会

大里正樹：福島県民俗学会事務局 福島県民

俗学会

大里正樹：南島文化研究所特別研究員 沖縄国際大学南島文化研究所

川延安直：喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方市教育委員会

川延安直：「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館

川延安直：いわき市文化財保護審議会委員 いわき市教育委員会

川延安直：須賀川市文化財保護審議会委員 須賀川市教育委員会

川延安直：白河市文化財保護審議会委員 白河市教育委員会

川延安直：福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員

川延安直：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学

川延安直：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員

小林めぐみ：福島芸術計画×Art Support TOHOKU-TOKYO 運営委員会委員 福島県、東京都

小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合

小林めぐみ：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町

小林めぐみ：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員 公益財団法人会津若松文化振興財団

小林めぐみ：只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会

小林めぐみ：只見町ブナと川のミュージアム運営委員会委員 只見町

小林めぐみ：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学

小林めぐみ：調査委員会委員 会津の御田植祭調査委員会

小林めぐみ：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

小林めぐみ：福島市文化財保護審議会委員 福島市

小林めぐみ：文化庁無形文化財(工芸技術)の公開・活用に関する検討会委員 文化庁

佐藤洋一：南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員

佐藤洋一：共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料的研究」共同研究員 国立歴史民俗博物館

高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員

二本松市教育委員会
 高橋 充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員
 会津美里町教育委員会
 高橋 充：相馬市史編さん専門委員 相馬市
 教育委員会
 高橋 充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津
 松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市
 教育委員会
 高橋 充：神指城跡調査指導委員会委員 会
 津若松市教育委員会
 高橋 充：阿津賀志山防塁調査・整備指導委
 員会委員 国見町教育委員会
 高橋 充：伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策
 定委員会委員 伊達市教育委員会
 高橋 充：伊達市立博物館（仮称）整備検討
 委員会委員 伊達市教育委員会
 高橋 充：棚倉町中世城館等調査指導委員会
 委員 棚倉町教育委員会
 高橋 充：会津坂下町史編さん委員会委員
 会津坂下町
 高橋 充：北塩原村城館等保存・整備・活用
 検討委員会委員 北塩原村教育委員会
 高橋 充：小峰城跡石垣検討委員会委員 白
 河市
 高橋 充：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委
 員会委員 湯川村教育委員会
 高橋 充：須賀川市文化財保護審議会委員
 須賀川市教育委員会
 高橋 充：非常勤講師 福島県立医科大学医
 学部
 高橋 満：文化庁第11回指定文化財（美術工
 芸品）企画・展示セミナー講師
 高橋 満：会津坂下町史編さん委員 会津坂
 下町教育委員会
 高橋 満：富岡町アーカイブ施設整備識者検
 討部会委員
 高橋 満：福島大学コア・アクティブ科目非
 常勤講師
 高橋 満：明治大学資源利用史研究クラスタ
 ー研究推進員
 田中 敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂
 下町教育委員会
 田中 敏：史跡若松城跡御三階復元検討会委
 員 会津若松市教育委員会
 田中 敏：会津藩主松平家墓所整備指導会議
 委員 会津若松市教育委員会
 田中 敏：白河市天王山遺跡検討委員会委員
 白河市教育委員会
 塚本麻衣子：調査委員会委員 会津の御田植
 祭調査委員会

塚本麻衣子：喜多方市文化財保護審議会委員
 喜多方市教育委員会
 藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員
 会津若松市教育委員会
 藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美
 里町教育委員会
 藤原妃敏：喜多方市文化財保護審議委員会委
 員 喜多方市教育委員会
 藤原妃敏：笹山原No.16遺跡調査指導委員 郡
 山女子短期大学
 藤原妃敏：福島県考古学会副会長 福島県考
 古学会
 藤原妃敏：南相馬市博物館運営協議会委員
 南相馬市博物館
 藤原妃敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂
 下町教育委員会

ウ. 研究助成金等

高橋 満 科研費・基盤研究 (C)「霞ヶ浦沿
 岸における縄文時代土器製塩史復元のため
 の基礎的研究」研究代表者
 高橋 満 科研費・基盤研究 (A)「日本列島
 における製塩技術史の解明」研究分担者

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。令和元年度の各講座開催数は130、総参加者数は14,897人であった。

今年度は開催講座を厳選したため、講座数は昨年度の7割強にとどまった。ただし、参加者

数自体は昨年度とほぼ同数を維持しており、企画展関連行事を中心に、多くの参加者呼び込める行事が開催されていた。以下は個別講座・講演等の一覧である。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2月28日以降に開催を予定していたイベント18件が全て中止となった。

令和元年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 館長講座	11	1,191
(2) 考古学講座	4	95
(3) 民俗講座	8	229
(4) 歴史講座	10	493
(5) 自然史講座	2	70
(6) 保存科学講座	2	26
(7) 美術講座	5	268
(8) 防災講座	1	51
(9) 実技講座	4	61
(10) 実演	2	60
(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説等）	51	6,788
(12) けんぱくミュージアムイベント	6	852
(13) 子育て世代対応事業	9	357
(14) 体験的学習事業	3	3,220
(15) 共催事業	2	307
(16) 後援事業	5	464
(17) ライフミュージアムネットワーク事業	3	218
(18) 友の会事業	1	90
(19) 復興応援パートナー事業	1	57
計	130	14,897

令和元年度講座・講演会等行事一覧

(1) 館長講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
館長講座「風土の旅学—東北編」①松尾芭蕉	赤坂憲雄（館長）	4月19日（金）	87
館長講座「風土の旅学—東北編」②江戸の旅人たち	赤坂憲雄（館長）	5月17日（金）	95
館長講座「風土の旅学—東北編」③イザベラ・バード	赤坂憲雄（館長）	6月21日（金）	110
館長講座「風土の旅学—東北編」④特別編・徳一	赤坂憲雄（館長）・玄侑宗久（僧侶／小説家）	7月19日（金）	375
館長講座「風土の旅学—東北編」⑤柳田国男	赤坂憲雄（館長）	8月16日（金）	87
館長講座「風土の旅学—東北編」⑥武田久吉	赤坂憲雄（館長）	9月20日（金）	55
館長講座「風土の旅学—東北編」⑦柳宗悦	赤坂憲雄（館長）	10月18日（金）	54
館長講座「風土の旅学—東北編」⑧岡本太郎	赤坂憲雄（館長）	11月22日（金）	55
館長講座「風土の旅学—東北編」⑨司馬遼太郎	赤坂憲雄（館長）	12月19日（金）	116
館長講座「風土の旅学—東北編」⑩つげ義春	赤坂憲雄（館長）	1月17日（金）	74
対談「震災・アート・地域 北川フラム×赤坂憲雄」	赤坂憲雄（館長）・北川フラム（アートディレクター）	2月21日（金）	83

(2) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
部門展示室リニューアル記念講座「会津大塚山古墳を考える」	平澤 慎 (学芸員)・ 藤原妃敏 (学芸員)	6月29日(土)	40
縄文土器を作ろう	考古分野学芸員	7月27日(土)	20
縄文土器を作ろう	考古分野学芸員	7月28日(日)	20
縄文土器の野焼き	考古分野学芸員	9月28日(土)	15

(3) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
部門展示室リニューアル記念講座①「雪国・会津の民家と暮らし」	内山大介 (学芸員)	5月12日(日)	25
部門展示室リニューアル記念講座②「雪国・会津の自然と手仕事」	山口 拡 (学芸員)	6月16日(日)	32
部門展示室リニューアル記念講座③「雪国・会津のまつり」	大里正樹 (学芸員)	7月7日(日)	30
部門展示室リニューアル記念講座④雪国・会津の食文化～エゴの不思議!?～	江川トヨ子 (学芸員)	8月4日(日)	9
ミニ映画会「ふくしまの技と祭り① 奥会津の木地師」		11月17日(日)	25
ミニ映画会「ふくしまの技と祭り② 金沢の羽山ごもり」		12月15日(日)	18
ミニ映画会「ふくしまの技と祭り③ からむしと麻」		1月19日(日)	32
ミニ映画会「ふくしまの技と祭り④ 元山と番匠」		2月16日(日)	58

(4) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
はじめてさんの古文書講座① 近世編 (3回連続)	阿部綾子 (学芸員)	5月25日(土)	32
はじめてさんの古文書講座② 近代編 (3回連続)	栗原祐斗 (学芸員)	6月8日(土)	29
はじめてさんの古文書講座③ 中世編 (3回連続)	高橋充 (学芸員)	6月23日(日)	29
福島再発見! 古文書講座① 近代編 (3回連続)	栗原祐斗 (学芸員)	8月24日(土)	40
福島再発見! 古文書講座② 近世編 (3回連続)	阿部綾子 (学芸員)	9月28日(土)	47
福島再発見! 古文書講座③ 中世編 (3回連続)	高橋 充 (学芸員)	10月26日(土)	35
企画展先取り講座「ふくしまの旅」①近代ふくしま交通網の整備と旅行	栗原祐斗 (学芸員)	11月30日(土)	40
企画展先取り講座「ふくしまの旅」②江戸時代の旅ー会津藩士の赴任旅行ー	阿部綾子 (学芸員)	12月14日(土)	115
企画展先取り講座「ふくしまの旅」③いい湯だな～ 会津東山の今と昔	高橋 充 (学芸員)	2月1日(土)	73
企画展先取り講座「ふくしまの旅」④災害とツーリズム	筑波匡介 (学芸員)	2月15日(土)	53

(5) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
化石標本をつくろう	自然分野学芸員	10月19日(土)	42
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司 (野鳥研究家)	11月10日(日)	28

(6) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
和紙にふれる①	鈴木晴彦 (文化財保存修理技術者)・ 杉崎佐保恵 (学芸員)	12月7日(土)	13
和紙にふれる②	鈴木晴彦 (文化財保存修理技術者)・ 杉崎佐保恵 (学芸員)	12月8日(日)	13

(7) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
触って見てみる刀剣講座	藤安将平 (将平鍛刀場刀匠)	11月23日 (土・祝)	20
聞いて見てみる刀剣講座	藤安将平 (将平鍛刀場刀匠)	11月23日 (土・祝)	71
ちょっと不思議な仏教美術のせかい①仏像アバンギャルド	塚本麻衣子 (学芸員)	12月21日(土)	53
ちょっと不思議な仏教美術のせかい②絵巻物ワンダーランド	塚本麻衣子 (学芸員)	1月11日(土)	60
ちょっと不思議な仏教美術のせかい③聖者のイメージ	塚本麻衣子 (学芸員)	1月25日(土)	64

(8) 防災講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ミニ防災講座 楽しいそなえ	筑波匡介 (学芸員)	9月1日(日)	51

(9) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
須賀川の絵のぼり オリジナル小旗をつくろう	大野青峯、大野久子 (須賀川絵のぼり吉野屋)	5月4日 (土・祝)	14
縄文の編み組みを再現しよう	國井秀紀 (福島県文化振興財団)	8月25日(日)	17
唐人和風をつくろう	齋藤誠一 (つくし工房)	9月22日(日)	13
漆を楽しむワークショップ	会津漆器協同組合青年部の皆さん	12月1日(日)	17

(10) 実演

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
大堀相馬焼の絵付け	山田慎一 (大堀相馬焼窯元・いかりや商店)	7月21日(日)	30
会津・三島の編み組み細工	三島町生活工芸館の皆さん	11月16日(土)	30

(11) 企画展関連行事 (記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	当館学芸員	4月7日(日)	19
企画展「とりもどすきずな つながるみらい」内覧会 (マスコミ・友の会)	当館学芸員	4月26日(金)	35
アーティストトーク 福島の開発好明	開発好明 (現代美術家)	4月27日(土)	5
アーティストトーク つなぐアート-HEART MARK VIEWING	日比野克彦 (現代美術家)	4月28日(日)	32
ワークショップ HEART MARK VIEWING	日比野克彦 (現代美術家)	4月28日(日)	32
アーティストトーク プロジェクトFUKUSHIMA!の これまで・これから	大友良英 (音楽家)・山岸清之進 (プロ ジェクトFUKUSHIMA!代表)	4月30日(火)	66
オーケストラFUKUSHIMA!	大友良英 (音楽家)	4月30日(火)	96
ワークショップ 光の鳥を飾ろう	吉田重信 (現代美術家)	5月3日(金)	124
ワークショップ 福興ダルマをつくろう	山本伸樹 (現代美術家)	5月5日(日)	55
興福寺と会津 連続講座「興福寺と会津～その歴史と美術」	ザイレ暁映 (興福寺録事補)・ 塚本麻衣子 (学芸員)	5月26日(日)	253
興福寺と会津 連続講座「阿修羅像を未来へ」	今津節生 (奈良大学教授)・ 辻明俊 (興福寺執事)	6月9日(日)	256
レセプション (開会式・テープカット・内覧会・軽食会)	関係者	7月5日(金)	146
展示解説会	興福寺僧侶・当館学芸員	7月6日(土)	113
声明の響き～仏教伝統の調べ～	新義真言聲明三宝会の皆さん	7月6日(土)	336
夜の仏像鑑賞会	当館学芸員	7月6日(土)	36
展示解説会	当館学芸員	7月13日(土)	391

(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
夜の仏像鑑賞会	当館学芸員	7月13日(土)	93
福島の孔雀石でほとけさまを描こう	塚本麻衣子(学芸員)・猪瀬弘瑛(学芸員)	7月14日(日)	73
特別講演「福島復興への祈り～興福寺と会津展によせて～」	多川俊映(興福寺貫首)	7月15日 (月・祝)	210
展示解説会	当館学芸員	7月20日(土)	199
夜の仏像鑑賞会	長岡龍作(東北大学教授)	7月20日(土)	176
展示解説会	興福寺僧侶・当館学芸員	7月27日(土)	309
夜の仏像鑑賞会	当館学芸員	7月27日(土)	77
奉る音ーギター・編鐘と篠笛・箏が奏でる祈りのコンサートー	小馬崎達也&パンゲア	7月27日(土)	217
展示解説会	興福寺僧侶・当館学芸員	7月28日(日)	336
展示解説会	興福寺僧侶・当館学芸員	8月3日(土)	130
美術講座「興福寺と会津展 みどころ案内」	塚本麻衣子(学芸員)	8月3日(土)	139
夜の仏像鑑賞会	当館学芸員	8月3日(土)	64
展示解説会	興福寺僧侶・当館学芸員	8月4日(日)	115
展示解説会	当館学芸員	8月10日(土)	194
夜の仏像鑑賞会	当館学芸員	8月10日(土)	55
福島の孔雀石でほとけさまを描こう	塚本麻衣子(学芸員)・猪瀬弘瑛(学芸員)	8月11日(日)	50
展示解説会	興福寺僧侶・当館学芸員	8月17日(土)	563
夜の仏像鑑賞会	当館学芸員	8月17日(土)	125
展示解説会	興福寺僧侶・当館学芸員	8月18日(日)	681
企画展「ANIMAL×Zoo」内覧会(マスコミ・友の会)	関係者	9月6日(金)	26
展示解説会	当館学芸員	9月7日(土)	12
同位体人類学ーふくしま縄文人の食にせまる	米田穰(東京大学総合博物館教授)	9月14日(土)	34
展示解説会	当館学芸員	9月21日(土)	28
縄文笛コンサート	縄文笛毅(縄文笛アーティスト)	9月29日(日)	82
展示解説会	当館学芸員	10月6日(日)	11
展示解説会	当館学芸員	10月22日 (火・祝)	40
展示解説会	当館学芸員	10月27日(日)	18
国史跡 清戸迫横穴VR体験	当館学芸員	11月1日(金) ～10日(日) (5日を除く)	261
ミニ講演会&実演「会津の空に鷹が舞う～鷹狩りの歴史と鷹匠の技」	みちのく愛鷹の会	11月3日 (日・祝)	350
はにわの鳥から考える鳥と人とのつながり	賀来孝代(毛野文化財研究所)	11月9日(土)	33
展示解説会	当館学芸員	11月17日(日)	32
テーマ展「山口弥一郎のみた東北」展示解説会	内山大介(学芸員)	2月9日(日)	12
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	当館学芸員	2月11日(火)	15
特集展「震災遺産を考える」展示解説会	当館学芸員	2月22日(土)	18
テーマ展「山口弥一郎のみた東北」展示解説会	内山大介(学芸員)	2月23日(日)	15

(12) けんぱくミュージアムイベント

テーマ	出演・講師	期日	参加人数
山ノ内磐水と玄如節	玄如節顕彰会	6月15日(土)	72
会津磐梯山・市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	8月15日(木)	152
夏休みナイトミュージアム	当館学芸員	8月24日(土)	88
Coderanniコンサート	会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」	9月16日(月)	215
親子でやすらぐ子守唄コンサート	日本子守唄協会	10月17日(木)	230
けんぱく映画会「縄文にハマる人々」	当館学芸員	10月20日(日)	95

(13) 子育て世代対応事業

テーマ	講師	期日	参加人数
博物館でも読み聞かせ	おはなしのへや／ゆかいな仲間たち	4月7日(日)	22
博物館でも読み聞かせ	ハーモニー／心に虹のおはなし会	5月11日(土)	25
博物館でも読み聞かせ	手作り絵本の会	6月8日(土)	22
博物館でも読み聞かせ	ハーモニー／おはなしのへや	7月13日(土)	35
博物館でも読み聞かせ	会津大学短期大学部幼児教育学科	8月10日(土)	41
博物館でも読み聞かせ	ゆかいな仲間たち／おはなしの会ゆがわ	9月14日(土)	18
野口英世記念ふくしま国際音楽祭2019 ピアノ アニマルズ	碓井俊樹、榊原聡子(ピアニスト)	9月27日(金)	151
博物館でも読み聞かせ	おはなしのへや／たんぼぼの会	11月9日(土)	26
博物館でも読み聞かせ 特別バージョン	会津大学短期大学部幼児教育学科	1月11日(土)	17

(14) 体験的学習事業

テーマ	講師	期日	参加人数
子どもミニミニ博物館	当館学芸員	4月27日(土)～5月6日(月・祝)	1,354
親子で探検!はくぶつかんのウラ側	当館学芸員	8月3日(土)	24
子どもミニミニ博物館	当館学芸員	8月11日(日)～8月18日(日)	1,842

(15) 共催事業

テーマ	主催	期日	参加人数
映画上映会「からむしのこえ—会津のものづくり」+座談会「会津のものづくりの未来像」	鞍田崇(明治大学准教授)・分藤大翼(信州大学准教授)・春日聡(国立歴史民俗博物館客員准教授)	1月13日 (月・祝)	264
フォーラム「レスキュー・レプリカその先に」	大河内智之(和歌山県立博物館主任学芸員)・吉野高光(双葉町教育委員会生涯学習係長)・藤井光(美術家)	2月22日(土)	43

(16) 後援事業

テーマ	主催	講師・所属	期日	参加人数
福島県史学会 研究報告会	福島県史学会	福島県史学会会員	6月1日(土)	50
令和元年度福島県市町村教育委員会連絡協議会 会津ブロック研修会	福島県市町村教育委員会 会津連絡協議会	塚本麻衣子(学芸員)	7月25日(木)	80
会津史談会 文化史講座「会津彼岸獅子と都市近郊の地域社会」	会津史談会	内山大介(学芸員)	11月21日(木)	54
会津史学会公開講座「会津盆地を支配した古代王者にせまる」	会津史学会	辻 秀人 (東北学院大学教授)	11月24日(日)	150
会津民俗研究会公開講座「伊勢参宮日記について」 「私の四国八十八か所歩き遍路旅日記」	会津民俗研究会	滝沢洋之、伊藤誠 (会津民俗研究会)	2月24日(月)	130

(17) ライフミュージアムネットワーク事業

テーマ	出演・講師	期日	参加人数
オープンディスカッション ソーシャルインクルージョン (テーマ:障がいとミュージアム)		10月27日(日)	11
ライフミュージアムネットワーク2019フォーラム1「活かす・生きるミュージアム」		1月18日(土)	54
ライフミュージアムネットワーク2019フォーラム2「記憶と人間の方舟として」	鷺田清一 (せんだいメディアテーク館長) 赤坂憲雄 (館長)	2月14日(金)	153

(18) 友の会事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
友の会講演会「東日本における会津の古墳」	友の会	平澤 慎 (学芸員)	11月4日(月)	90

(19) 復興応援パートナー事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
福島しあわせ運べるように合唱団ミニコンサート	福島しあわせ運べるように合唱団	4月6日(土)	57



復興応援パートナー事業
「福島しあわせ運べるように合唱団ミニコンサート」



実技講座「須賀川の絵のぼりをつくろう」



考古学講座「会津大塚山古墳を考える」



民俗講座「雪国・会津のまつり」



体験的学習事業
「親子で探検！はくぶつかんのウラ側」



体験的学習事業
「親子で探検！はくぶつかんのウラ側」



歴史講座「はじめてさんの古文書講座」



美術講座「触って見てみる刀剣講座」



子育て世代対応事業「博物館でも読み聞かせ」



子育て世代対応事業「ピアノアニマルズ」

(2) けんぱくミュージアムイベント

福島の文化や博物館の活動について、気軽な雰囲気の中で知っていただくための催し。県民の皆様に博物館を身近に感じてもらうことで、今まで博物館に縁遠かった人々を含め、様々な人の集う空間になるよう企画し、8件実施した。

ア. 山ノ内磐水と玄如節

- (ア) 日 時 令和元年6月15日(土)
13時30分～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 エントランスホール
- (ウ) 参加者数 72人
- (エ) 共催・出演 玄如節顕彰会
- (オ) 内 容

玄如節は即興の掛け合いで唄うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。本年は博物館前に建てられている玄如節顕彰碑建立20周年と山ノ内磐水翁碑建立10周年を記念して開催した。山ノ内磐水の功績や玄如節の民謡としての特徴についてのミニ講演に続き、東北を中心にして各地の民謡と玄如節が披露された。



山ノ内磐水と玄如節

イ. 会津磐梯山・市民盆踊り

- (ア) 日 時 令和元年8月15日(木)
19時～20時30分
※博物館閉館後
- (イ) 会 場 福島県立博物館 前庭
- (ウ) 参加者数 152人
- (エ) 共 催 会津磐梯山盆踊り保存会
- (オ) 内 容

博物館前庭に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大震災でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

ウ. 夏休みナイトミュージアム

- (ア) 日 時 令和元年8月24日(土)
17時30分～18時30分
※博物館閉館後
- (イ) 会 場 福島県立博物館 常設展示室
- (ウ) 参加者数 88人
- (エ) 講 師 学芸員
- (オ) 内 容

いつもと違う雰囲気の真っ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。令和元年度も学芸員が夜の見学ならではの演出を交えて解説した。



夏休みナイトミュージアム

エ. Coderanniコンサート

- (ア) 日 時 令和元年9月16日(月・祝)
13時30分～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 215人 解説会13人
- (エ) 出 演 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」の皆様
- (オ) 内 容

演奏団体は、会津地域の室内楽普及を目的として、平成23年7月に音楽教育学研究者の峯岸創によって設立された楽団である。秋の企画展「あにまるずーどうぶつの考古学」開催に合わせ、様々などうぶつたちに関わる音楽を集めた魅力的なプログラムであった。第一部「鳥・フルート協奏曲「ごしきひわ」・小鳥の旅・七つの子他。第二部「虫・どうぶつ・魚介など」・蚤(のみ)の歌・かえるの笛・べこの子うしの子他。第二部が始まる前に、企画展の見所についてワンポイント解説会を行い、コンサート終了後には企画展全体の解説会を実施した。



Coderanniコンサート

オ. 親子でやすらぐ子守唄コンサート

(ア) 日時 令和元年10月17日 (木)
10時～11時30分

(イ) 会場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 230人

(エ) 出演

第1部トーク NPO法人日本子守歌協会理事
長 西館好子・福島県立博物館館長 赤坂
憲雄

第2部子守歌演奏 雨宮知子 (歌手)・岸本
あかね (ピアノ)

(オ) 内容

普段は博物館になかなか来館できない子育て世代の親子に焦点を当て、併せて、幼稚園等の幼児も対象に開催した。講師の西館さんと館長の軽快な対談からスタートし、子守歌の演奏、そして企画展あにまるず〜どうぶつの考古学〜開催に合わせ、動物メドレー「いぬのおまわりさん〜ぞうさん〜げんこつ山のたぬきさん〜パンダうさぎコアラ〜アイアイ」を含め、手遊びやエプロンシアターなどを織り交ぜながら15曲の演奏をしていただいた。会場にいる赤ちゃんから孫を連れてきたご年配の方まで出演者と一緒に歌い、会場全体に笑顔あふれるコンサートとなった。



親子でやすらぐ子守唄コンサート

カ. けんぱく映画会「縄文にハマる人々」

(ア) 日時 令和元年10月20日 (日)
13時30分～15時30分

(イ) 会場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 95人

(エ) 内容

毎年恒例の映画会を講堂を会場に開催した。企画展「あにまるず」との連動企画で、上映前に5分程度、企画展のPRと映画に登場する資料の紹介を行った。また上映後、参加希望者には特別ゲスト(元当館学芸員森幸彦氏)と当館学芸員による企画展の特別展示解説会を行い、こちらは37名の参加があった。

けんぱく映画会「縄文にハマる人々」
上映後の特別展示解説会

キ. 会津の彼岸獅子

※本イベントは新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止となった。当初の開催予定情報は下記の通り。

【当初の開催予定情報】

(ア) 日時 令和2年3月8日 (日)
13時30分～15時

(イ) 会場 福島県立博物館 エントランス
ホール

(ウ) 出演 本滝沢獅子舞保存会の皆様

(3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア. 展示室での自主学習(しおり・ワークシート)

常設展示室の展示資料を見る際のポイントがわかりやすくなるように、設問形式で解答を書き込みながら学べるように構成した。児童・生徒は、自分のペースで見学をし、自由に考察を深めることができる。しおりは博物館ホームページからダウンロードできる。ま

た、やさしい日本語を意識し、漢字にはルビをふっているのが、留学生も活用できる。

(ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)

主に修学旅行など班行動などで活用されているワークシートであるが、本年度企画展のため常設展示から資料が移動することもあり、あわせてワークシートの内容について一部見直しを行った。

(イ) 常設展総合展示室案内シート

前年度に取りまとめた常設展総合展示室案内シートとして二か月ごとに内容を変更させ再来館時にも楽しめるよう設定した。それぞれテーマを持たせて6種類の内容とした。また全体的に種類が多くなってきたため、一部ワークシートの整理を進め内容の見直しを行った。新たに家族での来館に対して試作ワークシートのテストを行った。

イ. 学習プログラム

各団体のニーズに応じたきめ細かい事前相談に取り組み、幅広い年齢層に対応できるプログラム作りに工夫改善を図っている。その中でも、学校団体については、日常の授業と博物館の見学を効果的に結び付けることができる活動メニューを準備し、子供たちの「文化に親しむ心の醸成」を支援している。子供たちが博物館の資料を用いながら体験学習をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上でとても有効である。さらに、幼児に向けて昨年度開発した「未就学児対応学習プロ

グラム」を今年度は協力園の園児たちに試行した。その検証を元に、今後、本格的に実施していく予定である。

<団体利用プログラム> 事前申込制

◆【ふくしまの歴史や地域の歴史についての講話】(30分～50分) + 【展示室見学または展示解説】(30分)

◆【体験学習プログラム】(60分) + 【展示室見学または展示解説】(30分)

◆【展示解説】(20分～60分)

◆【バックヤードツアー】(60分～90分)

◆【相談に応じた独自プログラム】(60分～120分) 各団体との事前相談をもとに実施されるオーダーメイドのプログラム、または体験学習活動

<体験学習プログラム> 事前申込制

①「原始・古代のワザに挑戦」(考古分野)

②「化石にふれてみよう」(自然分野)

③「紙すきハガキづくり」(民俗分野)

④「昔の道具体験」(民俗分野)

⑤「度量衡の統一と農民の暮らし」(歴史分野)

(詳細については、表「令和元年度学習プログラム対応事業実施状況」に記します。なお、企業等への団体対応プログラムの実施も含まれます。)

令和元年度学習プログラム対応事業実施状況 (学校対応・公民館対応・展示個別解説)

No.	月日	団体名(学年)	内容(分)	滞在時間(分)	参加人数
1	4月4日	日本大学工学部機械工学科(1年)	特集展「震災遺産を考える」概要説明(20)	50	165
2	4月4日	日本大学工学部生命応用化学科(1年)	特集展「震災遺産を考える」概要説明(20)	80	113
3	4月6日	福島しあわせ運べるように合唱団	特集展「震災遺産を考える」解説(30)	70	34
4	4月19日	東山小学校(6年)	「会津の歴史」講話(30)	90	43
5	4月19日	城西小学校(6年)	「会津の歴史」講話(30)	60	88
6	4月19日	日新小学校(6年)	「会津の歴史」講話(30)	90	51
7	4月19日	会津慈光こども園(年長)	部門展示室「フタバスズキリュウの秘密」解説(20)、常設展「動物を探そう」解説(20)	40	25
8	4月20日	古墳見学会 名古屋本部	「会津の古墳」講話(30)	60	13
9	4月23日	新鶴小学校(6年)	「会津の歴史」講話(30)	90	34
10	4月23日	勝常小学校(6年)	「会津の歴史」講話(30)	70	14
11	4月23日	湯川中学校(1年)	常設展通し解説(30)	40	36
12	4月25日	翁島小学校(6年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(50)・「度量衡の統一と農民の暮らし」体験(30)	80	12
13	4月25日	一箕小学校(6年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(50)	120	114
14	4月26日	緑小学校(6年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(30)	75	13
15	4月26日	緑小学校(1・2・3年)	部門展示室「フタバスズキリュウの秘密」解説(20)、常設展「動物を探そう」解説(20)、体験学習室「昔の遊び」体験(20)	60	23

令和元年度学習プログラム対応事業実施状況（学校対応・公民館対応・展示個別解説）

No.	月日	団体名(学年)	内容(分)	滞在時間(分)	参加人数
16	4月26日	山都小学校(6年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(30)	90	30
17	4月26日	千里小学校(6年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(30)	70	11
18	5月9日	さくら小学校(3,4年)	部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(30)×2回	60	42
19	5月9日	勝常小学校(1・2・3年)	1・2年→部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(15)、常設展「動物を探そう」解説(15)、体験学習室「昔の遊び」体験(10) 3年生→部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(20)、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(40)	90	41
20	5月10日	熊町小学校(6年)	常設展通し解説(30)、企画展「とりもどすきずな つながるみらい」解説(30)	100	5
21	5月10日	湊小学校(6年)	常設展通し解説(30)	60	9
22	5月10日	西会津小学校(3年)	部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(25)、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(25)	60	35
23	5月10日	会津慈光こども園(年長)	さくらワークショップ(45)	45	25
24	5月15日	会津慈光こども園(年長)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(20)、さくらワークショップ(25)	45	25
25	5月24日	本郷小学校(2年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(20)×2回、常設展「動物を探そう」解説(20)×2回	60	50
26	5月24日	門田小学校(2年)	企画展「とりもどすきずな つながるみらい」解説(20)、ワークショップ「光の鳥を探そう」(20)、体験学習室「昔のあそび」体験(20)	60	72
27	5月24日	高田小学校(2年)	常設展「木炭と木炭バス」解説(10)×4回	60	104
28	5月24日	小金井小学校(3年)	部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(15)×4回	60	111
29	5月30日	東山小学校(1年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(15)×2回、常設展「動物を探そう」解説(15)×2回、体験学習室「昔の遊び」体験(25)	60	54
30	5月30日	福島大学付属特別支援学校高等部(2年)	常設展「戊辰戦争について」解説(20)	60	12
31	5月30日	行仁小学校(2年)	部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(20)×2回、体験学習室「昔のあそび」体験(20)×2回	120	52
32	5月31日	猪苗代小学校(6年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(30)	90	44
33	6月1日	宮城大学(1年)	企画展「とりもどすきずな つながるみらい」解説(30)、常設展ハイライトツアー参加(30)	120	5
34	6月4日	会津若松市立第一中学校美術部	企画展「とりもどすきずな つながるみらい」解説(20)、館内資料のスケッチ体験(100)	120	29
35	6月7日	塩川小学校(4年)	部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(20)×2回	60	62
36	6月7日	駒形小学校(1・2・3年)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(20)×2回、常設展「動物を探そう」解説(20)×2回	120	45
37	6月7日	西会津町授産場	紙漉き体験(40)、企画展「とりもどすきずな つながるみらい」解説(20)	80	30
38	6月8日	福島大学行政政策学類(1年)	常設展ハイライトツアー参加(30)、企画展「とりもどすきずな つながるみらい」解説(30)、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(30)、バックヤード案内(120)	210	17
39	6月13日	福島第三小学校(6年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(30)	90	78
40	6月13日	三河台小学校(6年)	部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(30)	50	21
41	6月15日	中島村児童館	4・5・6年生→常設展ハイライトツアー参加(30)、3年生→常設展通し解説(30)、1・2年生→部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(30)	60	96
42	6月16日	コスモススポーツクラブ	3・4・5・6年生→常設展通し解説(30)、1・2年生→体験学習室「昔のあそび」体験・時代衣装体験(30)	60	34
43	6月20日	船引小学校(6年)	「福島歴史～田村町の歴史について」講話(30)	75	111
44	6月20日	原瀬小学校(6年)	常設展通し解説(30)	75	13
45	6月21日	多田野小学校(4年)	常設展「安積開拓事業について」解説(15)	40	26
46	6月25日	高田小学校(6年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(30)	60	43
47	6月28日	福祉協議会「すみれ会」	部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(30)	60	25
48	7月2日	一箕小学校(3年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(30)	60	31

令和元年度学習プログラム対応事業実施状況（学校対応・公民館対応・展示個別解説）

No.	月日	団体名(学年)	内容(分)	滞在時間(分)	参加人数
49	7月3日	新地小学校(6年)	常設展通し解説(30)	60	38
50	7月9日	本郷公民館文化協会	企画展「興福寺と会津」解説(30)	90	26
51	7月10日	富岡第一中学校(1年)	「震災遺産を考える」講話(30)、防災教育レクチャー(30)	60	8
52	7月11日	会津慈光こども園(年長)	企画展「興福寺と会津～仏様をみてみよう」解説(20)、「声明」映像鑑賞(20)	45	73
53	7月11日	磐梯中学校	企画展「興福寺と会津」解説(30)	80	53
54	7月11日	川西コミュニティセンター	企画展「興福寺と会津」解説(30)	90	23
55	7月14日	川俣町中央公民館	企画展「興福寺と会津」解説(40)、常設展ハイライトツアー参加(30)	150	25
56	7月18日	伊達地方文化団体連絡協議会	企画展「興福寺と会津」解説(30)	60	36
57	7月19日	霊山学会	館長講座参加(60)、企画展「興福寺と会津」解説(30)	180	35
58	7月23日	エミール幼稚園(年長)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(20)、体験学習室「昔の遊び」体験(20)	60	40
59	7月23日	須賀川市稲田公民館	企画展「興福寺と会津」解説(30)	60	23
60	7月23日	会津アカデミー	企画展「興福寺と会津」解説(30)	60	7
61	7月23日	那須野が原博物館ボランティアグループ	企画展「興福寺と会津」解説(30)	60	21
62	7月26日	東和長寿大学	常設展通し解説(30)×2回	60	70
63	7月30日	翔洋学園高等学校(1年)	常設展通し解説(45)×2回、「化石にふれてみよう」体験(45)×2回	120	34
64	7月31日	両沼支部 中学校教育研究会養護部会	常設展通し解説(20)、防災教育レクチャー(20)、バックヤード案内(20)	120	9
65	7月31日	高寺文化財教室(両沼支部)	企画展「興福寺と会津」解説(30)	60	27
66	8月2日	七色学舎(小学生)	常設展通し解説(30)	90	23
67	8月2日	広瀬コミュニティセンター	企画展「興福寺と会津」解説(30)	30	21
68	8月6日	松長こどもクラブ	企画展「興福寺と会津」解説(30)	60	19
69	8月7日	仙台りびング	企画展「興福寺と会津」解説(30)	60	31
70	8月7日	東北福祉大学	企画展「興福寺と会津」解説(30)	90	41
71	8月8日	白沢公民館	企画展「興福寺と会津」解説(60)	105	32
72	8月9日	安積高等学校図書委員会	図書室「資料整理」・「図書管理」について説明(60)	90	21
73	8月9日	喜多方中央公民館	「徳一と会津」講話(30)、企画展「興福寺と会津」解説(40)	75	26
74	8月9日	姥堂児童クラブ	常設展通し解説(30)	60	17
75	8月9日	若宮コミュニティスクール	企画展「興福寺と会津」解説(30)	90	33
76	8月10日	東日本国際大学留学生	総合展示室案内(60)・振り返り(30)	90	32
77	8月12日	ファミリー・キッズ会津若松	常設展案内(30)、体験学習室「ミニミニ博物館」参加(30)	60	9
78	8月18日	大信公民館	「白河・大信の歴史」講話(30)、常設展通し解説(30)	90	20
79	8月21日	域内小・中学校教頭会	防災教育レクチャー(15)、常設展通し解説(30)×3回	60	100
80	8月30日	塩川のびやか保育園	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(20)、常設展「動物を探そう」解説(20)、体験学習室「昔の遊び」体験(20)	60	26
81	9月6日	飯豊小学校(6年)	常設展通し解説(30)	60	30
82	9月12日	油井小学校(6年)	常設展通し解説(30)	60	66
83	9月12日	高平小学校(6年)	常設展通し解説(30)	60	34
84	9月18日	金山小学校(6年)	「勾玉づくり」体験学習(60)	90	7
85	9月18日	鶴城小学校(2年)	バックヤード案内(25)	25	13
86	9月19日	門田報徳こども園(年長)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(25)×2回、常設展「動物を探そう」解説(25)×2回	60	49
87	9月25日	会津若松市立第二中学校美術部	企画展「あにまらず」解説(40)、企画展資料のスケッチ(30)、振り返り(10)	90	22
88	9月26日	松風石川会懇親会	常設展通し解説(30)	45	13
89	10月4日	会津報徳こども園(年長)	部門展示室「フタバズキリュウの秘密」解説(20)、常設展「動物を探そう」解説(20)、体験学習室「昔の遊び」体験(50)	90	23
90	10月4日	白河高等学校(1年)	企画展「あにまらず」解説(45)×4回	180	250
91	10月8日	退職校長会	企画展「あにまらず」解説(50)、バックヤード案内(30)	90	22

令和元年度学習プログラム対応事業実施状況（学校対応・公民館対応・展示個別解説）

No.	月日	団体名(学年)	内容(分)	滞在時間(分)	参加人数
92	10月8日	湊小学校(3年)	「昔の道具」体験(40)、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(25)、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(25)	90	11
93	10月10日	東和小学校(6年)	企画展「あにまらず」解説(30)、常設展通し解説(30)	60	42
94	10月16日	白河市東公民館	企画展「あにまらず」解説(30)、常設展通し解説(30)	90	23
95	10月16日	磐梯第一小学校(6年)	「江戸時代から明治時代のふくしま」講話(40)、常設展通し解説(30)	120	22
96	10月20日	福島県民俗学会	部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(60)	180	8
97	10月24日	北会津地区小学校教育研究会社会科部会	「紙漉き」体験(45)、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(30)	120	17
98	10月24日	安積高等学校(1年)	企画展「あにまらず」解説(60)、常設展通し解説(30)	130	41
99	10月24日	笈川小学校(6年)	「化石にふれてみよう」体験(40)、常設展通し解説(30)	90	15
100	10月25日	一箕小学校(5年)	県立博物館施設見学(ユニバーサルデザインについて)(30)	30	34
101	10月26日	鶴城小学校PTA学年行事(3年)	「勾玉づくり」体験(60)×2回	120	75
102	10月31日	泉崎第二小学校(6年)	企画展「あにまらず」解説(30)、常設展通し解説(25)	60	32
103	11月2日	福島県立医科大学(1年)	常設展ハイライトツアー参加・自由見学(90)、企画展「あにまらず」解説(90)、バックヤード見学(60)、まとめ(30)	270	10
104	11月6日	白河市中心公民館	企画展「あにまらず」解説(60)	120	31
105	11月8日	会津若松市教育委員会教育相談室	企画展「あにまらず」解説(30)、常設展通し解説(30)	60	14
106	11月8日	会津美里町本郷公民館	企画展「あにまらず」解説(60)	60	9
107	11月12日	ヒューマニティー幼保学園(年長)	部門展示室「フタバスズキリュウの秘密」解説(25)×2回、企画展「あにまらず」解説(25)×2回	60	39
108	11月14日	会津坂下町広瀬コミュニティーセンター	企画展「あにまらず」解説(60)	90	11
109	11月13日	会津養護学校中学部(1年)	常設展「昔の人の暮らしについて」解説(50)	50	17
110	11月14日	会津支援学校竹田校(5・6年)	企画展「あにまらず」解説(60)、常設展通し解説(60)	135	14
111	11月16日	茨城キリスト教大学(1年)	バックヤード案内(60)	120	7
112	11月19日	あいづわくわく学園	常設展通し解説(30)	90	21
113	11月19日	永和小学校(6年)	「会津の歴史～会津の古墳」講話(45)、常設展通し解説(30)	90	14
114	11月20日	ザベリオ学園小学校(6年)	常設展「鎌倉期～昭和期のふくしま」解説(20)	60	20
115	11月22日	東山小学校(3年)	部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(20)×2回、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(20)×2回	90	47
116	11月27日	喜多方市立第三小学校(6年)	「会津の歴史～大塚山古墳について」講話(40)、部門展示室「よみがえる会津大塚山古墳」解説(20)	110	24
117	11月27日	川南小学校(3年)	「昔の道具」体験(90)、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(20)、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(25)	135	25
118	11月28日	会津ザベリオ学園小学校(3年)	「昔の道具」体験(60)、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(15)、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(15)	90	35
119	12月5日	城北小学校(4年)	「安積開拓事業・戸の口堰」講話(30)	90	50
120	12月6日	鶴城小学校(3年)	「昔の道具」体験(45)×2回、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(25)×2回、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(20)×2回	90	47
121	12月11日	磐梯第二小学校(6年)	常設展通し解説(30)	90	13
122	12月12日	謹教小学校(3年)	「昔の道具」体験(45)×2回、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(25)×2回、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(20)×2回	90	54
123	12月17日	城南小学校(3年)	「昔の道具」体験(45)×2回、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(25)×2回、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(20)×2回	90	74
124	12月18日	大戸小学校(3年)	「昔の道具」体験(45)、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(25)、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(20)	90	11

令和元年度学習プログラム対応事業実施状況（学校対応・公民館対応・展示個別解説）

No.	月日	団体名(学年)	内容(分)	滞在時間(分)	参加人数
125	1月22日	多賀中学校(2年)	常設展通し解説(30)×3回	70	127
126	2月7日	日高中学校(2年)	常設展通し解説(30)×3回	70	130
127	2月18日	行仁小学校(3年)	「昔の道具」体験(45)×2回、部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」解説(25)×2回、体験学習室「昔のあかり」体験・「囲炉裏のある生活」解説(20)×2回	90	49
			学校・公民館・各種団体合計(4,907)		4,907



未就学児対応学習プログラム
「さくらワークショップ」1



体験学習プログラム「昔の道具体験」



未就学児対応学習プログラム
「さくらワークショップ」2



中学校美術部対応学習プログラム
「企画展あにまらずから学びはにわをつくる」



小学校対応学習プログラム「会津の歴史」講話



体験学習プログラム「化石にふれてみよう」

ウ. 指導者向け研修

今年度は「博物館を使った授業でできること、伝えたいことを考える」をテーマに、学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館を活用した学校教育プログラム研修会を実施した。博物館のもつ学校連携型の学習プログラムを実際に体験してもらうことにより、当館の学習支援活動への理解を深め、学校や公民館の諸活動における活用の推進を図っている。令和元年8月1日(木)に午前の部2名、午後の部18名の参加者による実施となった。

令和元年度 博物館を活用した学校教育プログラム研修会

時間	内容	場所
10:00～10:10	開講式・オリエンテーション	視聴覚室
10:10～10:30	研修1「当館の学校団体活用の実際」	視聴覚室
10:30～12:00	研修2「博物館資料の活用 その実際とポイント」	展示室・収蔵庫
－昼食－		
13:00～13:50	研修3「防災クロスロード(防災教育)」	視聴覚室
13:55～14:45	研修4「教育現場における白虎隊の伝え方」	実習室

ゲストティーチャー実施一覧

No.	月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目	受講者数
1	9月4日	小林めぐみ	美術	地域に根ざす日本の伝統文化を学ぶ(会津型について・日本の文様について)	会津若松市立第二中学校	2年・美術(地域の工芸学習)	103
2	9月12日	筑波匡介	震災	昭和中学校防災教室	昭和村立昭和中学校	全校生徒	24
3	10月8日	相田 優	自然	環境教育～自然に学ぶ	慈光こども園	年長児	76
4	10月9日	猪瀬弘瑛	自然	地層や火山について	会津若松市立湊小学校	6年・理科「大地のつくり」「変わり続ける大地」	8
5	10月10日	相田 優	自然	環境教育～自然に学ぶ	慈光第二こども園	年長児	58
6	11月13日	平澤 慎	考古・連携交流	職業人講話	福島県立会津学鳳高等学校	1年・キャリア教育	40
7	11月22日	筑波匡介 弦巻優太	震災	防災教育出前講座	三島町立三島中学校	全校生徒	30
受講者数合計							339

カ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和元年度は5校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。また仕事だけでなく職員の働く気持ちや生き方についても伝えられるように意識して対応することを心掛けた。

令和元年度 博物館を活用した学校教育プログラム研修会

時間	内容	場所
14:50～15:40	研修5「昔の道具」	実習室
15:45～16:00	振り返り 閉講式・修了証授与	実習室

定員30名

エ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っているが、令和元年度は学習用具・教材等の貸出実績はなかった。

オ. ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

令和元年度の実施回数は7回で、参加者は339人であった。

○職場体験受け入れ実績(児童・生徒のみ)

- ・会津若松市立第一中学校(2年生:3名) 2日間
- ・会津若松市立第三中学校(2年生:3名) 3日間
- ・会津若松市立第四中学校(2年生:3名) 2日間
- ・会津若松市立第六中学校

- (2年生：2名) 2日間
- ・会津若松市立一箕中学校
- (2年生：1名) 1日間

キ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和元年度は県内出身および県内大学に在学する学生11名を受け入れた。演習「防災講座「たのしいそなえ」」では、講座の



博物館実習「自然資料の取り扱い」

企画立案を実習生が行い、講座を実施した。講座当日には30名が参加し、演習を通して参加者とともに防災や備えについて「自分事」として考え、防災意識を高めることができた。
実習期間 8月27日(火)～9月1日(日)

実習生所属大学一覧

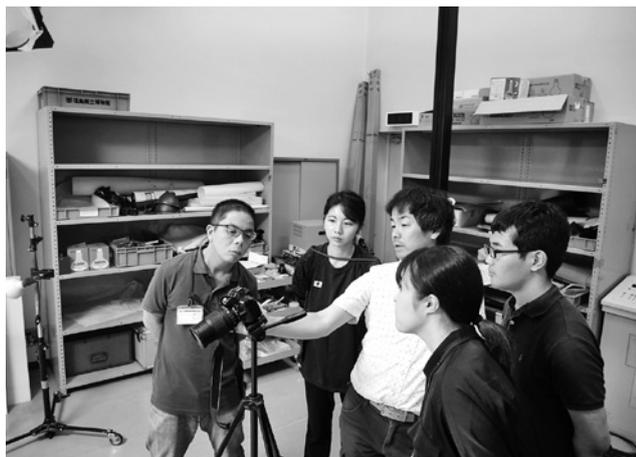
No	大学名	人数
1	茨城大学	1
2	桜美林大学	1
3	郡山女子大学短期大学	1
4	聖心女子大学	1
5	清泉女子大学	1
6	大正大学	1
7	千葉大学	1
8	新潟大学	2
9	八洲学園大学	1
10	山形県立米沢女子短期大学	1
合 計		11

福島県立博物館 令和元年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所	
8月 27日 (火)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	連携交流班 (実習担当)	第2会議室	
	9:00～ 9:10	実習生紹介	連携交流班 (実習担当)	事務室	
	9:10～ 9:40	オリエンテーション	連携交流班 (実習担当)	第2会議室	
	9:40～10:30	福島県立博物館の概要	学芸課長	第2会議室	
	10:30～11:20	博物館の企画運営・展示	企画推進班	第2会議室	
	11:20～12:00	博物館の資料と調査研究	企画推進班	第2会議室	
	—昼食—				
	13:00～14:30	施設・設備の見学・実習(導線調査)	連携交流班	実習室	
	14:30～16:00	震災遺産について	震災遺産チーム	第2会議室	
	16:00～16:40	ミニ防災講座の立案について(趣旨説明など)	震災遺産チーム・連携交流班	第2会議室	
16:40～17:00	実習日誌の作成・提出	連携交流班	第2会議室		
28日 (水)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	連携交流班	第2会議室	
	9:00～12:00	歴史資料の取り扱い	歴史分野	第2会議室	
	—昼食—				
	13:00～14:00	図書資料の整理・登録	企画推進班	第2会議室	
	14:00～16:30	ミニ防災講座の立案・作業	連携交流班 (実習担当)	第2会議室	
16:30～17:00	実習日誌の作成提出	連携交流班 (実習担当)	第2会議室		
29日 (木)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	連携交流班 (実習担当)	第2会議室	
	9:00～12:00	自然資料の取り扱い	自然分野	実習室	
	—昼食—				
	13:00～16:00	民俗資料の取り扱い	民俗分野	第1収蔵庫	
	16:00～16:40	ミニ防災講座の立案・作業	震災遺産チーム・連携交流班	第2会議室	
16:40～17:00	実習日誌の作成提出	連携交流班	第2会議室		

福島県立博物館 令和元年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
30日 (金)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	連携交流班 (実習担当)	第2会議室
	9:00～12:00	美術資料の取り扱い —昼食—	美術分野	第2会議室
	13:00～15:00	資料の保存	保存科学分野	実習室
	15:00～16:40	ミニ防災講座の立案・作業	震災遺産チーム・連携交流班	第2会議室
	16:40～17:00	実習日誌の作成提出-	連携交流班 (実習担当)	第2会議室
31日 (土)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	連携交流班 (実習担当)	第2会議室
	9:00～12:00	ミニ防災講座の立案・作業について —昼食—	震災遺産チーム・連携交流班	第2会議室
	13:00～16:30	ミニ防災講座の立案・作業について	震災遺産チーム・連携交流班	第2会議室
	16:30～17:00	実習日誌の作成・提出	連携交流班 (実習担当)	第2会議室
9月 1日 (日)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	連携交流班 (実習担当)	第2会議室
	9:00～12:00	ミニ防災講座の作業 —昼食—	震災遺産チーム・連携交流班	第2会議室
	13:00～15:30	ミニ防災講座	震災遺産チーム・連携交流班	エントランスホール
	15:30～16:00	まとめ 実習を終えて (感想・意見交換)	連携交流班 (実習担当)	第2会議室
	16:00～17:00	実習日誌の作成・提出	連携交流班 (実習担当)	第2会議室



博物館実習「民俗資料の取り扱い」



博物館実習防災講座「たのしいそなえ」

(4) 生涯学習・研究支援

ア. 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,705冊である。

相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場としても利用される。

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：27件48点 歴史：18件149点
美術：1件3点 民俗：1件2点
自然：4件1,338点 計51件1,540点

ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

令和元年度の派遣回数は21回で、参加者は1,484人であった。

講師派遣一覧

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催	参加者数
1	6月12日	塚本麻衣子	美術	興福寺の国宝がやってくる	福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ（株式会社福島まちづくりセンター）	80
2	6月15日	高橋 充	歴史	戦国期の蘆名氏と会津	東北大学国史談話会	70
3	6月22日	塚本麻衣子	美術	徳一と会津の仏教文化	磐梯山慧日寺資料館	50
4	6月26日	高橋 満	考古	東日本大震災と地域博物館	文化庁	28
5	6月28日	高橋 充	歴史	戦国時代の福島	会津美里町教育委員会	100
6	7月27日	内山大介	民俗	文化遺産としての民俗・地域研究としての民俗学	福島大学	30
7	8月25日	阿部綾子	歴史	戊辰戦争 会津での戦い～奥女中が伝えた会津籠城戦～	只見町	45
8	9月12日	内山大介 大里正樹	民俗	金山町民具資料の整理について	福島大学	16
9	9月13日 ～15日	内山大介 大里正樹	民俗	金山町民具資料の整理について	金山町・福島大学	16
10	9月29日	高橋 充	歴史	蒲生秀行の生涯と宇都宮・若松	宇都宮市	135
11	10月2日	高橋 充	歴史	ガイドンス・福島博物館と城・町	福島県立医科大学	15
12	10月9日	内山大介	民俗	医療と民俗Ⅰ 妊娠と出産	福島県立医科大学	15
13	10月16日	内山大介	民俗	医療と民俗Ⅱ 死と葬送	福島県立医科大学	14
14	11月3日	高橋 充	歴史	会津・米沢街道を往来した人々	北塩原村	30
15	11月16日	高橋 充	歴史	伊達政宗の挑戦、蒲生氏郷の理想	JR東日本企画	567
16	11月19日	猪瀬弘瑛	自然	棚倉をクジラが泳いでいたころ	棚倉町	20
17	12月5日	藤原妃敏	考古	会津に人が住み始めた頃の話	磐梯町中央公民館	40
18	1月13日	内山大介・ 筑波匡介	震災	専門家によるポイント解説「被災時の博物館」	京都歴史文化施設クラスター実行委員会、ICOM京都大会2019組織委員会、ICOM日本委員会	96
19	1月25日	阿部綾子	歴史	中村藩士の禄高～明治四年の禄高調から～	相馬郷土史研究会	50
20	1月27日	塚本麻衣子	美術	会津の仏像の見所紹介	極上の会津プロジェクト協議会	35
21	2月13日	高橋 充 塚本麻衣子	歴史 美術	江戸時代の観音めぐり 三十三観音めぐりと会津の仏教文化	極上の会津プロジェクト協議会	32
参加者数合計						1,484

(5) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア. 友の会の概要

①発足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

令和2年3月22日に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染がさらに拡大していることを考慮し、中止せざるを得なかった。同日開催予定だった会津大学教授出村裕英氏による講演会も中止とした。

④令和元年度会員数

個人会員：135 家族会員：31

高校生会員：0 賛助会員：4 合計：170

イ. 令和元年度事業概要

(ア) 友の会主催特別講演会の開催

日時：令和元年11月4日（月・振休）13:30

講師：福島県立博物館学芸員 平澤慎

演題：東日本における会津の古墳

会場：博物館講堂

来場者：100名

(イ) 研修旅行

春と秋に研修旅行を計画していたが、秋については、参加希望者が少なく中止となった。春については、十日町市博物館（新潟県十日町市）と新潟県立歴史博物館（新潟県長岡市）を訪れた。十日町市博物館では、常設展を見学した後、同館の友の会の方に活動状況などについて説明していただくとともに、意見交換の場を設けていただいた。また、新潟県立歴史博物館では、学芸員の方から説明を受けながら常設展を見学した。両館での研修はたいへん意義深いものとなった。

○春の研修旅行

研修先：十日町市博物館・新潟県立歴史博物館

期日：令和元年7月30日（火）

参加者：33名

(ウ) 会報の発行

第119号・第120号・第121号と3回の会報を発行し会員に配布した。会長のご挨拶、研修旅行の報告、サークル活動の様子や会員の研究ノートなど、会員の顔が見える紙面作りに努めた。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

4月26日（金）「とりもどすきずな つながるみらい」内覧会 35名参加

7月5日（金）「興福寺と会津一徳一がつかないだ西と東」内覧会 50名参加

9月6日（金）「あにまるずーどうぶつの考古学」内覧会 26名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。



企画展「あにまるずーどうぶつの考古学」
内覧会の様子



友の会主催特別講演会「東日本における会津の古墳」

ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の2サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、

自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数35名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

令和元年度は次の活動を行った。

平成31年

- ① 4月14日 いわき市御斎所鉱山（鉱物：菱マンガン鉱）

令和元年

- ② 5月12日 新潟県阿賀町草倉鉱山（鉱物：黄銅鉱、石英、水晶）
- ③ 6月9日 黒沢鉱山、田代鉱山（鉱物：黒鉱、方鉛鉱）
- ④ 7月14日 昭和村（化石：貝化石）
- ⑤ 8月4日 和久観音山（鉱物：電気石、石川石）
- ⑥ 9月9日 水引鉱山（鉱物：磁硫鉄鉱、硫砒鉄鉱）
- ⑦ 10月19日 博物館主催「自然史講座：化石標本をつくろう」
- ⑧ 12月1日 学習会
- 令和2年
- ⑨ 3月1日 総会・研修会



友の会化石鉱物探検隊採集活動の様子



友の会化石鉱物探検隊学習会の様子

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20～25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を使用している。築田家は江戸時代に若松城下の検断（町役人）を務めた家で、その文書は城下の様子を伝える良質な資料であり、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。令和元年度は前年度に引き続き、会津藩の江戸産物会所にかかわる記録「御国産一件 壺」の解読に取り組み、会津藩の産物の流通について学んだ。

令和元年度の活動人数は24名で、前年度に引き続き月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。なお今年度で「御国産一件 壺」を解読し終わる予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため3月の例会が休会となり、テキスト読了は次年度に持ち越した。

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

福島県立博物館 令和元年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B2	企画展「興福寺と会津一徳一がつかないだ西と東」3,000枚 企画展「あにまるずーどうぶつの考古学」2,500枚 次年度企画展「ふくしまの旅ー懐かしの景色を訪ねて」2,500枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A4 「興福寺と会津」展はA3版とA4版の2種作成	企画展「興福寺と会津一徳一がつかないだ西と東」A3版100,000枚、A4版5,000枚 企画展「あにまるずーどうぶつの考古学」68,000枚 けんぱく映画会「縄文にハマる人々」5,500枚 テーマ展「けんぱくの宝2019」5,000枚 特集展「震災遺産を考えるーそれぞれの9年」14,000枚（館内印刷） 次年度企画展「ふくしまの旅ー懐かしの景色を訪ねて」60,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所 その他、福島民友・福島民報への新聞折込み（会津若松市内の購読世帯）
博物館だより (博物館の広報誌)	A4 8頁	4,000部×4回=16,000部	県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の国立・県立図書館・大学図書館 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	20.0×40.0cm 観音折り	45,000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
新広報物『なじよな』創刊号（イベント案内号）	A2 4つ折り	20,000枚×1回=20,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
月行事予定表	A4 (館内印刷)	14,000枚×6回=84,000枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 会津若松市記者クラブ 会津若松市・周辺市町村の観光・広報係 県内主要文化施設
プレス・リリース (企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供)	A4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

Twitterが1167件（前年度末より614件増）と、前年度末と比べて大幅に増加した。来館者アンケートでもSNSの投稿を見て来館したという意見が見受けられるようになり、SNSを活用した広報は来館者の増加にも一定の役割を果たすことができたと言える。

オ. 記事・放映

新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる、各種行事の取材に基づいた記事・放映は次の通りである。

(ア) 春の企画展「とりもどすきずな つながる みらい」

- ・福島民報「震災のアート紹介 県立博物館きょうから企画展」(4月27日記事)
- ・福島民友「本県のアートプロジェクト紹介 きょう県立博物館で開幕」(4月27日記事)
- ・福島民報「震災後の活動紹介 若松の県立博物館企画展」(5月2日記事)
- ・毎日新聞「復興支援アートを紹介 会津若松「とりもどすきずな」展」(5月3日記事)
- ・福島民友「きずな つなげ「大風呂敷」震災後県内で開始七つのプロジェクト紹介」(5月29日記事)

(イ) 夏の企画展「福島復興祈念展 興福寺と会津一徳一がつかないだ西と東」

- ・福島民友「興福寺の寺宝県内初公開 県立博物館7月から復興祈念展」(2018年12月27日記事・1面)「祈り刻んだ美と迫力 7月から「興福寺と会津」展 圧倒的量感、リアルな表現」(2018年12月27日記事・3面)
- ・FCT 昼ニュース「来年7月に会津若松市で開催 興福寺の国宝などを集めた展覧会」(2018年12月27日放映)
- ・FCT ゴジてれChu!「来年7月に会津若松市で開催 興福寺の国宝などを集めた展覧会」(2018年12月27日放映)
- ・福島民友「興福寺中金堂再建語る 東京で特別講演「興福寺と会津」7月6日に開幕」(3月20日記事)
- ・福島民友「19日、前売り開始 7月6日開幕 県立博物館「興福寺と会津」」(4月17日記事)
- ・福島民友「夜の若松盛り上げる 鶴ヶ城でイベント／飲食店に芸妓ら「興福寺展」の開催中土曜日に仏像鑑賞会」(4月19日記事)
- ・福島民友「興福寺展 前売り販売開始」(4月20日記事)
- ・福島民友「若松、「興福寺展」連携講座 慧日寺が育てた仏都会津」(4月20日記事)

- ・福島民友「福島復興祈念展 興福寺と会津 徳一がつかないだ西と東」広告(5月3日広告)
- ・福島民友「美里の法用寺一般向け初 三重塔7、8月特別御開帳」(5月14日記事)
- ・福島民友「モデル・はなさん音声ガイド 仏像、歴史 耳でも満喫」(5月15日記事)
- ・福島民友「徳一ゆかり興福寺写真 慧日寺資料館展示へ」(5月16日記事)
- ・朝日新聞「報告「阿修羅像を未来へ」聴講者募集」(5月17日記事)
- ・福島民友「県立博物館あす講演会 興福寺の歴史学ぼう」(5月25日記事)
- ・福島民友「仏教美術、教え解説 きょう県立博物館」(5月26日記事)
- ・福島民友「若松で連続講座第1弾 僧徳一の実像迫る 寺の再建、歴史紹介」(5月27日記事・1面)「徳一結ぶ興福寺と会津 若松、連続講座開始 仏教芸術分かりやすく」(県立博物館、7月6日開幕 前売り券販売中)(5月27日記事・2面)
- ・FCT 昼ニュース「ドイツ出身の僧侶が講演会「興福寺と会津」展の魅力解説」(6月1日放映)
- ・福島民友「国宝阿修羅像の保存紹介 県立博物館あす講演会 会津との歴史も」(末廣酒造と興福寺コラボ 独自ラベル純米吟醸酒販売)(6月8日記事・3面)
- ・福島民友「興福寺多川貫首に聞く上 苦しみ受け止める 地蔵菩薩が心の救済」(6月9日記事・1面)「興福寺多川貫首に聞く上 ほとけさまに見られる場 目で心で向き合う時間に」(6月9日記事・3面)
- ・NHK奈良NEWS WEB「興福寺の国宝など福島で公開へ」(6月9日記事)
- ・FCT ゴジてれ×Sun!「寺の歴史など学ぶ講座「興福寺と会津」展をより楽しむ」(6月9日放映)
- ・福島民友「興福寺多川貫首に聞く中」(6月11日記事)
- ・福島民友「興福寺多川貫首に聞く下」(6月12日記事)
- ・福島民友「興福寺展 県立博物館塚本さん福島市で講演」(6月13日記事)
- ・福島民友「展示作品紹介(1) 四天王像」(6月13日記事)
- ・福島民友「多川貫首講演会告知」(6月15日記事)
- ・福島民友「展示作品紹介(2) 維摩居士坐像」(6月20日記事)
- ・福島民友「興福寺、都内で講座 県立博物館の塚本さん 会津の仏教美術解説」(6月21日記事)

- ・毎日新聞WEB地方版「興福寺 仏像、福島へ
展覧会向け21点「復興応援に」」(6月25日記事)
- ・福島民友「輸送前に法要 薬師如来坐像魂抜く
20年ぶり興福寺外に」「高速バス往復乗車券と観
覧券 県内3社セット販売」(6月25日記事)
- ・福島民友「はなさん(モデル・タレント) 音声
ガイド 仏像からパワー感じて」(6月26日記事)
- ・福島民友「展示作品紹介(3) 地藏菩薩立像」
(6月27日記事)
- ・福島民友「社説 「興福寺と会津」展 豊かな仏
教文化に触れよう」(7月2日記事)
- ・福島民友「のぼり旗設置準備着々 前売り販売
終了迫る」(7月3日記事)
- ・福島民友「展示作品紹介(4) 吉祥天立像など」
(7月4日記事)
- ・福島民友「展示作業完了」(7月5日記事)
- ・FCT ゴジてれChu!「会津若松市県立博物館で
明日から 奈良・興福寺の国宝など展示」(7月
5日放映)
- ・NHK ニュース「興福寺と会津展開幕」(7月6
日放映)
- ・福島民友「きょう開幕・内覧会」(7月6日記事)
- ・FCT NNNニュース「会津若松市県立博物館
できょうから 奈良・興福寺の国宝などを展示」
(7月6日放映)
- ・福島民友「展覧会開幕」(7月7日記事)
- ・福島民友「音声ガイド好評 はなさんの声「や
わらかい」」(7月8日記事)
- ・福島民友「玄侑さん、赤坂館長 徳一テーマに
19日対談」(7月9日記事)
- ・福島民友「15日に若松 法要の参列者募る 復
興への祈り共に」「物販コーナーも人気 ガイド
本、日本酒」(7月10日記事)
- ・福島民友「14日にワークショップ 孔雀石で絵
を描こう」「meet the 仏像(1) はなさん」(7
月11日記事)
- ・FCT ゴジてれChu!「あすの見どころ 奈良・
興福寺の仏像並ぶ企画展」(7月11日放映)
- ・福島民友「繊細な「維摩居士坐像」 15日まで展
示 経典の主人公」「話題の場所 夜の仏像鑑賞
会」(7月12日記事)
- ・FCT ゴジてれChu!「国宝などを展示 奈良・
興福寺企画展 福島復興への思いも」(7月12日
放映)
- ・福島民友「27日に「奉る音」コンサート 仏教
テーマ ギターや仏具、篠笛と箏演奏」(7月13
日記事)
- ・福島民友「仏像うまく描けた 鉾物から絵の具
作り」「興福論 展示方法に驚いた」「会津を語
る 興福寺の祈り届ける 復興への応援メッセ
ージ 県立博物館副主任学芸員塚本麻衣子さん」
(7月15日記事)
- ・FCT ゴジてれChu!「多川貫首の特別講演に多
くの人「興福寺と会津」来場者が1万人」(7月
15日放映)
- ・福島民友「興福寺、会津仏教会合同法要」「多川
貫首講演会」「来場者1万人達成」(7月17日記事)
- ・福島民友「映像作家・保山さんの映像上映」
「meet the 仏像(2) 今津節生教授」(7月18
日記事)
- ・福島民友「長岡教授講演告知」「話題の場所 館
長講座「風土の旅学一東北編」(7月19日記事)
- ・福島民友「県立博物館で対談 徳一の謎に迫る」
「興福論 会津の仏教知って」(7月20日記事)
- ・福島民友「仏像研究家、寺宝を解説 夜の鑑賞
会」「興福論 仏都だからできた」(7月21日記事)
- ・福島民友「館内レストランでコラボメニュー」
(7月25日記事)
- ・福島民友「前期展示あすまで」「きょうから子
ども解説会」「興福論 孫を連れて来たい」(7月27
日記事)
- ・福島民友「仏像への祈り音色に 徳一の旅描い
た曲演奏」「興福論 間近で迫力感じた」(7月28
日記事)
- ・日本テレビ バンキシャ「会津若松市県立博物
館で開催中「興福寺と会津」展2万人突破」(7
月28日放映)
- ・福島民友「来館者2万人突破 前期終了、あす
から後期」「興福論 穏やかな顔 癒し」(7月29
日記事)
- ・福島民友「きょうから後期展示 絵画、典籍新
たに6点」「興福論 寺宝が多く見応え」(7月30
日記事)
- ・河北新報「福島県立博物館企画展 興福寺と会
津～徳一がつかないだ西と東～ 力強い姿形 伝
承の痕跡 副主任学芸員塚本麻衣子」(7月30日
記事)
- ・福島民友「絵画や典籍新たに6点 18日まで後
期展示 貴重な曼荼羅公開」(7月31日記事)
- ・美術館ナビ「仏都会津」への道【イチローズ・
アート・バー】第18回「興福寺と会津」展から」
(7月31日記事)
- ・福島民友「3日「みどころ案内」」「meet the
仏像(3) みほとけさん」(8月1日記事)
- ・福島民友「展示作品紹介(5) 護法善神屏絵」
(8月2日記事)
- ・福島民友「赤坂館長と本紙社長対談 歴史や文
化にも光」「興福論 360度から見られる」(8月
3日記事)
- ・福島民友「学芸員が見どころ紹介 時代の空気

- 知る仏像」「涼しい県博で学ぼう」「興福論 個性
的な邪鬼注目」(8月4日記事)
- ・福島民友「ワークショップ大好評 孔雀石の絵
再び 11日に先着50人」「興福論 徳一のおすご
さを知る」(8月5日記事)
 - ・福島民友「テロワージュ会津 塚本さんが展示
解説 徳一ゆかりの食堪能」「興福論 技、過程
思い浮かぶ」(8月7日記事)
 - ・福島民友「仏都会津の源流(上)」(8月8日記
事)
 - ・福島民友「仏都会津の源流(中)」(8月9日記
事)
 - ・福島民友「家族連れでにぎわう」「興福論 文化
度高さ感じた」「仏都会津の源流(下)」(8月11
日記事)
 - ・福島民友「興福寺展3万人突破」「興福論 間近
で鑑賞し感動」(8月12日記事)
 - ・福島民友「仏像福笑い告知」(8月12日記事)
 - ・FCT 昼ニュース「会津若松市の県立博物館
「興福寺と会津」来場者が3万人」(8月12日放
映)
 - ・FCT ゴジてれChu!「会津若松市の県立博物館
「興福寺と会津」来場者が3万人」(8月12日放
映)
 - ・福島民友「仏像福笑いに笑顔 18日まで楽しみ
ながら知識学ぶ」「興福論 慧日寺を思い鑑賞」
「孔雀石ワークショップ第2弾」(8月14日記事)
 - ・FCT ゴジてれChu!「地元飲食店で特別メニュ
ーも 国宝の仏像が会津若松に」(8月14日放映)
 - ・福島民友「県立博物館の体験イベント 触れる
化石興味津々」(8月15日記事)
 - ・福島民友「国宝共演あす閉幕」(8月17日記事・
1面)「駆け込み連休盛況」「興福論 復興重ね
合わせた」(8月17日記事・23面)
 - ・福島民友「仏教の美 きょう見納め 「徳一の
縁あつての展示」」「興福論 細部の造形に感心」
(8月18日記事)
 - ・福島民友「4万人突破、フィナーレ 合津さん
夫妻(いわき)に記念品」(8月19日記事)
 - ・福島民友「心捉えた「興福寺展」 2019年回顧
会津この1年⑤」(12月27日記事)
 - ・福島民友「2年連続10万人超入館 興福寺と会
津4万1211人」(2月21日記事)
- (ウ) 秋の企画展「あにまるず ANIMAL×Zoo
—どうぶつの考古学」
- ・福島民友「土笛の音色楽しんで 29日に若松縄
文笛毅さん演奏」(9月1日記事)
 - ・福島民報「企画展「どうぶつの考古学」埴輪や
土器など展示 県立博物館できょう開幕」(9月
7日記事)
 - ・福島民友「動物の埴輪、縄文土器 県立博物館
人との関わり紹介」(9月7日記事)
 - ・Jタウンネット「縄文時代の人間も、猫が好き
だった…? どう見てもニャンコな出土品が超か
わいい」(10月3日記事)
 - ・みんゆうジュニア情報局「かわいい! 激レ
ア!? 動物はにわ」(10月13日記事)
 - ・福島民友「人と動物関わり説く 県立博物館で
考古学展 クマの土器やムササビの埴輪」(10月
23日記事)
 - ・ねとらぼ生物部「一体何のために作ったんだ
……?」日本で唯一発見されたムササビのはに
わがジワジワくるかわいさ」(10月27日記事)
 - ・BIGLOBEニュース「古墳時代の土器に刻まれ
た猫の肉球跡 大昔から猫は自由気ままか」
(10月29日記事)
 - ・福島民報「鷹狩りの技 披露 若松で講演 歴
史を紹介」(11月6日記事)
- (エ) 特集展「震災遺産を考える」
- ・河北新報「〈記者ログ〉痛み伝える施設に」(4
月1日記事)
 - ・福島民友「しあわせ運べるように合唱団 きよ
うコンサート 若松 神戸発の曲歌い継ぐ」(4
月6日記事)
 - ・福島民報「復興願う歌声披露 二本松 しあわ
せ運べるように合唱団 若松で演奏会」「県立博
物館 11日まで震災特集展」(4月7日記事)
 - ・福島民友「支援に感謝 歌声響く 若松で児童
ら合唱」(4月8日記事)
 - ・TUF ニュース「特集展震災遺産を考える開幕」
(2月11日放映)
 - ・KFB ニュース「特集展震災遺産を考える開幕」
(2月11日放映)
 - ・NHK 朝のニュースで特集展開幕を紹介(2
月12日放映)
 - ・毎日新聞「被災者に焦点復興とは何か」(2月12
日記事)
 - ・福島民報「震災遺産並ぶ 牛舎に残された柱複
製」(2月12日記事)
 - ・福島民友「震災の記憶を後世に」(2月12日記事)
 - ・河北新報「避難の無念伝える遺産原発事故から
9年、福島県立博物館で特集展」(2月12日記事)
 - ・月刊政経東北「ここに響く展示」(3月号掲載
記事)
 - ・FMふくしま(3月5日放送)
 - ・FMふくしま(3月10日放送)
 - ・朝日新聞全国版「震災 伝承施設がつなぐ教訓」
(3月11日夕刊記事)

- ・文春オンライン「[「もと5年2組のみんな……」全住民が避難した富岡町、小学校の黒板に残された“先生からのメッセージ”] (3月11日記事)
- ・しんぶん赤旗「3.11原発事故から9年福島県立博物館特集展」(3月11日記事)

(オ) その他(テーマ展・ポイント展・イベント等)

部門展示室(考古)

- ・福島民報「[会津大塚山古墳] 関連を展示 県立博物館の一部リニューアル」(7月2日記事)

テーマ展「100年カエル館のときめくカエルアート図鑑」

- ・福島民友「故柴田さんのカエル絵展示 100年カエル館のときめくカエルアート図鑑」(9月20日記事)

テーマ展「けんぱくの宝 武の美」

- ・福島民友「日本刀の奥深い魅力 若松で藤安さん語る」(11月6日記事)
- ・福島民友「23日、県立博物館で刀剣講座」(11月14日記事)

テーマ展「祈りのふくしま3」

- ・福島民友「掛け軸など30点展示 県立博物館テーマ展」(12月17日記事)

テーマ展「山口弥一郎のみた東北」

- ・福島民友「寄稿 三陸地震 被災地くまなく 山口弥一郎の足跡たどる」(2月12日記事)
- ・福島民報「故・山口さんの研究紹介 暮らしや「津浪」」(2月13日記事)
- ・朝日新聞夕刊「消えゆく東北文化 記す 異色の民俗学者・山口弥一郎に光」(3月25日記事)

山口弥一郎調査資料の研究

- ・読売新聞「民俗学者 津波研究の軌跡 ノートや原稿 山口弥一郎の資料整理」(5月10日記事)

館長講座

- ・福島民友「県立博物館 あすから館長講座 東北の紀行文解説」(4月18日記事)
- ・福島民友「県立博物館長講座始まる「奥の細道」の旅学解説」(4月21日記事)
- ・福島民報「日曜論壇 赤坂憲雄 紀行を旅して世間をする」(4月28日記事)
- ・福島民報「美術の在り方語り合う 赤坂氏、鷲田氏」(2月15日記事)
- ・福島民友「震災体験「記憶残す」 若松 県立博物館長ら対談」(2月18日記事)
- ・福島民報「赤坂憲雄館長と北川フラムさん 県立博物館で芸術語る」(2月22日記事)
- ・福島民友「地域つなぐアート 県立博物館 館長講座、効果解説」(2月23日記事)
- ・福島民報「「どんな県立博物館に」議論を 赤

- 坂館長、退任控え最後の講座」(3月21日記事)
- ・福島民友「博物館の在り方語る 若松 赤坂館長、最後の講座 新型コロナ 無観客で映像収録」(3月21日記事)

その他館事業・イベント

- ・福島民報「戊辰の短刀 城下へ 会津藩家老・田中土佐が長女に託し… 子孫が県立博物館に寄託 新選組幹部の妻時尾の古写真も」(4月18日記事)
- ・福島民友「田中土佐の短刀寄託 玄孫の小暮さん 県立博物館に「不思議な因縁」」(4月18日記事)
- ・福島民友「〈奥の細道〉「さくらワークショップ」開かれる」(4月20日記事)
- ・福島民報「福西本店・県立博物館連携講座」(4月24日記事)
- ・福島民報「県立博物館 利用者12万人突破 昨年度「美しき刃」など人気」「協議会委員 会長に長野氏」(6月21日記事)
- ・福島民友「県立博物館の昨年度入館者 5年ぶり10万人超 6日から興福寺展」(6月22日記事)
- ・福島民友「緊急時の誘導確認 県立博物館」(6月22日記事)
- ・福島民友「盆踊りで交流の輪広げる」(8月20日記事)
- ・福島民報「幕末の円蔵寺 精緻に 7日から県立博物館 屏風絵お披露目 江戸時代末期～明治初期の会津の絵師 大須賀清光」(9月1日記事)
- ・福島民報「大須賀清光の屏風絵 きょうから公開 若松の県立博物館」(9月7日記事)
- ・福島民友「土津神社図・円蔵寺図屏風 県立博物館で公開 来月14日まで初のダブル展示」(9月8日記事)
- ・福島民友「みんなで童謡楽しんだよ 親子でやすらぐ子守唄コンサート」(9月20日記事)
- ・福島民報「県環境創造センター所長角山氏、県立美術館長早川氏、県立博物館長赤坂氏 来月末に退職へ」(2月15日記事)
- ・福島民友「3所長、館長退任へ 県環境創造センター、県立美術館、県立博物館」(2月15日記事)
- ・福島民報「伝統工法で木のおうち 会津工高生 県立博物館に寄贈 若松」(2月20日記事)
- ・福島民友「木の家 子ども遊び場に 県立博物館 会津工高生製作」(2月20日記事)
- ・福島民報「10月発掘調査速報展 県内古墳文化も紹介 県立博物館」「県立博物館利用11万4857人 2019年度1月末現在」(2月21日記事)
- ・福島民報「日曜論壇 赤坂憲雄 地域に開かれ

- た博物館へ」(2月23日記事)
- ・福島民報「自宅で学べる動画公開 若松の県立博物館 歴史や自然紹介」(3月13日記事)
- ・福島民報「自宅で学べる動画公開 若松の県立博物館 歴史や自然紹介」(3月13日記事)
- ・福島民報「休校の子ども向け 県博展示 映像で配信」(3月15日記事)
- ・福島民報「あぶくま抄(※動画公開について)」(3月19日記事)
- ・NHK福島NEWS WEB「自宅学習向けに博物館が動画」(3月15日記事)
- ・福島民報「退任の県立博物館長 県立美術館長に聞く 県立博物館長 赤坂憲雄氏「東北学」新ステージへ」(3月20日記事)
- ・福島民報「県立博物館長、今月末で退任 赤坂憲雄氏に聞く「東北学」実践段階に」(3月20日記事)

博物館友の会

- ・福島民報「築田家文書を活字化 古文書愛好会第二集を発行 貴重な民政史料」(4月8日記事)
- ・福島民報「4日「会津の古墳」講演」(10月30日記事)
- ・福島民報「会津の古墳 4日に講演 県立博物館友の会 若松」(11月2日記事)
- ・福島民報「会津の古墳 謎がいっぱい 県立博物館友の会講演会」(11月6日記事)

ライフミュージアムネットワーク

- ・福島民報「ライフミュージアムの成果 若松 県立博物館で報告展」(1月12日記事)
- ・福島民報「震災記憶、掘り起こしを 地域と連携し保存 若松 赤坂県立博物館長らでフォーラム」(1月20日記事)
- ・福島民報「「いのち」と「暮らし」を考える 14日に県立博物館」(2月6日記事)

後援・共催事業等

- ・福島民報「会津彼岸獅子の歴史 他県と比べ特長紹介」(11月26日記事)
- ・福島民報「からむし織の映画 あす若松で上映会」(1月12日記事)
- ・福島民報「会津のものづくりを考える 若松で上映会・座談会 カラムシ文化記録」(1月14日記事)
- ・福島民報「「からむし」映画上映 若松 ものづくり座談会も」(1月14日記事)
- ・福島民報「文化財保護 在り方探る 県立博物館 被災地支援フォーラム」(2月23日記事)

ゲストティーチャー

- ・福島民報「震災遺産活用し防災教室」(12月2日記事)
- ・福島民報「伊達・蒲生時代の会津解説」(2月8

日)

- ・福島民報「市町村だより 商工中金会津若松営業所協力会新春講演会」(2月9日)

(2) 公聴活動

博物館で開催した次の行事について、利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を分析し、館の事業の改善に努めた。

令和元年度 アンケート実施事業一覧

常 設 展	
企 画 展	とりもどすきずな・つながるみらい
	福島復興祈念展 興福寺と会津-徳一がつないだ西と東-
	あにまらず ANIMAL × Zoo -どうぶつの考古学-
特 集 展	震災遺産を考える
	震災遺産を考える-それぞれの9年-
講 座	保存科学講座
	歴史講座

(3) 出版事業

令和元年度は次の出版物を刊行した。

- ア. 企画展図録
 - あにまらず-どうぶつの考古学 1,500冊
- イ. 調査報告書
 - 山口弥一郎旧蔵資料調査報告書 500冊
- ウ. 紀要
 - 福島県立博物館紀要 第34号 600冊
- エ. 年報
 - 福島県立博物館年報 第33号 400冊

7. 文化財・自然資料レスキュー

(1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日(火)である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被ったため、当館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和元年度には次の事業を実施した。

ア. 令和元年度の活動

(ア) レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」)に参画して活動した。幹事会を3回実施(9月6日、10月30日、2月12日)。

なお、年度末の幹事会において、以下のことが決定され、救援本部の設置要綱が改正された。

- 東日本大震災及び原発事故に起因する被災文化財への対応は今後も必要である。救援本部の設置期間は、令和4年3月31日まで延長する。
- 今後の自然災害発生時の文化財レスキューは、現在県で進めている「大規模自然災害発生時の被災文化財に係る相互応援協定」により対応することとし、救援本部は東日本大震災及び原発事故に起因する文化財レスキューに特化(限定)して対応に当たる。
- 各市町村からの要請に基づいて活動を行うことに変わりはない。ただし、救援本部会議の構成員を、これまでの幹事会構成員に絞り、より機動力を高める。市町村構成員すべてに対して会議のために集まっていただけでなく、救援の内容に応じた招請で対応する。他の市町村等の協力が必要な場合についても調整する。

○以上の方針に従って、設置要綱を改正する。

(イ) 被災地域の資料への対応

① 蛭沢稻荷神社資料の返還(7月11日)

震災後に旧相馬東高校校舎へ避難させていた「蛭沢稻荷神社奉納絵馬・地引大漁図及び和船模型」(県指定文化財)等の資料を神社の絵馬堂へ返還した(資料の一部は南相馬市博物館へ搬入)。

② 双葉町羽鳥観音堂仏像移送(7月27日)

帰還困難区域の観音堂・不動堂にある仏像の管理が困難であるため、檀家・双葉町教育委員会とともに、仏像4体を双葉町歴史民俗資料館へ移送した。

イ. 今後の課題

(ア) 受け入れてきた文化財・自然資料への対応(継続)

(イ) 旧警戒区域からの文化財・自然資料の搬出・保全(継続)

① 個人所有資料の保全

② 救出された文化財・自然資料の収蔵・公開施設についての検討

(ウ) 救出された文化財・自然資料の展示公開(継続)

(エ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備

当館での被災文化財等の受け入れ状況

(令和元年度末現在)

受入年度		所有者	資料概要	点数	要因	整理状況	現状
平成23	1	旧相馬女子高校	土器片等	195点	旧校舎収蔵施設の損壊	済み	採集
	2	いわき市の個人	古文書・祭礼道具等	13件 (1509点)	地震による蔵の損壊	未了	受託・平成28・29・30一部返還
	3	南相馬市の個人	野馬追甲冑等	12件 (16点)	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	4	南相馬市の個人	文書	1点	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	5	双葉町教育委員会	古文書	253点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	6	南相馬市の神社	棟札・像・文書等	22点	津波による神社の損壊	済み	一部返還
	7	須賀川市の神社	絵馬	109点	地震による神社の損壊	済み	受託・一部返還
	8	須賀川市の個人	雛人形・五月人形等	4点	地震による建家の損壊	済み	受贈
	9	双葉町教育委員会	刀剣・火縄銃	7点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	10	郡山市の個人	近代史料・書籍等	961点	地震による蔵の損壊	済み	返還済み
	11	双葉町の個人 (教育委員会寄託)	太刀	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
			十三仏画	1点			
	12	浪江町の寺院	両界種子曼荼羅	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	13	福島市の個人	雛人形・古写真等	17件 (22点)	地震による建家の損壊	済み	受贈・受託
	14	伊達市の個人	土器・石器・凶書・地図	3件 (1647点)	地震による蔵の損壊	済み	受贈
	15	南相馬市の寺院	膳椀漆器	48件 (79点)	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	16	会津工業高校	陶磁器	8点	地震による損壊	不要	返還済み
17	南相馬市鹿島歴史民俗資料館	植物化石標本	62件 (66点)	地震による収蔵施設の損壊	済み	返還済み	
平成24	18	浪江町の個人	書跡	2点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	19	富岡町	16ミリフィルム	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	20	南相馬市の個人	化石標本	約400点	地震による収蔵施設の損壊	済み	受託
			考古資料（落合B遺跡）	4943点			
21	大熊町教育委員会	考古資料（棚和子遺跡）	10箱	原発事故避難により管理不能	済み	受託	
		和鏡	1点				
平成25	22	浪江町教育委員会	棚塩地区公民館地図	1点	地震・津波による建物損壊	不要	返還済み
	23	葛尾村の寺院	仏像・仏画・経典等	5件 (604点)	原発事故避難により管理不能	済み	返還済み
	24	双葉町教育委員会	清戸迫横穴壁画模写	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	25	双葉町教育委員会	フタバクジラ化石他	27件	原発事故避難により管理不能	済み	受託
平成28	26	浪江町の個人	大型民具	21点	地震による建物損壊、解体予定	済み	受贈
	27	南相馬市小高区	石仏	5点	津波被害による処分予定	済み	採集

(2) 令和元年東日本台風（令和元年台風19号）に伴う被災文化財等レスキュー

令和元年10月12日に日本に上陸した令和元年東日本台風（令和元年台風19号）は、福島県域に記録的な大雨をもたらし、各地で甚大な被害が発生した。とくに河川の氾濫によって、資料館・博物館等の文化財を収蔵する施設が被災し、文化財等の水損被害が各地で発生した。

ア. 令和元年度の活動

(ア) レスキュー作業の体制

当館は、文化財課や美術館、福島県文化財センター白河館（まほろん）、ふくしま歴史資料保存ネットワーク（福島大学）と連絡をとりながら、被害状況に関する情報収集や現況確認調査などに協力した。文化財課では、被災した市町村からの救援応援要望を受けて、被災資料の保全作業のために各機関が職員等を派遣できる体制をつくり、当館では学芸員が交替で作業に参加した。

(イ) 被災地域の資料への対応

①本宮市

本宮市歴史民俗資料館の収蔵資料（古文書、美術・工芸品、考古資料、発掘調査記録、民俗資料など）が被災した。一部は近くの施設へ一時避難させ保全作業が行われたが、被害の規模が大きく、十分な対応がとれない状況も生じた。

②田村市

田村市文化センターの収蔵資料（古文書、美術・工芸品、発掘調査記録など）が被災し、田村市歴史民俗資料館や船引就業改善センター等に一時避難させ、保全作業が行われた。



田村市での作業（10月30日）

③伊達市

旧梁川町史編さん室の収蔵資料（古文書、民具など）及び旧霊山町稚蚕飼育所の収蔵資料（民具、考古資料など）が被災した。一部は伊達市役所梁川総合支所へ一時避難させ、おもに水損資料の保全作業が行われた。



伊達市での作業（11月7日）

(ウ) 今後の課題

各地での作業は10月～12月にかけて行われ、2月にも一部実施されたが、3月以後は新型コロナウイルス感染症拡大により中止・延期されることになった。

保全作業は、令和2年度以後も継続される予定である。

8. ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれともなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

(1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。平成31年度は民俗2名、考古1名、歴史3名、自然1名、美術1名、保存科学1名から計9名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害史担当学芸員を中心に取り組んだ。今後の活動の方向付けとして活動のビジョンについて議論を重ねた。また常設展示に向けて各分野からテーマを持ち寄り学習会を設けた。

(2) 震災遺産の調査・保全

資料情報を充実させるための追加調査等を行った。浪江中学校避難所資料、旧相馬女子高避難所資料、浪江町新聞販売店資料、富岡はげん、鎌田氏作成フロッタージュ作品、南相馬市半杭牧場牛舎柱レプリカについて聞き取り調査を行い、その成果を特集展として公開した。

(3) 他団体・他機関との連携・協力

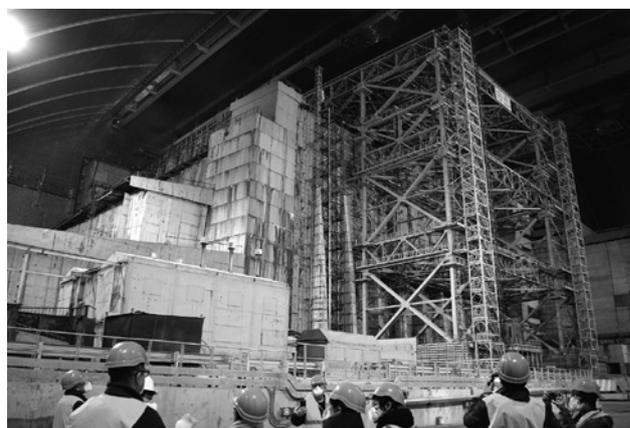
筑波大学の白井哲哉教授を研究代表者とする科学研究費補助金基盤研究(A)「防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築－国際比較の観点から－」(課題番号:17H00772)による研究の一環として、2月に原子力発電所事故のあったウクライナ チェルノブイリへの調査に同行した。

また東日本大震災・原子力災害伝承館との連携を図り、担当課と協議しながら伝承館の広報を委託している公益財団法人福島イノベーション

ン・コースト構想機構と協力体制を構築した。



三島中学校対話的ワークショップ



チェルノブイリ原子力発電所視察



ICOM京都大会への出展

(4) 成果公開

特集展「震災遺産を考える－それぞれの9年－」を実施した。調査をもとに、7人のその後をまとめ、資料に人の物語を加えた展示を行った。

会津方部高等学校歴史地理公民研究会などの

学校教員の研究会へ積極的に授業提案を行った。震災遺産を活用した主体的で対話的な授業の内容として提案し、その結果、防災教育としてゲストティーチャーの依頼を受けた。(昭和中、三島中) 授業では震災遺産を教室へ持ち込み、資料を前に自分たちで考えて防災について対話的な内容として実施した。中学生ができることを自分事として考える内容となったと評価を得た。また喜多方第一中からは次年度学習計画の相談を受けた。

ICOM（世界博物館会議）京都大会にライフミュージアムネットワーク実行委員会からの依頼で昨年度作成した牛舎柱のレプリカを展示した。会場では命を考える展示として注目されその後の取材等へつながっている。

9. ライフミュージアムネットワーク

(1) 事業趣旨

福島県立博物館は、平成23年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、文化庁の支援を受けた「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の事務局を務め、さまざまな文化芸術による復興支援事業を実施してきた。その過程で浮かび上がって来た課題は、福島、東北、被災地に限らず、日本各地に共通するものであり、解決方法を導き出すべく、広く共有されるべきものだった。

それらの課題は、【いのち】【くらし】に集約される。これらは各地の博物館・美術館・資料館・記念館を含むミュージアムの活動の核となっているものであり、ミュージアムに限らず、様々な団体、機関も大切にしていることである。

東日本大震災後、新たに浮上してきたミュージアムの使命。それは【いのち（ライフ）】と【くらし（ライフ）】に再び誠実に向き合うことと捉え、同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張することを目指して平成30年度よりライフミュージアムネットワーク実行委員会を設立、活動を行った。

(2) 組織

ア. 主催

ライフミュージアムネットワーク実行委員会

イ. 構成団体

南相馬市博物館
はじまりの美術館
三島町生活工芸館
一般社団法人ふくしま連携復興センター
原爆の凶丸木美術館
山の暮らし再生機構
福島県立博物館

ウ. 委員長

赤坂憲雄（福島県立博物館長）

エ. 事務局

福島県立博物館

(3) 実施期間

ア. 実施期間

平成31年4月1日～令和2年3月31日

イ. プロジェクト活動期間

令和元年5月16日～令和2年3月31日

(4) 助成

文化庁令和元年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

(5) 事業内容

リサーチ、オープンディスカッション、フォーラム、スタディツアーを実施し、記録集（『ライフミュージアムネットワーク2019活動記録集』、2,000部）を作成した。



スタディツアー「小さな博物館がつなぐ大きな奥会津」
ただみ・ブナと川のミュージアム

令和元年度ライフミュージアムネットワーク事業内容一覧

実施日	行事名	参加者数	参加者数 (館外)
8月4日	オープンディスカッション福島「震災と動物」	13	13
8月5日	スタディツアー南相馬「震災と動物」	18	18
8月30日	オープンディスカッション二本松「福島の記憶を学ぶ～二本松に避難した浪江小学校のふるさと学習のあゆみ」	12	12
9月11日	オープンディスカッション二本松「地域でアート、ハートでアート」	16	16
9月12日	オープンディスカッション二本松「浪江・二本松 ふるさとの味／ランチもアート」	14	14
9月13日	スタディツアー二本松「二本松を眺める」	20	20
9月13日	オープンディスカッション二本松「長寿もアート 地域で暮らしを楽しむために」	30	30
10月27日	オープンディスカッション県博「あなたの私の博物館」	11	0
11月9日	スタディツアー奥会津「小さな博物館がつなぐ大きな奥会津（1日目）」	7	7
11月10日	スタディツアー奥会津「小さな博物館がつなぐ大きな奥会津（2日目）」	12	12
11月18日	スタディツアー大熊「大熊町のDNA 復興と記憶そして未来（1日目） 「大熊町の現在（いま）」	17	17
11月18日	オープンディスカッション大熊「残しておきたい大熊のこと」	22	22
11月19日	スタディツアー大熊「大熊町のDNA 復興と記憶そして未来（2日目） 「場と記憶」	17	17
11月19日	オープンディスカッション大熊「場と記憶」	24	24
11月26日	オープンディスカッション川内「私たちが大切にしたいこと」	10	10
12月26日	オープンディスカッション仙台「災害とミュージアム」	33	33
1月18日	フォーラム1「活かす・生きるミュージアム」	54	0
2月14日	フォーラム2「いのちとくらしとミュージアム 記憶と人間の方舟として」	131	0
合計		461	265



成果報告展 福島県立博物館

フォーラム「いのちとくらしとミュージアム
赤坂憲雄×鷺田清一」

10. 連携事業

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

(1) 磐梯山ジオパーク推進事業

ア. 事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立、平成27年にはユネスコの正式な事業となった。平成29年5月現在、ヨーロッパと中国を中心に35ヶ国127地域が加盟。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは、保全はもとより資源の活用による地域の振興を図ることを目標にしている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では平成29年5月現在43地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち8地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。平成27年には、4年に1回実施される日本ジオパーク委員会による日本ジオパークの再審査が行われ、認定された。

福島県立博物館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。ジオパーク推進事業における当館の役割は次のとおりである。

- ・地域研究の推進と学術成果の収集による最新の研究成果の提供
- ・ジオパークの説明媒体（ガイドブック、解説板など）の制作・監修
- ・ジオパークとしての教育プログラムの開発と提供
- ・住民や児童への普及活動のための講師派遣
- ・ジオガイド養成のための講師派遣

- ・ツアーの拠点としてジオパークに関する情報提供
- ・ジオパーク普及のための各種イベントの開催

イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、ガイド団体などの民間団体、文化・教育施設が加わっている。事務局は3町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

磐梯山ジオパーク協議会組織

区分	機関・団体名
行政団体	猪苗代町
	磐梯町
	北塩原村
	福島県企画調整部地域振興課
	福島県会津地方振興局
	環境省裏磐梯自然保護官事務所
商工団体	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
	北塩原村商工会
観光協会	猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
	裏磐梯観光協会
民間団体	いなわしろ伝保人会
	猪苗代山岳会
	裏磐梯エコツーリズム協会
文化・教育施設	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	福島県立博物館
	国立磐梯青少年交流の家
オブザーバー	林野庁会津森林管理署
	福島県喜多方建設事務所

ウ. 活動

令和元年度は次の事業を実施した。

(ア) ジオパーク関連の大会・学会・研修会参加

第10回日本ジオパーク全国大会 in おおいた大会 参加 など 3件

(イ) 調査研究活動

① ジオサイト保全と利用

猪苗代町、磐梯町エリアを中心としたジオサイトモニタリング調査

② 大学や研究機関との連携

立教大学・文教大学 合同調査研修

(ウ) 啓発活動

- ①フォーラム・シンポジウム
第10回磐梯山ジオパークフォーラム 1件
- ②専門家を招聘した講演会
【磐梯山ジオパーク特別講演】 2件
北海道大学名誉教授、環境防災総合政策研究機構理事 宇井忠英氏
- ③ジオツアー
「地質の日ジオツアー」など 3件
- ④出前講座
磐梯大学講座など 3件
- ⑤出前授業
猪苗代町立千里小学校など34件

(エ) 広報活動

- ①イベント参画
桜峠さくらまつり など19件
- ②メディアへの情報発信
各種取材対応など 3件

(オ) ガイド養成

- ①ガイド研修
ガイドフォローアップ研修 2件

(カ) ツアー解説媒体制作

- ①ジオサイト解説看板設置
猪苗代町ジオサイトを中心とした総合的看板の設置 1件

(キ) 他機関との連携

- ①各地とのジオパークネットワーク活動
日本ジオパーク再認定審査における視察受け入れ など 2件



「地質の日ジオツアー」での解説

(2) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。これまで科学普及活動は、ほとんど学校教育の理科を通じて行われてきた。ふくしまサイエンスぷらっとフォーム (spff) では、多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々な科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動

に取り組んでいる。特に、平成23年3月11日震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。福島県立博物館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧 (令和2年3月現在)

所属機関
福島大学
福島県商工労働部産業創出課
ふくしま森の科学体験センター(ムシテックワールド)
郡山市ふれあい科学館 (スペースパーク)
磐梯山噴火記念館
福島県ハイテクプラザ
福島県農業総合センター
福島県環境創造センター
福島県林業研究センター
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ
(株) 福島製作所
日東紡績(株) 福島工場
日東紡績(株) 富久山事業センター
NECプラットフォームズ株式会社 福島事業所
福島県商工会連合会
福島県鉄工機械工業共同組合
(有) 西坂製作所
福島県立博物館
いわき明星大学 エネルギー教育研究会
福島県商工会議所連合会
(株) 坂本乙造商店
福島県立図書館
ふれあい科学館支援チーム
福島県男女共生センター
(有) アピスタ
福島県立テクノアカデミー郡山
日本ベクトン・ディッキンソン(株)
相馬市教育委員会
一般社団法人産業サポート白河
一般社団法人りょうぜん振興公社 霊山こどもの村



spffサイエンス屋台村表彰状

令和元年度に行われたspffの活動のうち、「spffサイエンス屋台村inコミュタン福島」(11月30日)には福島県立博物館も「アンモナイトのレプリカをつくろう」のブースを出展し、来場者投票で第1位となった。このほか、spffを窓口とした県外の団体と連携した活動や、視察・研修および研究活動を実施した。

(3) 福島芸術計画×Art Support Tohoku-Tokyo

ア. 事業の趣旨・経緯

福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyoは、平成24年より、福島県、東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施している事業である。

文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援している。活動の主なコンセプトは以下のとおり。

- 福島の未来を担う子どもたちが、ふるさとの自然や文化を体験し、心豊かに成長していくこと。
- 福島県ならではの多様な文化を、地域の隔たり無く分かち合い、もう一度その素晴らしさを互いに見直すこと。
- 福島の現状や未来のことを考え、創造する場を持つこと。
- 福島の宝や人の思い、そして大切な何かをつなぎ・つたえていくこと。

そうした動きが、福島の復旧・復興に向けて大きな力になるとの考えから活動を続けている。

イ. 組織

(ア) 主催

福島県／東京都／アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

(イ) 運営委員会構成団体

福島県文化振興課／福島県立美術館／福島県立博物館／アーツカウンシル東京／NPO法人Wunder ground

(ウ) 事務局

NPO法人Wunder ground

ウ. 事業内容

福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyoでは、平成30年度、平成29年度からの継続としてアーティストを講師に招き、福島

県内の各学校等で児童・生徒対象のワークショップを開催した「福島こども芸術計画」や避難生活を続ける方々を対象とした「はま・なか・あいづをつなぐコミュニケーションプロジェクト」等を実施した。

「福島こども芸術計画」では、福島県立美術館、福島県立博物館が企画運営を行い、福島県立博物館企画運営事業「地域の文化資源を学ぶ学校連携ワークショップ」として下記を行った。また「はま・なか・あいづをつなぐコミュニケーションプロジェクト」では、会津若松市に避難している大熊町のみなさんを対象とした和紙作りと書道教室、活動成果展の企画運営にも携わった。

(ア) 福島こども芸術計画 わたしの好きな昭和 アトリエしょうわのこども

- ①実施地域：昭和村
- ②アーティスト（講師）：小池 アミイゴ（イラストレーター）
- ③地域パートナー：昭和村保健福祉課
- ④対象：昭和村放課後児童クラブの児童（1～6年生）、未就学児
- ⑤内容

昭和村の放課後学級の会場である昭和公民館が昨年度に引き続き期間限定のアトリエに変身。奥会津も描いているイラストレーターの小池アミイゴ氏と放課後学級の子どもたちが公民館内の一室に一緒にアトリエをつくった。誰でも、いつでも、描いたり、つくったり、宿題をやったり、のんびりしたりできるアトリエ。セッション1では、みんなでからむし工芸博物館に探検に行ったり、最終日に大人のみなさんと一緒にグルメワークショップを行い、からむしや食文化など昭和村の魅力も学ぶ機会とした。セッション2の最終日には、地域の方々や保護者の皆さんに向けて活動の報告会を行った。

○ワークショップ

セッション1（2月4日～7日、9日）

セッション2（2月27日、28日）

*時間は15:00～18:00頃

○報告会

2月28日（金）17:00～18:00

会場：昭和村公民館内「アトリエしょうわのこども」

(イ) 福島こども芸術計画 わたしの好きな三島 わら・ワラ・藁 藁半紙×藁筆の書道体験

- ①実施地域：三島町
 ②アーティスト（講師）：滝澤 徹也（美術家／和紙製造） 千葉 清藍（旅する書道家）
 ③地域パートナー：三島町教育委員会
 ④対象：三島町立三島小学校 3・4年生
 ⑤内容

燃料、家畜の餌、肥料になる他、苧（むしろ）、蓑（みの）、靴など、藁は、身の回りの用具となって私たちの暮らしを支えている。学校の前にある田んぼで稲を育てている三島小学校の子どもたちに、そのことを伝えたいという三島町教育委員会からのご提案により、「わたしの好きな三島」のテーマは「藁」とし、「藁」の素材としての魅力に触れる機会とした。

「わら半紙」に藁の筆で文字を書いてみよう！と、西会津町在住の和紙作家・滝澤徹也さんがつくってくれた「わら半紙」に、郡山市在住の書家・千葉清藍さんがつくってくれた「わら筆」で書道を体験。子どもたちが、自分の名前から文字を選んで記した。自然の素材を大切に作る心、ものを作り出す技を学ぶワークショップとなった。

○ワークショップ

2月26日（水）14時30分～15時30分

会場：三島町立三島小学校

(ウ) はま・なか・あいづをつなぐコミュニケーションプロジェクト「西会津和紙作り&書道教室」

- ①実施地域：西会津町、会津若松市
 ②アーティスト（講師）：滝澤 徹也（美術家／和紙製造）、千葉 清藍（旅する書道家）
 ③対象：会津若松市で暮らす双葉郡大熊町のみなさん
 ④内容

会津若松市で暮らす双葉郡大熊町のみなさんを対象とした「西会津和紙作りツアー&書道教室」を2日間に分け開催。西会津の出ヶ原和紙工房で大熊町の楮を使った和紙作りに挑戦し、完成した和紙に会津若松で想いを書いたための。故郷の歴史や文化を知り、伝統文化を楽しむ機会とした。

○説明会

令和2年1月24日（金）

会場：会津若松市 年貢町団地1号棟 集会所

内容：年貢町団地の復興公営住宅で暮らす大熊町の皆さんと、講師を務める滝澤徹也さん（美術家・和紙製造）、千葉清藍さん（書道家）との顔合わせを行い、

故郷・大熊町の風景をイメージしどんな色を和紙にさすか、どんな文字を書道で書きたいかを話し合った。

○ワークショップ 西会津和紙作り

令和2年2月13日（木）

会場：西会津町「出ヶ原和紙工房」

○ワークショップ 書道教室

令和2年2月18日（火）

会場：会津若松市 年貢町団地1号棟 集会所

○「西会津和紙作り&書道教室」成果展

令和2年3月13日（金）～3月17日（火）

会場：会津若松市 まちなかコミュニティ拠点「塩蔵2924」



はま・なか・あいづをつなぐコミュニケーションプロジェクト「書道教室」

(4) ふくしま歴史資料保存ネットワーク

地域の歴史や文化を伝える歴史資料などの記録保存を進め、災害時には救出・保全をはかり、後世に伝えることを目的に、平成22年11月に発足した。現在の代表・事務局は福島大学（行政政策学類 阿部浩一教授）。近年は、古文書整理・撮影作業を福島大学で定期的に行いながら、歴史資料の保存を趣旨としたさまざまな催しを企画・支援している。

(5) 会津の文化×地域振興プロジェクト協議会

ア. 事業の趣旨・経緯

福島県立博物館が行う展覧会等を観光資源として生かし、博物館と自治体、商工業団体、観光団体等との連携により地域振興、観光振興を図るとともに、文化芸術の本質的価値及び社会的・経済的価値を地域社会が文化芸術の継承、発展及び創造に活用・好循環させることを目的として事業を実施している。

イ. 組織

(ア) 構成団体

会津若松商工会議所、(一財) 会津若松観光ビューロー、福島県立博物館、会津若松市

(イ) 事務局

会津若松商工会議所

ウ. 事業内容

令和元年度福島県立博物館夏の企画展「興福寺と会津 徳一がつかない西と東」に協力。当該企画展において会津若松市ナイトタイムエコノミー推進協議会事業との連携により行った「夜の仏像鑑賞会」、極上の会津プロジェクト協議会との連携により行った「歴史講座「徳一ゆかりの南都寺院 興福寺・薬師寺の信仰と美術・興福寺と会津展夜間観覧」の旅」の実現を支援した。



ばんえつ発見の旅サポート連携事業合同イベント
(10月6日) けんぱくブース

(6) ばんえつ発見の旅サポート連携事業

ア. 事業の趣旨・経緯

「ばんえつ発見の旅サポート連携事業」では、広域からの誘客を目的として、いわきから新潟をつなぐ磐越自動車道沿線の文化施設が連携し、相互の来館者増につなげるための広報活動を展開している。アクアマリンふくしまが中心となり平成29年度より開始された事業で、当館は平成30年度から本事業に参画している。

イ. 構成団体 (令和元年度)

アクアマリンふくしま (公益財団法人ふくしま海洋科学館) / アクアマリンいなわしろカワセミ水族館 / あぶくま洞 / いわき市石炭・化石館 / コミュタン福島 / 鶴ヶ城 / 天鏡閣 / 野口英世記念館 / はじまりの美術館 / マリンピア日本海 / 諸橋近代美術館 / 福島県立博物館

ウ. 事業内容

① 共通割引優待券の発行

加盟12施設共通で使える「磐越自動車道でLet's Go! ばんえつ発見の旅サポート割引優待券」を120,000枚 (1施設当たり10,000枚) 製作し、各施設で配布した。

② 合同イベントの開催

日時：令和元年10月6日 (日) 10時～16時
場所：ショッピングモールフェスタ駐車場 (郡山市日和田町小原1番地)

主催：福島民報社 / 共催：日和田ショッピングモール

内容：アクアマリンふくしまの移動水族館「アクアラバン」を中心に、各施設のブースを設け、合同でのPRイベント、広報物の配布などを実施した。当館は企画展「あにまるずーどうぶつの考古学」の会期中であり、企画展広報イベントおよびPR用の缶バッジの配布などを行った。

(7) 県内博物館PR事業「行こう！ふくしまの博物館」

ア. 事業の趣旨・経緯

福島県は広い県土をもち、多様な自然環境や歴史・文化に恵まれている。そうしたことを反映して、県内各地には特色ある博物館・美術館・資料館がある。そうした施設ならではの資料や活動を展示・紹介しようと、令和元年度から本事業を始めた。令和元年度は双葉町歴史民俗資料館とただみ・ブナと川のミュージアムについて展示・紹介した。

イ. 展示内容

第1回 双葉町歴史民俗資料館所蔵 ダルマ (会期：平成31年4月27日 (土) ～ 令和元年6月9日 (日))

第2回 双葉町の昆虫 (双葉町歴史民俗資料館所蔵) (会期：令和元年7月13日 (土) ～ 8月25日 (日))

第3回 ただみ・ブナと川のミュージアム 自然とともにある暮らし (会期：令和元年11月2日 (土) ～ 12月22日 (日))



双葉町歴史民俗資料館所蔵 ダルマ

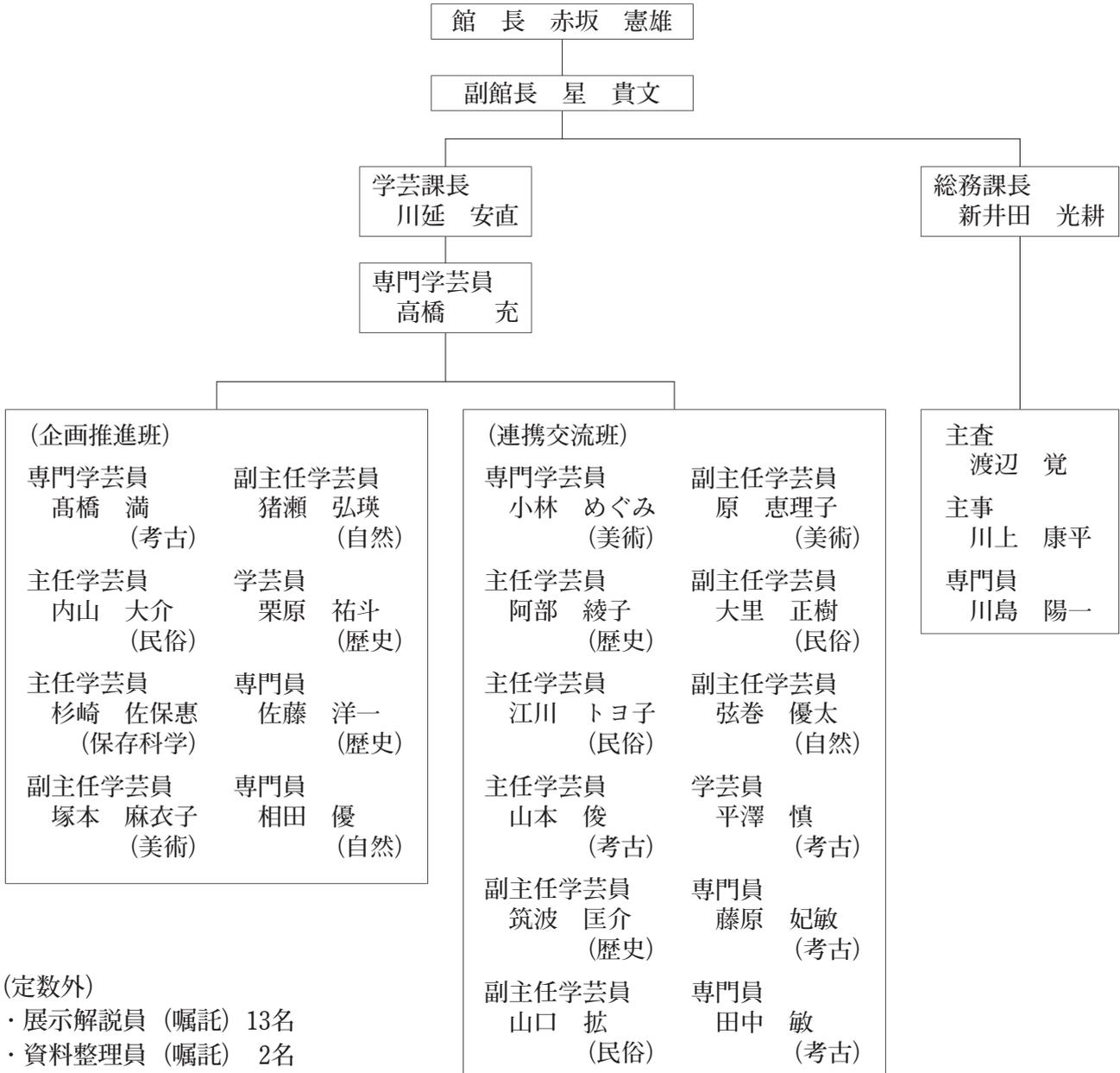
II 管理運営

1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(平成31年4月1日現在)

管理運営



嘱託員等名簿

職名	氏名
展示解説員	前田 知香
	岩崎 萌
	富田 陽介
	穴澤 由美子
	荒井 奈津姫
	佐藤 聖華
	及川 敏康
	松本 光生

職名	氏名
展示解説員	日下部 順子
	和田 光
	三浦 裕子
	湯田 守
	小原 由起 令和元年5月16日～
資料整理員	長澤 宏子
	小川 敦子
臨時事務補助員	佐藤 祥 令和元年8月1日～

2. 予 算

令和元年度は、下表のとおり予算を執行した。

令和元年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				9,082
	使 用 料			9,082
		行政財産使用料		370
			建 物 使 用 料	370
		教育使用料		8,712
			博 物 館 使 用 料	8,712
財 産 収 入				1,349
	財産売払収入			1,349
		物品売払収入		1,349
			自 動 車 売 払 代 金	0
			そ の 他 物 品 売 払 代 金	1,349
諸 収 入				10,748
	雑 入			10,748
		雑 入		10,748
			雑 入	10,748
	合	計		21,179

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
総 務 費				186
	企 画 費			186
		地 域 振 興 費		186
			委 託 料	186
教 育 費				201,369
	教育総務費			5,813
		事 務 局 費		5,697
			報 酬	2,400
			職 員 手 当	785
			共 済 費	1,287
			賃 金 費	1,215
			報 償 費	10
		財 務 管 理 費		16
			交 際 費	16
		教 育 セ ン タ ー 費		100
			需 用 費	100
	社 会 教 育 費			195,556
		博 物 館 費		195,556
			報 酬	24,537
			共 済 費	3,907
			報 償 費	666
			旅 費	3,311
			需 用 費	45,763
			需 用 費 (食糧費)	1
			役 務 費	9,345
			委 託 料	85,191
			使 用 料 及 び 賃 借 料	1,650
			工 事 請 負 費	13,412
			備 品 購 入 費	130
			負 担 金、補 助 及 び 交 付 金	7,579
			公 課 費	64
	合	計		201,555

3. 運営協議会の開催

(1) 福島県立博物館運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア. 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	鈴木 廣美	いわき市立小名浜東小学校校長
	伊藤 俊幸	福島県立会津支援学校校長
社会教育	会長 長野 隆人	いわき芸術文化交流館 経営総務課広報グループチーフ
	岡部 兼芳	社会福祉法人安積愛育園 はじまりの美術館館長
家庭教育	滝澤 玲子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会・会津さざなみの会会員
学識経験者	副会長 佐藤 公	磐梯山噴火記念館館長
	川口 立喜	公立大学法人会津大学 グローバル推進本部国際戦略室長・准教授
	四家 久央	合名会社四家酒造店代表社員
	大越 章子	日々の新聞社記者
	岩崎 和美	公募委員

イ. 会議

(ア) 第1回 令和元年6月20日(木)

【議題】

- ① 会長、副会長の選出について
- ② 平成30年度博物館入館者数について
- ③ 平成31年度当初予算について
- ④ 平成31年度事業計画について
- ⑤ 福島県立博物館の使命及び中期目標について

(イ) 第2回 令和2年2月20日(木)

【議題】

- ① 令和2年度事業計画(案)について
- ② 福島県立博物館第3期中期目標(令和元年度12月末現在)について
- ③ 令和元年度博物館入館者数(1月末現在)について
- ④ 令和2年度当初予算(案)について

Ⅲ 利用状況

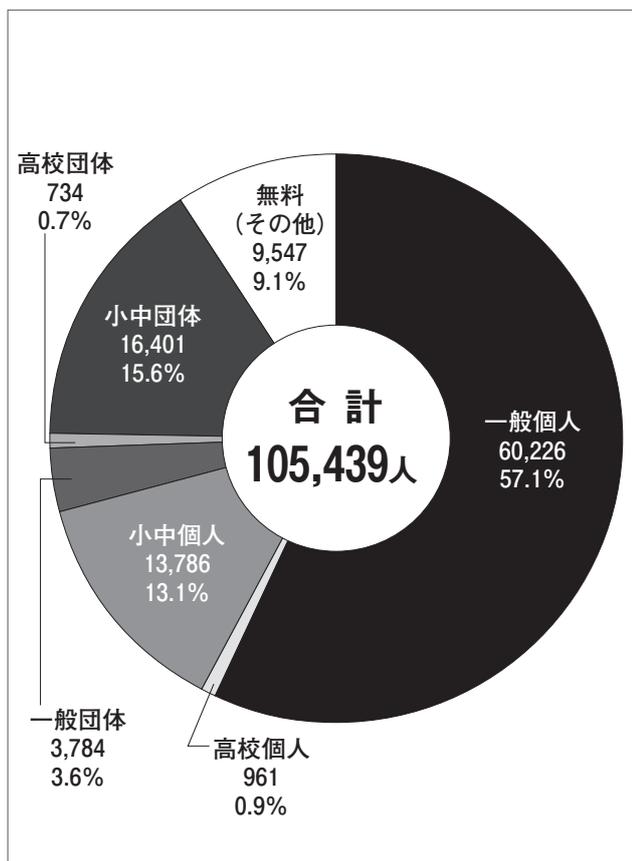
1. 入館者統計

(1) 令和元年度入館者統計

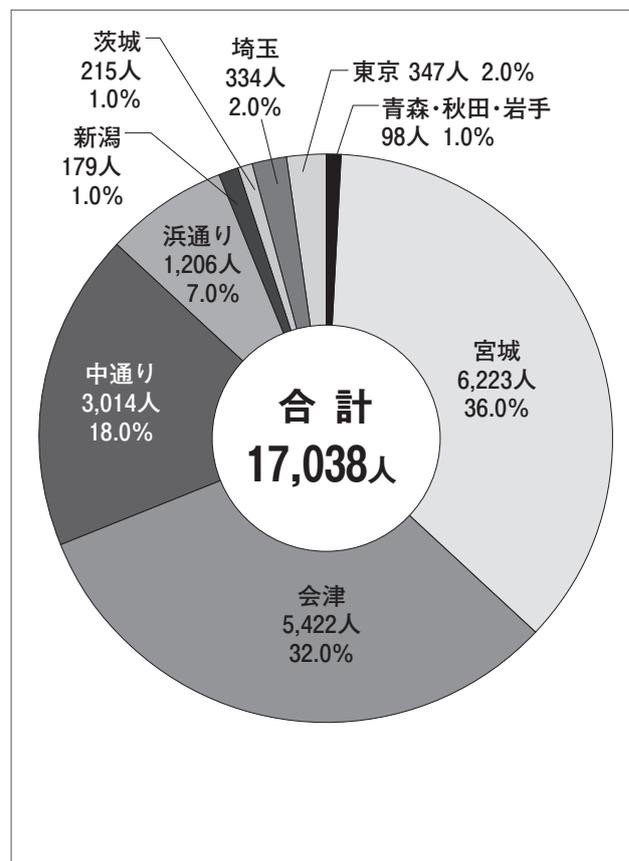
月別区分別入館者数

月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料 人数	無料		日数	有料 人数	無料 人数	日数	人数	
			小中高校生 人数	その他 人数						
4	26	1,719	1,693	1,378	4	281	137	26	5,208	4.9%
5	27	1,619	3,258	702	27	651	2,160	27	8,390	7.9%
6	25	1,255	6,077	706	7	206	1,275	25	9,519	9.0%
7	26	2,912	1,369	610	22	19,316	2,365	26	26,572	25.2%
8	28	4,087	1,190	1,071	17	16,963	2,567	28	25,878	24.6%
9	26	1,659	4,710	953	21	1,029	2,623	26	10,974	10.4%
10	27	1,307	1,932	603	27	1,262	1,635	27	6,739	6.4%
11	26	1,546	1,002	618	15	1,220	939	26	5,325	5.1%
12	22	718	311	106				22	1,135	1.1%
1	23	738	238	118				23	1,094	1.0%
2	25	946	313	1,055				25	2,314	2.2%
3	26	860	311	1,120				26	2,291	2.2%
合計	307	19,366	22,404	9,040	140	40,928	13,701	307	105,439	100.0%

令和元年度入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

入館者の推移（年度別・月別）

（単位：人）

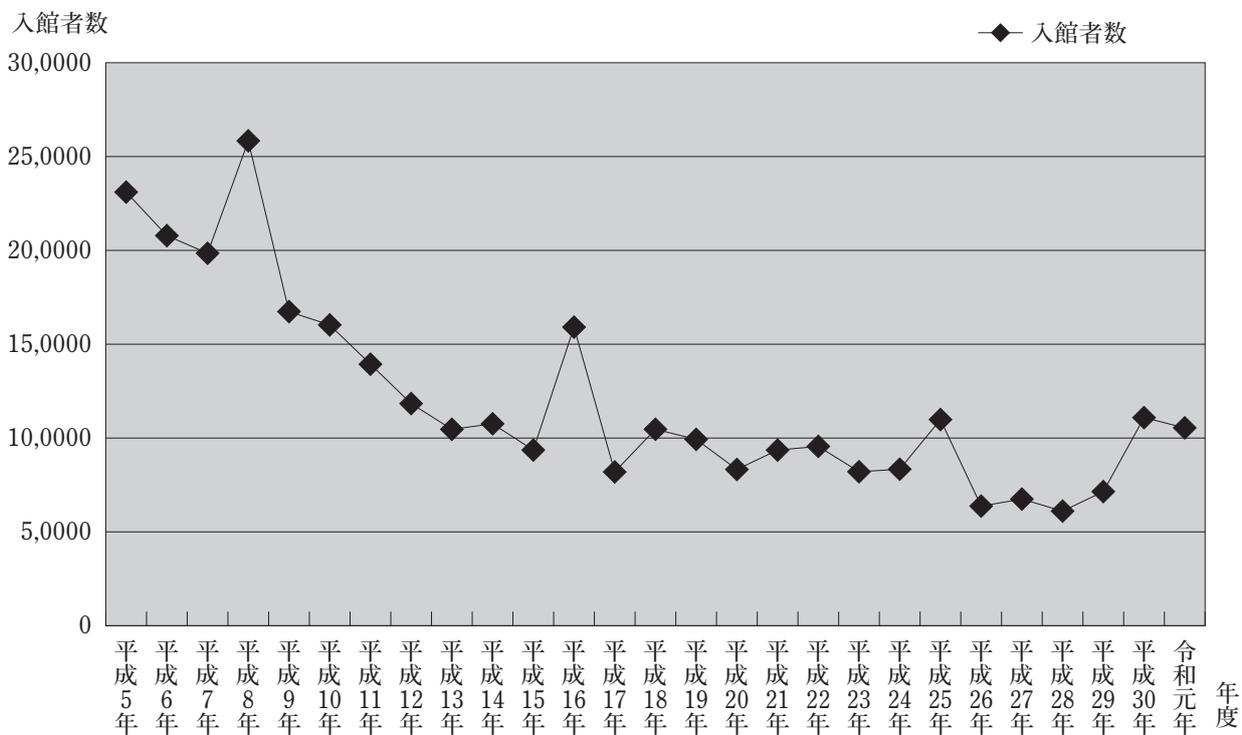
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計	
昭和61年																		122,481
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	31,758	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	133	921	20,414	122,481	
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	5,548	4,010	7,653	7,878	259,751	297	875	21,646	382,232	
平成元年	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,873	217,590	296	735	18,133	599,822	
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	1,067,976	
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983	
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969	
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038	
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905	
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371	
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739	
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109	
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387	
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734	
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103	
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754	
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340	
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954	
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065	
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020	
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706	
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006	
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281	
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877	
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433	
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481	
24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882	
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720	
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459	
27年	5,215	12,117	10,507	3,520	4,873	7,621	5,375	4,543	1,552	2,492	4,502	5,173	67,490	309	218	5,624	4,456,949	
28年	5,006	7,101	9,290	4,037	5,551	14,131	5,014	2,792	1,082	886	2,512	3,671	61,073	303	202	5,089	4,518,022	
29年	5,020	8,018	10,104	4,156	8,932	9,709	7,339	4,774	2,555	3,716	3,365	3,775	71,463	306	234	5,955	4,589,485	
30年	4,898	8,589	13,353	14,686	24,285	22,000	10,084	4,762	1,416	915	2,090	3,825	110,903	306	362	9,242	4,700,388	
令和元年	5,208	8,390	9,519	26,572	25,878	10,974	6,739	5,325	1,135	1,094	2,314	2,291	105,439	307	343	8,787	4,805,827	
平均	11,601	25,513	17,185	11,279	18,429	15,358	17,856	12,459	3,190	2,761	5,214	4,603	142,436	296	487	12,179		

利用状況

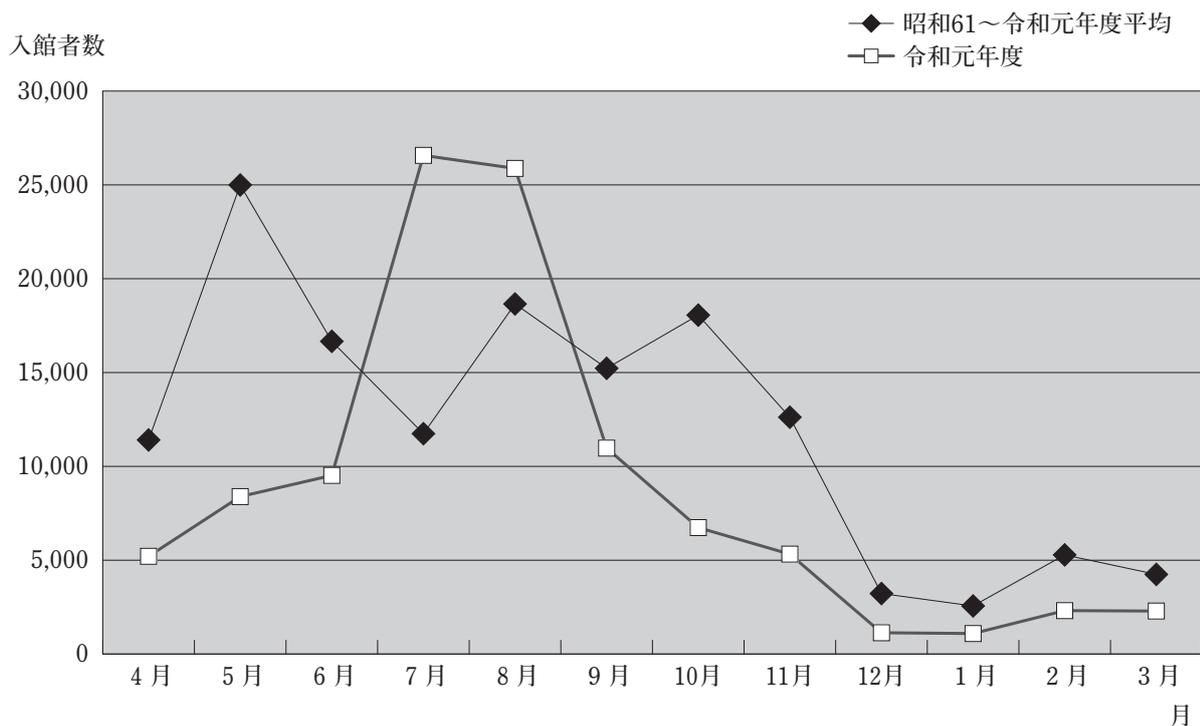
入館者の推移グラフ（年度別月別）

利用
状況

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	垂欧堂田善とその系譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鉱山のあゆみ	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘ふくしま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検 貝化石ワールド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
8	福島 の 山 岳 信 仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44 日	8,931 人	976 人	12,432 人	22,339 人
	地 震 ・ 火 山 ・ 津 波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀 吉 と 桃 山 文 化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近 代 子 ど も の 世 界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄 文 た ん け ん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日 本 の 魚 学 ・ 水 産 学 事 始 め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染 め る	9.10.10～ 9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠 澤 と 探 幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦 国 の 城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発 掘 ふ く し ま 2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天 の 絹 絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日 本 の 美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷 河 時 代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新 弥 生 紀 行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生 の 中 の 死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊 かな る 世 界 へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集 古 十 種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海 獣 パレ オ パラ ド キ シ ア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英 雄 た ち の 系 譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安 積 良 斎 と 門 人 た ち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食 と 考 古 学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武 者 た ち が 通 る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化 石 芸 術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪 村 展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26 日	2,473 人	386 人	647 人	1,424 人	4,930 人
	発掘 ふ く し ま 3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《 笑 い 》 の 想 像 力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊 辰 戦 争 と い ま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	ア ー ト オ ブ ス タ ー ・ ウ ォ ー ズ 展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふ く し ま の 工 芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老 い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚 礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬 と 人 と の 年 代 記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布 の 声 を き く	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
19	樹と竹	19. 7.21~19. 9.17	52日	1,987人	44人	429人	619人	3,079人
	わくわく!化石大集合	19.10. 6~19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19~20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香村	20.10.11~20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10~21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17~22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26~22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9~22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8~23.11.27	43	4,908	28	188	0	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18~24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4. 1~24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14~24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6~24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八重の桜	25. 4.17~25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	875	19,613
	対決!恐竜展	25. 7.27~25. 9.16	46	9,948	273	5,033	2,648	17,902
	考古学からの挑戦	25.10. 5~25.12. 1	50	1,955	11	85	872	2,923
	計		142	25,049	414	10,580	4,395	40,438
26	東北-風土・人・くらし	26. 4.19~26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	アイヌの工芸	26. 7.19~26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	みちのくの観音さま	26.11. 1~26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふるさと会津の人と四季	27. 5. 2~27. 6.21	44				5,992	5,992
	被災地からの考古学	27. 7.18~27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相馬中村藩の人びと	27.10.10~27.11.29	38	1,406	8	34	317	1,765
	計		133	2,924	47	255	6,671	9,897
28	大須賀清光の屏風絵と番付	28. 4.23~28. 6.12	45	2,254	14	201	486	2,955
29	自然をうつす	29. 4.29~29. 6. 4	32	1,291	45	620	483	2,439
	ふくしま5億年の自然史	29. 7.15~29. 9.18	59	3,457	138	2,037	1,005	6,637
	発掘ふくしま4	29.10. 7~29.11.26	44	1,305	455	1,475	506	3,741
	山水憧憬	30. 1.13~30. 2.18	32	3,012	42	209	433	3,696
	計		167	9,065	680	4,341	2,427	16,513
30	匠のふるさと会津	30. 4.28~30. 6.24	50	2,004	134	4,294	625	7,057
	美しき刃たち	30. 7.13~30. 8.19	34	21,581	841	2,853	2,006	27,281
	戊辰戦争150年	30. 9. 1~30.10.14	38	10,544	179	5,412	1,310	17,445
	日本のわざと美	30.10.27~30.12. 2	32	2,298	36	357	486	3,177
	計		154	36,427	1,190	12,916	4,427	54,960
元	とりもどすぎずなつなごるみらい	31. 4.27~元. 6. 9	39	1,138	44	2,920	608	4,710
	興福寺と会津	元. 7. 6~元. 8.18	39	35,926	353	1,807	3,125	41,211
	あにまるず	元. 9. 7~元.11.17	63	3,511	345	4,009	843	8,708
	計		141	40,575	742	8,736	4,576	54,629

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	4	2,400
ふくしまの顔	500	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,000
陸奥の古瓦	400	1	0	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	6	2,400
鉱物の世界	400	3	0	2	3	2	2	0	3	0	0	1	2	18	7,200
縄文の四季	500	2	2	1	1	1	5	2	4	1	0	0	0	19	9,500
まちの成立とにぎわい	500	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	1,500
垂欧堂田善とその系譜	1,000	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	4	4,000
太古の生きものたち	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本の音色	800	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	800
シルクロード紀行	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1,000
縄文絵巻	800	1	5	1	2	2	4	2	3	0	2	0	0	22	17,600
浜通りの仏像	500	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,000
ふくしま鉱山のあゆみ	800	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1	1	7	5,600
マンガ文化の源流	1,000	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	3,000
恐竜のあるいた道	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	500
定信と文晁	1,000	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	5	5,000
明治はじめて物語	500	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1,000
稲とくらし	800	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	800
東北からの弥生文化	800	1	0	1	3	1	0	0	0	1	1	0	0	8	6,400
会津の自然史	800	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1,600
玉堂と春琴・秋琴	1,100	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1,100
げんき・病・元気	800	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1,600
村芝居の世界	900	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	5	4,500
探検具化石ワールド	800	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	4	3,200
海のまくあけ	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島1000年時のかたち	900	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	900
いにしえの木匠	600	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6	3,600
福島の山岳信仰	800	2	0	0	4	3	1	0	0	1	1	1	1	14	11,200
地震・火山・津波	500	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1,000
近代子どもの世界	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
縄文たんけん	900	0	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	6	5,400
日本の魚学・水産学事始め	500	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	1,000
染める	600	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5	3,000
遠澤と探幽	1,300	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	4	5,200
天の絹絲	1,300	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	4	5,200
日本の美	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
氷河時代	700	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	700
新弥生紀行	1,100	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	1	0	5	5,500
生の中の死	900	1	0	1	1	1	1	0	3	0	0	0	0	8	7,200
豊かなる世界へ	600	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	4	2,400
集古十種	1,100	0	1	0	3	7	0	0	2	2	0	2	1	18	19,800
海獣パレオパラドキシア	600	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4	2,400
英雄たちの系譜	500	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	5	2,500
食と考古学	500	3	0	2	1	1	6	5	9	0	1	0	0	28	14,000
肖像にみる福島を築いた人々	900	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4	3,600
武者たちが通る	400	4	0	3	2	0	2	3	1	0	1	0	1	17	6,800
発掘ふくしま3	600	2	0	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	8	4,800
笑いの想像力	1,000	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000
老い	1,000	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000
婚	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
馬と人との年代記	800	0	0	1	0	1	3	3	5	0	0	0	0	13	10,400

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
布の声をきく	700	1	0	0	0	2	1	0	2	1	0	0	1	8	5,600
徳川将軍家と会津松平家	600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
樹と竹	600	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	5	3,000
わくわく!化石大集合	400	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	800
会津磐梯山	500	9	7	5	33	23	7	5	7	0	5	14	2	117	58,500
遠藤香村	800	0	0	2	4	2	5	1	1	0	0	2	0	17	13,600
岡本太郎の博物館	500	0	0	1	0	8	0	1	7	0	2	0	0	19	9,500
千少庵と蒲生氏郷	500	1	1	1	1	1	1	2	2	0	0	0	1	11	5,500
漆のチカラ	800	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6	4,800
保科正之の時代	1,000	3	0	0	2	6	3	0	2	1	1	0	1	19	19,000
恐竜時代のふくしま	500	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	5	2,500
会津の寺宝	1,000	0	1	1	9	5	0	0	1	0	2	0	0	19	19,000
八重の桜	2,000	2	0	0	3	1	1	1	0	0	0	0	0	8	16,000
対決!恐竜展ガイドブック	300	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	4	1,200
恐竜展2011 ポプラディア完全ガイド	500	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	500
恐竜博2011 公式図録	2,000	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	4,000
考古学からの挑戦	900	1	0	2	2	1	0	0	2	0	1	0	3	12	10,800
アイヌの工芸	1,000	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2,000
被災地からの考古学1	200	1	1	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	7	1,400
相馬中村藩の人びと	700	1	0	2	5	6	3	1	0	0	1	1	1	21	14,700
大須賀清光の屏風絵と番付	700	0	0	0	0	2	29	9	1	0	1	0	1	43	30,100
自然をうつす	900	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	4	3,600
ふくしま5億年の自然史	600	1	1	0	4	1	3	1	1	0	1	0	0	13	7,800
発掘ふくしま4	900	2	1	3	5	1	1	0	1	0	1	1	2	18	16,200
山水憧憬	1,000	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	3,000
匠のふるさと会津	800	0	1	1	3	1	2	2	0	2	0	1	2	15	12,000
日本のわざと美	2,000	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4,000
あにまるず	500	0	0	0	0	0	105	265	329	12	7	6	12	736	368,000
紀要(数量)		8	8	3	17	12	3	2	1	1	3	3	14	75	
紀要(金額)		5,060	7,800	1,800	14,510	9,560	2,760	1,600	600	600	1,800	1,800	8,600		56,490
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	1	1	1	15	9	1	2	1	1	0	0	0	32	41,600
福島 of 古墳	1,200	17	7	4	7	10	2	2	4	1	0	1	2	57	68,400
福島 of 化石	1,500	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3,000
戦時下の福島	800	0	2	3	1	2	0	2	0	0	0	1	0	11	8,800
福島の年中行事	1,100	0	1	2	5	1	1	0	0	0	1	0	0	11	12,100
ガイドブック	300	23	5	8	7	20	0	0	0	0	0	0	0	63	18,900
手引き(小)	700	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	2,100
常世原田遺跡	600	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	600
ふくしまの農具	1,000	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4	4,000
報告書(数量)		6	7	8	23	17	6	3	1	3	5	5	22	106	
報告書(金額)		5,300	5,200	6,800	25,800	22,300	6,000	2,700	1,500	3,600	4,600	4,400	14,000		102,200
絵葉書	50	22	12	36	49	40	6	0	26	4	18	24	8	245	12,250
遠藤香村クリアホルダー	200	4	0	1	4	2	1	1	0	0	0	2	0	15	3,000
斎藤一ファイル	300	44	3	1	10	22	21	0	10	0	0	0	0	111	33,300
勾玉セット	200	0	0	0	0	0	6	40	0	0	0	0	0	46	9,200
文化の力	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ポケットミュージアム	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一筆箋	350	0	0	0	3	1	1	5	1	0	0	0	3	14	4,900
齋藤清絵はがきセット	350	0	2	0	4	5	2	4	6	3	1	0	0	27	9,450
あにまるず野帳	300	0	0	0	0	0	7	108	142	8	6	7	6	284	85,200
	350	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	19	6,650
体験学習材料費	100	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1,200
	2,300	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	12	27,600
合計		180	83	111	299	247	252	484	596	58	68	79	96	2,553	1,349,340

利用状況

IV 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年 3 月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成9年条例第52号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年条例第93号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成15年条例第53号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成25年条例第119号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成28年条例第53号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成30年条例第46号)

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年条例第48号）

この条例は、平成31年10月1日から施行する。

附 則（令和2年条例第25号）

この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

区 分	普通観覧料の額 （一人当たり）		特別観覧料の額	年間観覧料の額（同一人が 有効期間内に利用する場合）
	個人	団体		
一般（大学生を含む。）	280円	220円	その都度知事が定める額	3,300円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者			その都度知事が定める額	1,980円の範囲内で知事が定める額
中学生、小学生及びこれらに準ずる者			その都度知事が定める額	1,320円の範囲内で知事が定める額

備考

- 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品を観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは企画による展示品を観覧する場合（常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。）の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

（昭和61年3月25日 条例第31号）

（設 置）

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組 織）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。

（委員の任命及び任期）

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（庶 務）

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

（雑 則）

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成24年条例第43号）

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命されている福島県立博物館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命された福島県立博物館運営協議会の委員とみなす。

福島県立博物館条例施行規則

（昭和61年3月25日 教育委員会規則第5号）

（休館日）

第1条 福島県立博物館（以下「博物館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

- 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。

- 2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
 - 3 1月1日から同月4日まで
 - 4 12月28日から同月31日まで
- 2 博物館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

（開館時間）

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

（観覧手続）

第3条 館長は、福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（様式第1号）を交付するものとする。

- 2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（様式第1号の2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券の交付の日から起算して1年とする。
 - 2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。
 - 3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

（観覧料の免除及びその手続）

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額（引率者にあつては全額）
3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。

（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

- 1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額
 - 2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額
- 2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和61年4月1日から施行する。（令2教委規則8・旧附則・一部改正）
- 2 第3条の2第1項の有効期間中に工事により休館する期間がある場合は、その期間を1年に加算した期間を同項の有効期間とする。（令2教委規則8・追加）

附 則（昭和63年教委規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年教委規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年教委規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年教委規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年教委規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成30年教育委員会規則第7号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（令和2年教委規則第8号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額) 福島県立博物館	観 覧 券 (観覧者の区分) (金 額) 福島県立博物館
---	---

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第1号の2（第3条の2関係）

(表)

年間観覧券 福島県立博物館

(裏)

(交付番号)	(観覧者の区分)
(有 効 期 間)	
御利用に際して	
1 福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。	
2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。	
3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。	
(氏 名)	
(学 校 名) (学 年)	
福島県立博物館	

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及
び代表者の氏名
観覧料免除申請書

印

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円※		※ 円※		
上記のとおり承認してよろしい。				第 年 月 日
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号
年 月 日

様

福島県立博物館長

印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
注 意 事 項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及
び代表者の氏名
観覧料返還申請書

印

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の 区分及び金額	区 分	人 数	金 額	額
		人		円
	合 計			
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円※		※ 円※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	
受 付 月 日	・ ・	決 裁 月 日	・ ・	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の收受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職	務
主幹	上司の命を受け、特に指示された事務を掌理する。	
事務長	上司の命を受け、副館長を補佐し、博物館の事務を処理する。	
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理し、並びに担当する事務を取りまとめ、及び整理する。	
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。	
副主任主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。	
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。	
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。	

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成6年教委規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成13年教委規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第8号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第11号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和2年教委規則第5号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

- 2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。
- 3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
- 4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

- 2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
- 3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

- 2 展示委員は次の任務を遂行する。
 - （1）展示計画原案の作成
 - （2）展示計画作成のための基礎的資料の収集
 - （3）展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
 - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
 - ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
 - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
- 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。

- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事 長	1名
会 計	2名
幹 事	若干名(各サークルの代表者は、本会の幹事となる。)
監 事	2名

- 2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

- 2 補欠のため任ぜられた役員は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
- 4 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。
- 6 会計は、本会の会計業務一切を主務とする。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

- 2 役員会は、必要のつど会長が招集する。
- 3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。
- 4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

- 2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

- 2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)
- 3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)
- 4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)
- 5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)
- 6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)
- 7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)
- 8 この規約は、平成27年3月26日から施行する。(第6条、第8条第3項・4項関係)
- 9 この規約は、平成28年4月1日から施行する。(第6条第1項関係・第8条3項関係)
- 10 この規約は、平成30年3月17日から施行する。(第6条第1項・第8条第6項関係)
- 11 この規約は、令和2年3月22日から施行する。(第11条、第12条、第14条関係)

V 施設の概要

1. 建築概要

設計者	(株)佐藤武夫設計事務所
工事監理	福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所
施工者	建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株)
共同企業体	電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備)工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)
面積	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1階 9,980.45㎡ 2階 1,090.99㎡
建築事業費	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739
規模	地上2階
最高の高さ	20.6m
最高の軒高	13.6m
地域地区	住居地域 風致地区第1種

構造	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
外部仕上げ	屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャスト トコンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ
内部仕上げ	(エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1・3・6収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12m/m 壁 杉板厚12m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12m/m 本実張 (第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第4収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12m/m 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板
工期	着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日

施設の概要

2. 設備

電気設備

- 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz
変圧器容量(業務用)1575KVA
(冬季用)400KVA
- 非常用電源 発電機 3相3線式6.6KV 50Hz
400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ
AH-PE200AH86セル
- その他 電話設備、インターホン設備、TV共同視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放送設備、ITV監視設備
- 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック

空調設備

- 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファン
コイル ユニット方式
- 熱源設備 ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2
ガス焚鉄セクショナルボイラー
(396.00Kcal/H) 水冷式チーリングユニット(120RT)

衛生設備

- 給水 市水道 受水槽：50㎡
- 消火設備 (屋内)スプリンクラーとハロン消化設備の併用、(屋外)野外消火栓

昇降機設備

- 油圧式エレベーター定格荷重：3t1基
油圧式リフト 定格荷重：2t1基

融雪設備

- ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組み合わせにより自動運転または手動運転。

監視設備

- 分散形総合監理制御システムにより、受電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。

電話設備

- 電子交換外線3回線 内線64回線
受信盤P型1級 60回線(自火報)33回線(防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、排煙区画8系統、平面地図盤(照光式)により表示

各室面積表

室名	面積(㎡)	備考	室名	面積(㎡)	備考
収蔵スペース	2,294.8 (㎡)		応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.0		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
民俗作業室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用(1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース	788.3 (㎡)		機械スペース	1,253.1 (㎡)	
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
歴史作業室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース	2,815.1 (㎡)		ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース	2,507.54 (㎡)	
教育普及スペース	693.1 (㎡)		エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース	719.5 (㎡)		その他	1,202.64	
事務室	166.1		計	11,071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場 2 台分）（～9.3.19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11.20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12.17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10.4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～3.17） スプリンクラーヘッド交換工事（～3.17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～3.23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～3.23）
平成19年 2月21日	ウォッシュレット取付け工事（～3.19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～3.24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～12.25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22.2.26）
2月17日	企画展示室改修工事（～3.29）
11月16日	中央監視システム更新工事（～23.4.25）
11月26日	空調熱源機器改修工事（～23.4.22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～4.25）
平成27年 9月 1日	冷房暖房設備改修工事（～11.24）
平成27年 9月 2日	シャッター撤去・新設工事（～10.15）
平成28年 9月13日	冷却塔外改修工事（～29.3.10）
平成29年11月 1日	非常用電気設備触媒栓交換修繕（～12.27）
平成30年 3月27日	屋根等改修工事（～30.12.14）
平成30年 9月11日	温水ボイラー修繕（～30.9.27）
平成30年 9月15日	中央監視システム修繕（～30.11.1）
令和元年 8月19日	自動火災報知器設備更新工事（～2.1.9）

5. 沿革

《開館にいたるまで》

昭和52年	5月13日	文化を考える県民会議の設置
	6～8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年	1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
	7月26日	第1回文化振興会議開催
昭和54年	2月2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
	3月19日	文化施設等整備基金条例制定
	4月1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
	2月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年	4月1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年	1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
	2月3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年	2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年	7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年	6月8日	建設工事契約（株清水建設仙台支店・株会津土建・株秋山建設による共同企業体）
	7月7日	県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
	7月10日	展示工事委託契約（株トータルメディア開発研究所・株乃村工藝社・株丹青社による共同企業体）
	7月13日	展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年	3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
	3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
	4月1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
	10月1日	展示解説員19名採用
	10月18日	県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年	11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年	8月21日	入館者50万人達成
平成元年	3月10日	友の会設立
平成2年	10月7日	入館者100万人達成
平成4年	3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成5年	4月1日	展示解説員22名となる
平成7年	5月5日	入館者200万人達成
平成8年	10月5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年	10月15日	入館者300万人達成
平成13年	1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年	3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
平成15年	3月24日	博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
	3月28日	高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催
	3月31日	高橋富雄館長退任
	4月1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任 前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年	4月8日	赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成17年	5月6日	入館者350万人達成
平成18年	9月29日	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年	7月	福島県立博物館の使命を策定し公表

平成19年 7月21日	当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から」を開催
平成20年 7月19日	磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
平成22年 6月26日	県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶーふくしまの森林文化ー」を開催
平成23年 3月11日	宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館
平成24年 5月15日	「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
平成25年 5月17日	2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
11月27日	「博物館ニュース」創刊から400号達成
平成27年 5月 2日	福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展示「ふるさと会津の人と四季ー福島県立美術館名品展ー」を共催
平成28年10月15日	博物館開館30周年記念式典を開催 開館30周年記念特集展「収蔵庫からこんにちは」を開催
平成29年 3月26日	福島県財務規則の改訂により博物館資料「震災遺産類」追加される
令和元年10月12日	令和元年東日本台風（令和元年台風19号）
令和 2年 3月19日	赤坂憲雄館長 最後の「館長講座」開催
3月31日	赤坂憲雄館長退任

VI 利用案内

●開館時間

午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分まで）

●休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内メンテナンスのために臨時に休館することがあります。

●観覧料

- ◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生270円（210円） 高校生以下は無料
- *令和元年10月1日から 一般・大学生280円（220円）
- ◎企画展 そのつど定めます。
- ◎年間パスポート（購入日より1年間有効）
一般・大学生1,500円
- ★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は事前の申請により常設展料金の減免を受けることができます。
- ★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料
また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。
- ★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は常設展のみ無料。
- ★展示室以外の入館は無料。

●令和元年度 常設展無料開放日

5月5日（こどもの日）／8月21日（県民の日）／9月16日（敬老の日）／11月3日（文化の日）

●交通案内



◎会津若松駅より約3km

◎市内バス利用の場合

- ①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分
- ②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分

●体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

●講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第34号

令和2年12月25日 印刷

令和2年12月25日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<https://general-museum.fcs.ed.jp/>

印刷 北斗印刷株式会社

〒965-0052 会津若松市町北町大字始字深町67-2

TEL (0242) 32-2366

この年報の本文は再生紙を使用しています。

